

文部科学省認可通信教育

レポート課題集

A-II 社福・精保指定科目編

2022

2021年度 1年次入学者、
2022年度 1・2年次(編)入学者用

II



東北福祉大学 通信教育部
TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY

2022

レポート課題集



A-II

社福・精保指定科目編

2021年度1年次入学者、2022年度1・2年次(編)入学者用

このレポート課題集掲載のレポート課題の提出期限：
2024年9月30日到着分まで
変更があれば『With』などでご案内します。



東北福祉大学通信教育部

目次

レポートのルール

Ⅰ	レポート学習とは.....	7
Ⅱ	レポート提出上のルール	8
Ⅲ	レポート提出台紙の使用方法	11
Ⅳ	客観式レポート	13
Ⅴ	レポート課題集の活用方法	14

社会福祉士・精神保健福祉士 指定科目（2021年度以降入学者対象）

科目コード	科目名	ページ	社福	精保
CB3078	医学概論	18	●	○
CC2068	福祉心理学	19	●	○
CC2169	社会学と社会システム	25	●	○
CC3085	社会福祉原論A	30	●	○
CC3086	社会福祉原論B	36	●	○
CC3087	ソーシャルワークの基盤と専門職	42	●	○
CE3090	権利擁護を支える法制度	48	●	○
CC3091	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	52	●	○
CC3092	社会福祉調査の基礎	58	●	-
CC3093	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	64	●	○
CC3094	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	68	●	○
CC3095	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	73	●	-
CC3096	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	79	●	-
CC3097	地域福祉と包括的支援体制A	84	●	○
CC3098	地域福祉と包括的支援体制B	88	●	○
CD2170	高齢者福祉	92	●	-
CD2171	障害者福祉	97	●	○
CD2172	児童・家庭福祉	103	●	-
CF3174	刑事司法と福祉	108	●	○
CN3251	ソーシャルワーク演習（社会福祉士）	112	●	-
CW3283	ソーシャルワーク演習（精神保健福祉士）	120	-	○
CQ3180	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	128	-	○
CQ3181	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	132	-	○
CR3182	精神保健福祉の原理Ⅰ	136	-	○
CR3183	精神保健福祉の原理Ⅱ	141	-	○
CT3186	精神障害リハビリテーション論	146	-	○
CT3187	精神保健福祉制度論	152	-	○

下記の科目は2023年度以降の『レポート課題集』に掲載される予定です。

科目コード	科目名	社福	精保
CD4088	社会保障論Ⅰ	●	○
CD4089	社会保障論Ⅱ	●	○
CA4108	公的扶助論	●	-
CC4099	福祉サービスの組織と経営	●	-
CE4173	保健医療と福祉	●	-
CN4252	ソーシャルワーク演習Ⅰ	●	-
CN4253	ソーシャルワーク演習Ⅱ	●	-
CP4254	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	●	-
CP5255	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	●	-
CP4256	ソーシャルワーク実習Ⅰ	●	-
CP5257	ソーシャルワーク実習Ⅱ	●	-
CQ4178	精神医学と精神医療Ⅰ		○
CQ4179	精神医学と精神医療Ⅱ		○
CS4184	ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅰ		○
CS4185	ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅱ		○
CW5258	精神保健福祉演習Ⅰ		○
CW5259	精神保健福祉演習Ⅱ		○
CX4260	精神保健福祉実習指導Ⅰ		○
CX5261	精神保健福祉実習指導Ⅱ		○
CX4262	精神保健福祉実習Ⅰ		○
CX5263	精神保健福祉実習Ⅱ	-	○

『レポート課題集』の構成

掲載冊子・ページは、次ページ以降の「科目別索引」で探してください。

■2021年度版の冊子を発行するもの（PDF版も通信教育部ホームページに掲載）

A-I	社福・精保指定科目編	
A-II	社福・精保指定科目編	本冊子
B	共通基礎・福祉専門編	
C	心理専門編	

■2021年度版の冊子を発行しないもの

各科目の関連を示した履修系統図は、2018～2021年度入学者は、それぞれの入学年度の『学習の手引き』を、2017年度以前入学者は『レポート課題集C（心理専門編）2017』p.204～207を参照してください。

目次・索引の科目名に付随するマークについて

2009～	2009年度以降入学者（2021年度1年次入学者、2022年度1・2年次（編）入学者を除く）履修可能
～2011	2011年度以前入学者履修可能
2012～	2012年度以降入学者（2021年度1年次入学者、2022年度1・2年次（編）入学者を除く）履修可能
～2017	2017年度以前入学者履修可能
2018～	2018年度以降入学者履修可能
～2020	2020年度以前入学者、2021年度2・3年次編入学者、2022年度3年次編入学履修可能
2021新～	2021年度1年次入学者、2022年度1・2年次（編）入学者履修可能

科目別索引

※ページ数が記載されていない科目は、下記でご確認ください。

A-I	社福・精保指定科目編（2021年度1年次入学者は対象外）
A-II	社福・精保指定科目編（2021年度1年次入学者、2022年度1・2年次（編）入学者用）
B	共通基礎・福祉専門編
C	心理専門編

ア行

CC3079	2009～ 医学一般	A-I
CB3078	2021新～ 医学概論	18
DF3147	医療・福祉経済論	B
DE2113	NPO論	B

カ行

CL2065	2009～ 介護概論	A-I
EA4193	2009～ 介護技術	学習期間終了
EB4903	介護実習	学習期間終了
EB4701・EB4741	介護実習事前事後指導	学習期間終了
DD2241	2021新～ 介護論	B
EC3708	カウンセリング（教職免許状取得希望者向け）	学習期間終了
FG2682	カウンセリングⅠ	C
FG2683	カウンセリングⅡ	C
FG3695	カウンセリング演習Ⅰ	C
FG3696	カウンセリング演習Ⅱ	C
AB1020・AB1041	～2017 科学的な見方・考え方	B
AB1032	科学的な見方・考え方	B
FH3561	2018～ 学習・言語心理学	C
FH3512	～2017 学習心理学	C
FC2515	～2017 家族心理学	C
DH3144・DH3164	家族法	B
FC3504	～2017 環境心理学	学習期間終了
AH1018	観光と文化	学習期間終了
FF3550	2018～ 感情・人格心理学	C
AB1033	基礎演習	B
AB1145・DA2145	～2017 基礎演習	B
FE2547	2018～ 教育・学校心理学A（教育心理学）	C
FE3548	教育・学校心理学B（学校心理学）	C
FE2513	～2017 教育心理学	C
EC2301	教育原理	学習期間終了
AH1037	教育の歴史と思想	B
EC3706	教育方法論（視聴覚教育等を含む）	学習期間終了
EC2702	教職論	学習期間終了
DD4124・DD4196	ケアマネジメント論	B
CF3174	2021新～ 刑事司法と福祉	108
EG4734	（軽度）発達障害教育総論	学習期間終了
EG4733	（軽度）発達障害者の心理	学習期間終了

FF4559	健康・医療心理学	C
AK1016	～2017 健康科学	学習期間終了
EG4736	言語障害教育	学習期間終了
CR3180	2021新～ 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	128
CR3181	2021新～ 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	132
CE3090	2021新～ 権利擁護を支える法制度	48
DF3110	公衆衛生学	B
CM3069	2009～ 更生保護制度論	A-I
CA4108	～2020 公的扶助論	A-I
EC3703	高等学校教育課程の意義と編成	学習期間終了
CD2170	2021新～ 高齢者福祉	92
CL2064	2009～ 高齢者福祉論	A-I
DH4115	国際福祉論	B
AL1011	コミュニケーション英語	B
EG4736	コミュニケーション障害教育→言語障害教育	学習期間終了

サ行

FF3565	災害・防災心理学	C
FG3680	産業カウンセリングⅠ	学習期間終了
FG3681	産業カウンセリングⅡ	学習期間終了
FC2523	～2017 産業心理学	学習期間終了
FC3542	産業・組織心理学	C
EG3737	視覚障害教育総論	学習期間終了
EF3719	肢体不自由教育	学習期間終了
EE4723	肢体不自由者の心理、生理・病理	学習期間終了
CD2172	2021新～ 児童・家庭福祉	103
CL2066	2009～ 児童・家庭福祉論	A-I
FD2516・FD2527	児童青年心理学	C
EG4735	自閉症教育総論	学習期間終了
FF3551	司法・犯罪心理学	C
CC2169	2021新～ 社会学と社会システム	25
FC2540	2018～ 社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）	C
FC2541	2018～ 社会・集団・家族心理学B（家族心理学）	C
FC2514	～2017 社会心理学	C
CE4073	2009～ 社会調査の基礎	A-I
CN3082	2009～ 社会福祉援助技術演習A	A-I
CN4083	2009～ 社会福祉援助技術演習B	A-I
CN5084	2009～ 社会福祉援助技術演習C	A-I
CP5907	2009～ 社会福祉援助技術実習	A-I
CP3190	2009～ 社会福祉援助技術実習指導A	A-I
CP5191	2009～ 社会福祉援助技術実習指導B	A-I
CE3070	2009～ 社会福祉援助技術総論	A-I
CE3071	2009～ 社会福祉援助技術論A	A-I
CE3072	2009～ 社会福祉援助技術論B	A-I

AH1050	社会福祉学入門	B
CC3085	2021新～社会福祉原論A	30
CC3086	2021新～社会福祉原論B	36
CA3104	～2020 社会福祉原論(職業指導を含む)	A-I
CC3092	2021新～社会福祉調査の基礎	58
DA2050	社会福祉の基礎	B
DH4111・DH4165	社会福祉法制	B
CA4107	～2020 社会保障論	A-I
CM4076	～2020 就労支援サービス論	A-I
FE3518	～2017 障害児の心理	学習期間終了
EH4906	障害者教育実習	学習期間終了
EH4740	障害者教育実習の事前・事後指導	学習期間終了
ED3718	障害者教育総論	学習期間終了
FE3549	障害者・障害児心理学	C
CD2171	2021新～障害者福祉	97
CD2118	～2020 障害者福祉論	A-I
EA2195	～2017 障害の理解	学習期間終了
FD2502・FD2563	～2017 生涯発達心理学	C
AB1332	～2017 情報処理Ⅰ	学習期間終了
AB1034	情報処理の基礎	B
DK4692	職場のメンタルヘルス	学習期間終了
FF2511・FF2528	～2017 人格心理学	C
FJ3562	神経・生理心理学	C
AH1049	人権と福祉	B
CC3081	2018～人体の構造と機能及び疾病	A-I
DK3690	人的資源論	学習期間終了
FF2519	～2017 心理アセスメント	C
FA2501	～2017 心理学概論	C
FA2531	2018～心理学概論A	C
FA2532	2018～心理学概論B	C
FB3508	～2017 心理学研究法Ⅰ	C
FB3509	～2017 心理学研究法Ⅱ	学習期間終了
FB3538	2018～心理学研究法A	C
FB4539	心理学研究法B	C
FB2505	～2017 心理学実験Ⅰ	C
FB2533	2018～心理学実験ⅠA	C
FB2534	2018～心理学実験ⅠB	C
FB2506	～2017 心理学実験Ⅱ	C
FB3535	2018～心理学実験ⅡA	C
FB3536	2018～心理学実験ⅡB	C
FF3554	2018～心理学的支援法Ⅰ	C
FF3557	2018～心理学的支援法Ⅱ	C
FF4558	2018～心理学的支援法Ⅲ	C
FB3537	心理学統計法	C
FF3553	2018～心理的アセスメントⅠ	C
FF4556	心理的アセスメントⅡ	C
FF3520	～2017 心理療法	C
FF3521	～2017 心理療法各論	C
AK1040	睡眠改善学	B
AS1024	スポーツ(バレーボール)	学習期間終了
AS1023	スポーツ(バレーボール)	学習期間終了
AS1043	スポーツの心理学	B
EA3194	～2017 生活行動と人体	学習期間終了
AH1026	政治学の基礎	学習期間終了
CQ4140	～2020 精神医学	A-I
CS4139	～2020 精神科リハビリテーション学	A-I
CQ4166	2018～精神疾患とその治療Ⅰ	A-I
CQ4167	2018～精神疾患とその治療Ⅱ	A-I
CJ3151	2012～精神障害者の生活支援システム	A-I
CT3186	2021新～精神障害リハビリテーション論	146
CQ3136	～2020 精神保健学	A-I
CW4141	～2011 精神保健福祉援助演習	A-I
CW3157	2012～精神保健福祉援助演習A	A-I
CW4158	2012～精神保健福祉援助演習B	A-I
CW5159	2012～精神保健福祉援助演習C	A-I
CR3138・CR3148	～2011 精神保健福祉援助技術各論	A-I
CR3156	2012～精神保健福祉援助技術各論	A-I
CR3153	2012～精神保健福祉援助技術総論Ⅰ	A-I
CR3154	2012～精神保健福祉援助技術総論Ⅱ	A-I
CR3137	～2011 精神保健福祉援助技術総論	A-I
CX5902	～2011 精神保健福祉援助実習	A-I
CX4908	2012～精神保健福祉援助実習A	A-I
CX5909	2012～精神保健福祉援助実習B	A-I
CX4188	2012～精神保健福祉援助実習指導A	A-I
CX5189	2012～精神保健福祉援助実習指導B	A-I
CT3187	2021新～精神保健福祉制度論	152
CR3182	2021新～精神保健福祉の原理Ⅰ	136
CR3183	2021新～精神保健福祉の原理Ⅱ	141
CT3150	2012～精神保健福祉のサービス	A-I
CT4152	2012～精神保健福祉の制度	A-I
CS3155	2012～精神保健福祉の理論	A-I
CS3133	～2011 精神保健福祉論Ⅰ	A-I
CT3134	～2011 精神保健福祉論Ⅱ	A-I
CT4135	～2011 精神保健福祉論Ⅲ	A-I
EC3707	生徒指導論(進路指導を含む)	学習期間終了
AK1039	生命の科学	B
AK1005・AK1042	～2017 生命の科学	B
AA1001	～2017 禅のこころ	学習期間終了
AA1031	禅のこころ	B
EC4709	総合演習	学習期間終了
CN3251	2021新～ソーシャルワーク演習(社会福祉士)	112
CW3283	2021新～ソーシャルワーク演習(精神保健福祉士)	120
CC3087	2021新～ソーシャルワークの基盤と専門職	42
CC3091	2021新～ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	52
CC3093	2021新～ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	64
CC3095	2021新～ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	68
CC3094	2021新～ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	73
CC3096	2021新～ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	79
ZZ5991	卒業研究	B・C

タ 行

CC3097	2021新～地域福祉と包括的支援体制A	84
CC3098	2021新～地域福祉と包括的支援体制B	88
CA3105	～2020 地域福祉論	A-I
FH3560	2018～知覚・認知心理学	C
EF3727	知的障害教育	学習期間終了
EE4721	知的障害者の心理	学習期間終了
EE4722	知的障害者の生理・病理	学習期間終了
DD3119	知的障害者福祉論	履修登録終了
DD3242	知的障害のある人とのソーシャルワーク	B
EF3730	聴覚障害教育	学習期間終了
EE4725	聴覚障害者の心理	学習期間終了

EE4726	聴覚障害者の生理・病理	学習期間終了
EG4732	重複障害教育総論	学習期間終了
AB1035	データ分析とプレゼンテーション技法	B
AB1146・DA3146	統計情報を見る眼	B・C
EC3705	特別活動の指導法	学習期間終了
ET3771	特別支援教育支援員概論	学習期間終了
AT1029	特講（地域と生活）	B
DT2201	特講・社会福祉学1（介護保険と社会福祉士の課題）	B
DT5205	特講・社会福祉学5	学習期間終了
DT5206	特講・社会福祉学6	学習期間終了
DT2210	特講・社会福祉学10（スクール・ソーシャルワーク論）	B
DD2221	特講・社会福祉学21（コミュニティ・ソーシャルワークⅢ）	B
DT2222	特講・社会福祉学22（精神科多職種アウトリーチ支援）	B
DT2250	特講（防災土研修講座）	B
FT2605	特講・福祉心理学5（自分さがしの心理学）	C
FT2608	特講・福祉心理学8（ストレスとつきあう心理学）	C
FT2609	特講・福祉心理学9（コミュニティ心理学）	C
FT2617	特講・福祉心理学17（認知行動療法）	C

ナ行

FC2689	人間関係論	C
AH1017・AH1025	～2017 人間と教育	B
DD2215	認知症介護論	B
FH3510・FH3530	～2017 認知心理学	C

ハ行

EG4734	発達障害教育総論	学習期間終了
EG4733	発達障害者の心理	学習期間終了
DD2211	発達障害者の地域支援	B
DD3161・DD3168	発達障害者の理解と支援	B
FD3543	2018～ 発達心理学	C
FD3546	発達臨床心理学	C
FF3524	～2017 犯罪非行心理学	学習期間終了
EF3729	病弱教育	学習期間終了
EF4731	病弱教育総論	学習期間終了

EE4724	病弱者の心理、生理・病理	学習期間終了
EC3704	福祉科の指導法	学習期間終了
DH3121	福祉機器論→福祉用具と生活支援	B
CC4080	2009～ 福祉行政と福祉計画	A-I
CE4074	2009～ 福祉経営論	A-I
DH2109	福祉思想論	B
CC2101	～2020 福祉社会学	A-I
CC2068・CC2103・CC2149	福祉心理学	19
FP5571	福祉心理学演習	C
AH1003	～2017 福祉と経済	学習期間終了
AH1021	福祉と生活	学習期間終了
CB3063	2009～ 福祉法学	A-I
DA2142	福祉ボランティア活動	B
DF3121・DF3163	福祉用具と生活支援	B
DE3143・DE3162	福祉リスクマネジメント	B
AH1036	法の基礎	B
AH1007・AH1030	～2017 法の基礎（日本国憲法を含む）	B
CD4075	2009～ 保健医療サービス論	A-I
AB1002	ボランティア論	B

ラ行

FF2522	ライフサイクルと福祉心理学	C
DF3122	リハビリテーション論	B
FF3503・FF3564	～2017 臨床心理学	C
FF3552	2018～ 臨床心理学概論Ⅰ	C
FF4555	2018～ 臨床心理学概論Ⅱ	C
AJ1009	歴史を見る眼	学習期間終了
AJ1038	歴史を読み解く	B
DL3280	レクリエーション概論	学習期間終了
DL4282	レクリエーション事業	学習期間終了
DL4281	レクリエーション実技	学習期間終了
DK4691	労働法	学習期間終了
FD2517	～2017 老年心理学	C
FD2544	2018～ 老年心理学A	C
FD2545	2018～ 老年心理学B	C

レポートのルール

I レポート学習とは

レポート課題に対し、教科書や参考図書等をもとに解答するもの。
※履修方法「R」および「SR」で科目単位を修得するために必ず取り組むものです。

レポートの種類

- ・客観式レポート ○×式や選択肢式にて解答するレポート。
- ・論述式レポート 論述式で解答するレポート。

レポートの学習の進め方

- ・客観式レポート 教科書を読んで学習し、設問に解答する。
- ・論述式レポート レポート課題の意図に沿って、教科書を読み、必要に応じ参考図書、新聞、インターネットなどで調べ、そして自分で考え（考察し）ながら、学んだ内容や解答を文章で作成する。

レポート課題

- (1) 『レポート課題集』、『客観式レポート集』に、各科目毎に掲載されています。
- (2) 課題数は、科目毎に単位数分あります。
(例) 科目単位2単位の科目→2課題。 ※一部の科目に例外あり。

レポートの評価

レポートの成績は、「優」「良」「可」「再提出」の4段階（優・良・可が合格、再提出が不合格）。

不正レポートの禁止

- (1) 不正レポートと見なされた場合は、懲戒処分の対象となります（一定期間のレポート提出禁止、合格済みレポートの合格取消し等）。
- (2) 他のレポートと同一または酷似のものは不正レポートと見なします。
※学生同士のレポートの貸し借りやデータのやりとりは禁止です。
※不正レポートと見なした場合、貸した方も処分対象になります。
- (3) 教科書・参考図書・インターネット等から無断での丸写しは不正レポートと見なします。
※「引用」「要約」の場合を除く（『学習の手引き』の「引用と要約のルール」参照）。

II レポート提出上のルール

論述式レポートの字数

- ・ 1 課題あたりの字数：2,000字程度（最低1,000字、最高3,600字）
 - ・ パソコン印字（40字×30行）の場合 3 枚以内、手書きで指定原稿用紙（600字詰）の場合は 6 枚以内、市販原稿用紙（400字詰）の場合は 9 枚以内。
- ※上記以外は受け付けられずに返却されます。
※字数には課題文や「引用・参考文献」、空きマスも含めます。
※一部の課題で、4,000字等の指定があります。

論述式レポートの書式

(1) パソコン印字・手書きに共通の書式

- ① 用紙は縦置き、文字は横書き。
- ② インクは黒色（消せるインクのペンや鉛筆等は使用不可）。
- ③ 各課題の1行目に、「科目名 ○単位め 学籍番号 氏名」を記入。
- ④ ③の下1行あけて課題文を、その下1行あけて解答文を記入。
- ⑤ 文頭および改行後の先頭は、1文字分あける。
- ⑥ 最下部中央に、全ページ通しのページ数を記入。
- ⑦ 完成したレポート用紙は、上部をレポート提出台紙へ正しくしっかりとのりづけする。

(2) パソコン印字の書式 ※上記（1）もご参照ください。

- ① A 4 サイズ白無地用紙を使用（ご自身でご用意ください）。
- ② 1 枚あたりの字数：1,200字
- ③ 文字サイズ10.5ポイント 左右40字×タテ30行
余白（上下左右）30ミリ
- ④ 片面印刷でプリントアウト（両面印刷不可）。

(3) 手書きの書式 ※上記（1）もご参照ください。

- ① A 4 サイズ原稿用紙を使用（ご自身でご用意ください）。
※下記のいずれでも可。
 - ・ 指定原稿用紙（本冊子巻末の原稿用紙を A 4 判に拡大コピーしたもの、または通信教育部 HP よりプリントアウト [両面コピー、印刷不可]
 - ・ 市販原稿用紙
- ② 1 枚あたりの字数：600字（指定原稿用紙） or 400字（市販原稿用紙）
- ③ 句点（。）、読点（、）、括弧「 」などは1マスを使用。
- ④ 行の最後に、句点（。）、読点（、）、括弧「 」などが来た場合は、その行末のマス内（or マス外）に記入。
- ⑤ 数字は1マスに2ケタずつ左詰めで記入。（例）

36	5	日
----	---	---

レポート提出台紙

- (1) 作成したレポートを貼り付けて提出する台紙。
※提出後、教員からの添削や評価が記入され返却されます。
- (2) 年度始めに20冊送付（無料）されます（4年次まで）。
- (3) 追加の購入方法。
郵送にて：「レポート提出台紙・教材購入申込書」（巻末様式10）と、代金分の定額小為替証書を通信

教育部に送付。1セットあたり10冊のセット購入。
通信教育部事務室にて：現金にて、1冊からの購入可能。

レポート提出時の注意事項

- (1) レポート提出台紙1冊につき、2課題ずつ貼り付ける。
 - ・ 2単位科目：1冊に1・2単位めレポート用紙を貼り付ける。
 - ・ 4単位科目：1冊に1・2単位めレポート用紙を貼り付け、もう1冊に3・4単位めを貼り付ける。(例外)
 - ・ 1単位分ずつの提出が指定されている場合
 - ・ 1単位分のみ「客観式レポート」をWeb版で解答した場合
 - ・ 1単位分のみ「再提出」となった場合
- (2) 提出の際は、レポートのコピーやデータを手元に残すこと。
※郵便事故等の紛失時に再提出していただくため。
- (3) レポート提出台紙には、15円分の切手を提出用・返信用に貼付し、必要事項を記入する。
※通信教育部事務室等で直接提出する場合は、返信用にのみ切手貼付。
- (4) 提出したレポートの教員添削依頼は『試験・スクーリング情報ブック2021』1部「レポート受付締切日」の翌日に行います。

レポートの再提出

評価が「再提出」の場合、教員からの講評を踏まえ、再度レポートを作成・提出してください。

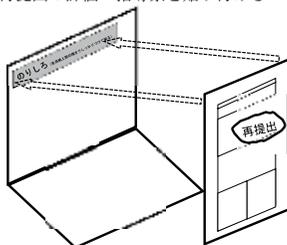
【再提出の方法】

- (1) 「再提出と評価された評価・指導票」を切り取る。
- (2) レポート提出台紙の「再提出の場合の評価・指導票貼付のりしろ」に、「再提出と評価された評価・指導票」を貼り付ける。
- (3) あらためて作成したレポートを、新規のレポート提出台紙の「評価・指導票」ウラ「のりしろ」に貼り付け、郵送する。

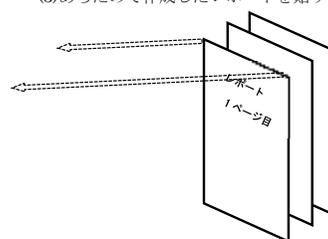
(1)再提出の評価・指導票Aを切り取る



(2)再提出の評価・指導票を貼り付ける



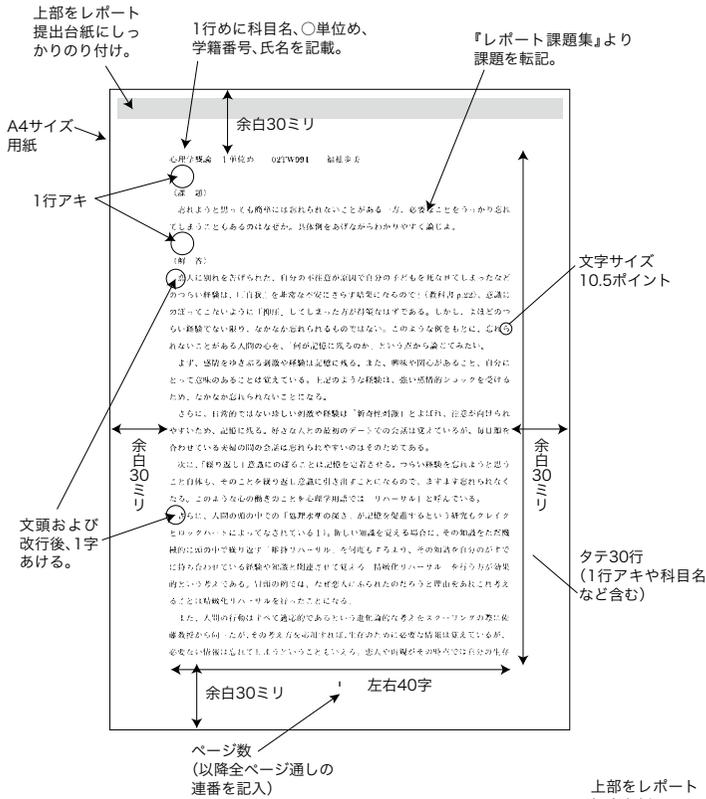
(3)あらためて作成したレポートを貼り付ける



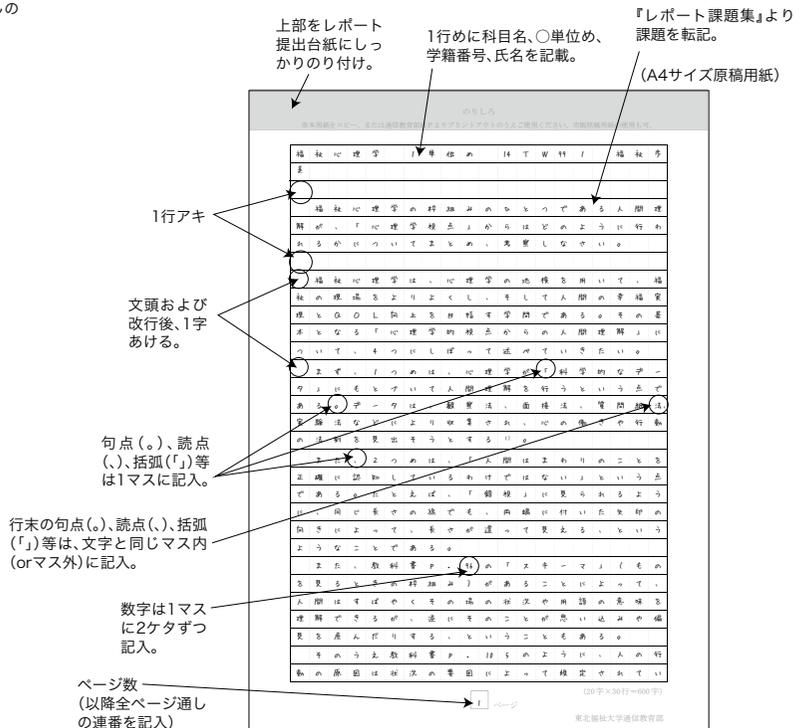
書式の不備や字数不足の場合、受け付けせず返送いたしますので、ご注意ください。

論述式レポート書式【作成・記入例（1ページめ）】

(パソコン印字用)



(手書き用)



III レポート提出台紙の使用法

レポート提出台紙【記入例】

(提出用面)

提出用

10円
5円

9 8 3 8 5 1 1

文部科学省認可通信教育

仙台市宮城野区榴岡2丁目5番26号

東北福祉大学通信教育部

レポート係 御中

科目名 **教育の歴史と思想** 演習・実験・実習
科目の担当教員
(講義科目は不要) 先生 _____

住所	(〒981-8522)		
住所	仙台市青葉区国見1-8-1		
氏名	福祉 歩美	学籍番号	09TZ999

封をする前にもう一度確認してください。

- 1 整理票に学籍番号、氏名、科目名、課題番号(何単位めのレポートか)を記入していますか。
- 2 返信用表紙に返信住所を記入し、返信切手を貼付していますか。
- 3 提出用表紙に必要事項(上記)を記入し、切手を貼付していますか。
- 4 解答記載のA4判用紙の貼り方はまちがっていませんか。

(返信用面)

返信用

10円
5円

9 8 1 8 5 2 2

文部科学省認可通信教育

住所 仙台市青葉区国見1-8-1

氏名 **福祉 歩美 様**
(訂正不要)

■発信者
〒983-8511
仙台市宮城野区榴岡2丁目5番26号
東北福祉大学通信教育部
レポート係

15円分の切手貼付

各欄に所定の内容を記入

提出前にチェック

(評価・指導票・整理票面)

1...3単位め

2...4単位め

年齢・職業の記入は任意(自由)です。

学籍番号・氏名・提出する科目コード、科目名を記入該当する課題番号を○で囲む。

ここに氏名・バーコードを貼付してください。

再提出の場合は○で囲む。

1 or 3単位め 評価		2 or 4単位め 評価	
優	良	可	再提出
1	2	3	4

教員はこの面から読んでいきます。この紙をめくったところがレポート1ページ目になるように貼り付けてください。レポート下部にページ数を入れてください。

年齢	42	名前	福祉 歩美
職業	特別養護老人ホーム勤務	学籍番号	09TZ999
提出する科目コード	AH1037	提出する科目名	教育の歴史と思想
課題番号	①・②・③・④	氏名・バーコードを貼付	

整理票の黒枠内はすべて記入してください。課題番号は、いずれかに○をつけてください。

再提出レポートの場合は前回の評価・指導票を裏面の「のりしろ」に貼付してください。

再提出の場合 p.9 参照

再提出と評価された「評価・指導票」を必ず貼付してください。
貼付されていない場合は受付しません。

レポート提出台紙【封の仕方】

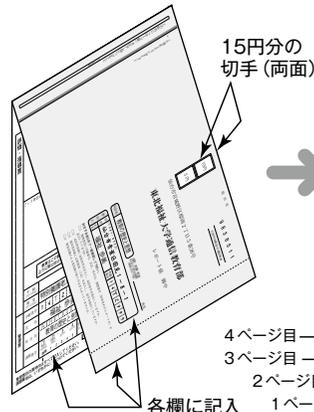
※レポート提出台紙の「評価・指導票」ウラ面も参考にしてください。

【レポート用紙】



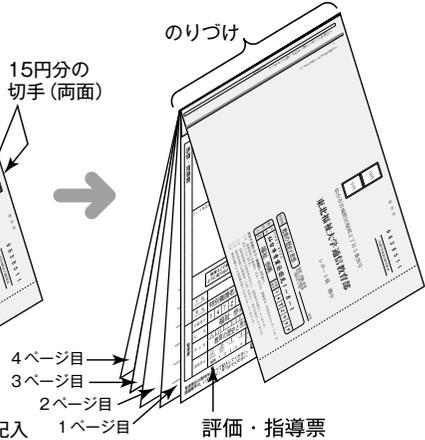
※全ページの上部分を
しっかりのりづけする。

【レポート提出台紙】



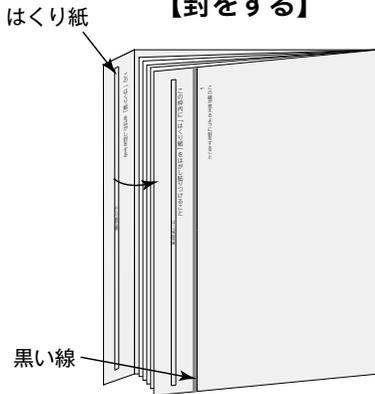
※提出用・返信用それぞれに、
切手を貼り付ける。
※各欄に所定の内容を記入する。

【レポート用紙+ レポート提出台紙】



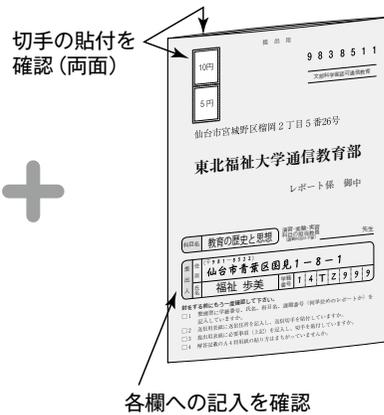
※「レポート用紙」と「レポート提出
台紙」の上部分をしっかりのりづけ。
※評価・指導票をめくると1ペー
ジ目になるように貼る。

【封をする】



※レポート提出台紙が外側
になるように全体を折る。
※はくり紙をはがし、黒い線
が見えるように封をする。

【できあがり】



IV 客観式レポート

●問題形式 ○×式、選択肢式、穴埋め式など。

●解答方法

Web版：「TFU オンデマンド」上で解答

- ・初めて取り組む場合は「初期設定」を行ってください。
- ・手順は、「TFU オンデマンド」にログイン→「セミナー」より課題選択→解答→採点→解説にて復習。
- ・解答中に離席する際、「一時保留」ボタンを押す。その他、エラーの対処方法は「TFU オンデマンド・サポートページ」参照。
- ・解答は何度でもチャレンジ可能。合格基準は8割以上の正答とします。正解や関連した解説もわかります。
- ・解答開始日 4～6、9～11月 履修登録が10日までに行われた科目は15日17時まで、25日までに行われた科目は30日17時まで開始。
7～8、12～3月 履修登録が25日までに行われた科目は30日17時まで開始。
- ・合格した課題については、「Web 客観式レポート評価登録日」(『試験・スクーリング情報ブック2022』カレンダー参照)に Web 履修状況票に反映されます。

V 『レポート課題集』の活用方法

科目名・担当教員名など

●単位数

単位修得方法にそって、レポートや試験が合格すると得られる、科目ごとに定められている単位数について、法令では1単位あたりの学習時間は45時間（2単位科目90時間・4単位科目180時間）と定められています。

通信教育部では、①教科書や参考文献を読んだり調べたりする時間、②学習内容について理解する時間、③レポートをまとめる時間、④スクーリングを受講する時間とその予習復習の時間、⑤科目修了試験の学習時間・試験時間などを確保して学習を進めていってください。

●履修方法

各科目の単位修得方法を記載しています。「R：レポート＋科目修了試験」「SR：スクーリング＋レポート」「RorSR：RかSRを自分で決める科目」「S：スクーリングのみ」となります。『学習の手引き』にて単位修得方法をご確認ください。

履修方法＝Sの科目については、レポート課題はなく、教科書もないものが大半です。スクーリング事前学習・スクーリング受講・スクーリング事後学習により、1単位あたり45時間の学習時間を確保するようにしてください。

●配当年次

履修登録・学習ができる年次を記載しています。たとえば、「1年以上」と記載のある科目は、1年生以上（2～4年生含む）の方が履修登録できます。

●担当教員

主としてレポート添削指導をおこなう教員名を記載しています（S科目はスクーリング担当教員）。スクーリング担当教員は受講会場により異なる場合があります。なお、一部科目のレポートは添削指導員が担当する場合があります。

また、担当教員が科目に関連する実務経験を有する場合は、「科目の内容」欄に表示しています。

科目の概要

●到達目標

各科目の学習を通じて、身につけてほしい目標を記載しています。意識して学習を進めてください。

●教科書

レポート学習やスクーリング時に使用する教科書を記載しています。在学中に変更になる場合もありますので、今年度学習するにあたり必ずご確認ください。

【スクーリング時の教科書について】

教科書が変更された科目について、通常変更後2年間は、変更直前の教科書を所持している方に対し、必要に応じて配慮をいたします。

教科書が変更されて2年以上経過した科目について、スクーリング時に新規教科書の所持が求められたり、事前学習において新規教科書が必要とされる場合、所持していない方は事前に購入などをお願いいたします。

なお、通信教育部へ購入を申込む場合は、本冊子巻末の「教材購入申込書」をご利用いただき、事前に郵送で、料金分の定額小為替も同封のうえ余裕をもってお申込みください。当日の購入は原則としてできません。本冊子巻末の「教材購入申込書」に記載のない教科書の料金はお問い合わせください。

●「卒業までに身につけてほしい力」との関連

各科目の学習を通じてとくに伸ばしてほしい点を、社会福祉学科・福祉心理学科の「学位授与の方針＝ディプロマポリシー」にあげられた「卒業までに身につけてほしい力」との関連で記載したものです。

●科目評価基準

評価するにあたり、評価の計算方法を記載しています。

2018年度以降の科目評価の算出方法は次の通りです（入学年度により計算方法が異なります）。

■2014年度以降入学者の評価計算方法

計算上、「優」「良」「可」などの評価を4点満点で得点換算し、『レポート課題集』記載の評価割合で計算されます。

◇レポート評価

評価	優	良	可
レポートの得点換算	4	2	1

◇スクーリング評価 or 科目修了試験

評価	秀	優	良	可
試験の得点換算	4	3	2	1

※レポート評価に、「秀」はありません。

◇科目評価の計算式

例) 科目評価基準が、レポート a%+スクーリング試験 or 科目修了試験 b%の場合 (a%+b%=100%)

$$\text{科目評価得点} = \frac{\sum \{ (\text{レポートの得点換算の合計}) \times a\% \}}{\text{レポート課題数}} + (\text{試験の得点換算}) \times b\%$$

◇科目の評価

科目評価得点	4.0	4.0未満～2.5以上	2.5未満～1.5以上	1.5未満～1.0以上
科目評価	秀	優	良	可
100点満点換算	100～90相当	89～80相当	79～70相当	69～60相当

※2017年度以前の単位修得科目の評価にも「秀」が加わります。2017年度以前の単位修得科目の科目評価の計算方法は、『レポート課題集2017』記載のとおりです（上記の方法では計算されません）。

※100点満点換算は「秀」「優」「良」「可」の位置づけの理解のために、参考に記載しております。

■2013年度以前入学者の評価計算方法

計算方法は2014年度以降入学者と同じですが、2013年度以前の入学者に「秀」の評価はつきません。

スクーリング

【会場によって担当教員が異なる科目】

会場により担当教員が異なる科目があります。会場ごとの講義概要を記載していますので、スクーリング受講前に必ずご確認ください。

【オンデマンド・スクーリングおよびビデオ・スクーリングの際のご注意】

オンデマンド・スクーリングおよびビデオ・スクーリングにおいて、録画が前年度以前である科目も多いため、以前の教科書にもとづく講義の場合があります。その際は、最新の教科書を所持している方に対しては、必要に応じて配慮します。

また、講義内容も本冊子に記載の内容と若干異なる場合がありますが、ご了承ください。「オンデマンド・スクーリング用の講義概要」は、「TFU オンデマンド」の「各種申込」より確認してください。

【その他スクーリング受講上の留意点】

『学習の手引き』の「スクーリング」をご確認ください（掲載している章は入学年度により異なります）。

●スクーリングで学んでほしいこと

スクーリング時に、特に学んで欲しいポイントを記載しています。

●講義内容

コマごとのテーマ・内容が記載されています。なお、テーマの記載に当たって、スクーリング試験を分けていますので、たとえば、回数=1～9と表記されている科目のスクーリングのコマ数は8コマです。

●スクーリング 評価基準

評価するにあたり、判断基準の割合などを記載しています。スクーリング試験にあたっての補足事項（持込の可否など）も記載されています。

●スクーリング事前学習

スクーリングを受講するにあたり、事前に学習しておいてほしい事項を記載しています。記載されていなくても、教科書を一読したり不明な用語を調べておいたり、レポート課題について考察しておくことをお勧めします。また、受講中（後）も、疑問点について意欲的に調べることが望まれます。予習・復習により、学習が深まり、学習効果の向上が期待できます。

●スクーリング事後学習

スクーリング受講後に、学習（復習）してほしい事項を記載しています。その他、スクーリング受講で得た知識を踏まえ、未提出のレポートがある場合はレポート課題に取り組みましょう。また、「到達目標」を達成できるよう各自で知識をさらに深める学習をしてください。

講義中に紹介された参考図書を読んだり、スクーリングで得た知識を、受講後の職場や家庭での実践に役立て、知識を自分のものとすることも非常に大切な事後学習となります。

レポート学習

●在宅学習のポイント

主に教科書を読むポイントを15回（一部の科目を除く）に分けて記載しています。このポイントを身につけられれば、その科目の要点は十分理解したことになります。テーマ部分の（ ）内は現在使用している教科書の章立てまたはページ数です。

一部科目で、参考図書の内容が含まれる場合もあります。学習内容をより深めたい場合は、参考図書を活用することをお奨めします。なお、参考図書を読むことが必須の科目もありますので、レポートのアドバイス欄で確認してください。

●レポート課題

皆さんの学習の成果を先生に提出するものがレポートです。下記の「アドバイス」をよく読み、まとめてください。レポートの書き方は『学習の手引き』の「レポート学習」をご確認ください。

●アドバイス

レポート課題に取り組むにあたってのアドバイスが記載されています。よく読んでレポートに取り組んでください。大半の科目のレポート評価は「レポートにおける観点別ルーブリック評価」にもとづいて行います。レポートは学習の成果ですので、評価は自身の振り返りの材料、学習を深めるためのものとして利用してください。

【レポートにおける観点別ルーブリック評価】

評価の観点	A 十分満足できる	B やや努力が必要である	C かなり努力が必要である
題意把握・内容理解	①レポート課題そのものを理解している。②課題にそって解答がなされている。③答えるべきことからの内容について正確に理解している。④専門用語の意味などについて、正確に理解している。	①～④のいずれか2つ以上が満たされている。	①～④の3つ以上が不十分である。
論理構成・考察力	①レポートが論理的に、わかりやすく展開されている。②自分なりの視点をもって、課題を考察している。③自分なりの考え方が書かれていて、独創性の芽が感じられる。	①～③のいずれか1つ以上が満たされている。	①～③のすべてが不十分である。
表現・文字の正確さ	①誤字・脱字がない。②文章の主語・述語が対応している。③適切な語彙を用いている。	①～③のいずれか1つ以上が満たされている。	①～③のすべてが不十分である。
引用・出典明示	引用・出典が明示され、引用した部分については、「」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年（初版）・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。	引用・出典が明示されているが、表記方法が誤っている。	引用や参考文献が用いられているにもかかわらず、明示されていない。※教科書の出典明示も必須であるので、明記がなければ当評価となる。
現実との関連づけ（※課題により要求されない場合もある）	本学の建学の精神である「行学一如」に沿って、学問的な内容を、身近な出来事や職場での問題、時事問題に関連づけて（事例を挙げる等）まとめている。	学問的な内容を、身近な出来事や職場での問題、時事問題に関連づけてまとめようとしている努力は伺えるが、内容が不十分である。	レポート内容について、現実との関連づけを行った形跡が見られない。

科目修了試験

●評価基準

科目修了試験について、先生方からのアドバイスや評価する上での判断基準が記載されています。とくに指示がない場合は「在宅学習のポイント」「到達目標」「レポート課題」と関連した内容が出題される科目が大半ですので、ポイントをしばって学習してください。

**社会福祉士・精神保健福祉士
指定科目（共通）**



医学概論			科目コード	CB3078
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	2年以上	未定	

2022年度より開講しますが、科目の詳細は後日『With』でご案内します。
履修登録をすることは可能ですが、下記にご留意ください。

◆履修登録する際の留意事項

- ・教科書の選定は未定であり、決定しだい教科書を後送します。
- ・スクーリング（会場・オンデマンド）の日程は未定です。

福祉心理学			科目コード	CC2068
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	1 年以上	渡部 純夫	



科目の概要

■科目の内容

人間を取り巻き、目まぐるしく変化する社会の中で、私たちは自己形成を目指しながら生きていくために多種多様な問題と取り組まなければなりません。この世に生を受けた瞬間から死を迎えるまで、ライフサイクルを通して抱えなければならない問題や課題は山のようにあります。「福祉心理学」は、このような時代を生き抜く人々の、一人一人が求める「幸せの追求」をサポートし、「生活の質」の向上のために貢献する必要不可欠な学問とすることができます。一人一人の生命と生活を守るための取り組みを行いながら、社会全体にも働きかけていくことが「福祉心理学」には求められます。一人一人の心理面を心理アセスメントから深く理解し、日常生活に散見するたくさんの問題に実践的見地からの分析と対応を行うことが求められます。人間生活の基本にかかわる、「福祉心理学」をしっかりと学びましょう。

【教員等の実務経験による指導内容】

心理的支援の経験と事例をもとに、「心理学」の理論や手法を身につけ人々の福祉に対処できる人材を育成します。

■到達目標

- 1) 人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解し、説明できる。
- 2) 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解し、説明できる。
- 3) 日常生活と心の健康との関係について理解し、説明できる。
- 4) 心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解し、理解できる。
- 5) 公認心理師に関する内容について理解し、説明できる。

■教科書

小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『現代と未来をつなぐ見地からの心理学（改訂版）』八千代出版、2019年

(スクーリング時の教科書)

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%+スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■参考図書

- 中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志編『福祉心理学の世界 人の成長を辿って』ナカニシヤ出版、2018年
- 佐藤泰正・中山哲志・桐原宏行編著『福祉心理学総説』田研出版、2011年
- 今城周造編著『福祉の時代の心理学』ぎょうせい、2004年
- 岡田明著『福祉心理学入門』学芸図書、1995年
- 水島恵一編著『人間科学入門』有斐閣双書、1976年
- 村上陽一郎著『生と死への眼差し』青土社、1993年
- 藤森和美編『子どものトラウマと心のケア』誠信書房、1999年
- 岩城宏之著『いじめの風景』朝日新聞社、1996年
- 村瀬嘉代子著『子どもと大人の心の掛け橋』金剛出版、1995年
- 佐藤泰正・山根律子編著『福祉心理学』学芸図書、1998年（改訂版、2005年）
- 白樫三四郎編著『現代心理学への招待』ミネルヴァ書房、1995年
- 宮原和子・宮原英種著白樫三四郎編著『現代心理学への招待』ミネルヴァ書房、1995年
- 小林重雄監修『福祉臨床心理学』コレール社、2002年
- 安藤治著『福祉心理学のこころみ』ミネルヴァ書房、2003年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

人の心の基本的な仕組みと機能、環境との相互作用の中で生じる心理的反応、および成長・発達段階の各期に特有な心理的課題、および日常生活と心の健康との関係について理解するため、「心理学」の理論や手法を応用して、人々の福祉に対処するための方法、福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び支援について学びます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	心理学の視点	心理学の歴史と対象、心理学の未来、心を探求する方法の発展
2	人の心の基本的仕組みと機能①	心理学における諸理論と形成過程、心の生物学的基盤、感情・動機づけ・欲求、感覚・知覚
3	人の心の基本的仕組みと機能②	学習・行動、認知
4	人の心の基本的仕組みと機能③	個人差、人と環境
5	人の心の発達過程	生涯発達、心の発達の基盤、生きがいと問題行動への対応

回数	テーマ	内容
6	日常生活と心の健康	生活環境と心の健康、心の不適応、健康生成論、喪失体験
7	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本①	心理アセスメント、心理的支援の基本的技法
8	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本②	心理アセスメントとその技法、心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要、心理の専門職、まとめ
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリング、ビデオ・スクーリングでは、上記講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

一人ひとりの幸せを考えていくために、心理学がどのように貢献できるか、具体例をあげながら講義をしていきます。その中で理論と実践がどう融合していくのかについても考えていきます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%：持込不可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書を読み、人の一生と心理学がどのように結びつきを持つのかについてまとめてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

自分の身近な福祉の問題を取り上げ、「福祉心理学」の理論や技法から、どのような援助が可能かまとめてみてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理学の歴史から未来を考える①	心の学の誕生とその歩み キーワード：行動主義、ゲシュタルト、精神分析	心理学の歴史を振り返る事により、心理学がどのような発展を遂げてきたかを学ぶ。
2	心理学の歴史から未来を考える②	現代の心理学から未来へ キーワード：環境・社会心理学、発達心理学、臨床心理学、倫理	現代の心理学とその課題を理解することにより、未来における心理学の可能性を考える。
3	人は現実世界をどうとらえ、経験し、困難を克服するか①	「知る」ことの仕組みとその応用 キーワード：知覚、認知	「知る」という心理機能と行動の基本的メカニズムについて学び、日常生活への活用について考える。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
4	人は現実世界をどうとらえ、経験し、困難を克服するか②	「学び、覚える」事の仕組みとその応用 キーワード：学習、条件づけ、行動主義、記憶	社会・文化的な側面の理解についての結びつきを踏まえ、「学習、記憶」という心理機能と行動のメカニズムについて学ぶ。
5	人は現実世界をどうとらえ、経験し、困難を克服するか③	「考え行う」事の仕組みとその応用 キーワード：知能、問題解決	「知能」とは何か、「問題を解決する」時の心の働きに着目し、「思考」のメカニズムについて学ぶ。
6	心の成り立ちと個性の形成を考える①	「行動」から見た心と個性 キーワード：動機づけ、感情、社会的認知	人間の「行動」を、心理学的に理解していくための諸理論について学ぶ。
7	心の成り立ちと個性の形成を考える②	「パーソナリティ」から見た心と個性 キーワード：パーソナリティ、自我・自己、自己実現	人を特徴づける「パーソナリティ」の様々な考え方について学ぶ。
8	心の成り立ちと個性の形成を考える③	「人間性」から見た心と個性 キーワード：人間性心理学、感性、コミュニケーション、適応	「人間性心理学」の各理論と「コミュニケーション」の基礎概念について学ぶ。
9	ともに生きるための心理学の役割①	生活環境作りと心理学の役割 キーワード：父性原理・母性原理、ウェルビーイング、分化心理学、パーソナル・スペース	心理学的アプローチに基づいて、人と人、家族、社会・文化、環境との関連性を学び、心理学の役割を考える。
10	ともに生きるための心理学の役割②	人の健康と心理学の役割 キーワード：ストレス、予防	健康と「ストレス」の関連性について、様々な生活場面における問題と、心理的側面からの対処について考える。
11	ともに生きるための心理学の役割③	心理臨床の現場から キーワード：DSM-IV、ICD-10、アセスメント、心理療法、福祉と心理	単純に因果関係を特定できない「心の問題」を学び、「アセスメント」「心理療法」について考える。
12	「人生」を生きていくということ①	生涯発達 キーワード：変化、積み重ね、可塑性	「生涯発達心理学」という視点から「発達」についての考え方を学ぶ。
13	「人生」を生きていくということ②	障害をもって生きるということ キーワード：WHO、受容	「障害」とは何かを正確に理解する。「障害」の意味・援助の在り方を考える。
14	「人生」を生きていくということ③	思春期を生きる キーワード：同一性、自我、モラトリアム	「思春期の変化」を、「身体的変化」と「心理的变化」に分けて考える。また、その過程で、心理学がどのように貢献できるかを考察する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	「人生」を生きていくということ④	老年期を生きる キーワード：個人差、パーソナリティ、生きがい、死、幸福、福祉	加齢が及ぼす身体的・心理的变化を学び、心理学・社会福祉学の両面からのアプローチを考える。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	福祉心理学の枠組みのひとつである人間理解が、「心理学的視点」からはどのように行われるかについてまとめ、考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

「福祉心理学」では、深い人間理解が必要になります。人間は発達を通していろいろなものを身に付け、自己形成の課題に取り組んでいきます。課題に直面し不適応を起こすこともあります。そのような人々に対して援助を行うにあたっては、一般的な発達においての特徴と課題をしっかりと押さえておく必要があります。しかし、人間には個性や個人差があります。個としての見方やとらえ方も同時に必要になります。

この「福祉心理学」では、まず心理学の視点から人間理解を深めていくことを行います。その上で、何らかの援助を必要としている人に対して、どのような援助方法があるのか、ひとりひとりのニーズにどのように応えていけばよいかについて、理念と実践から考えていくことにしたいと思います。「福祉心理学」を考えると、「社会福祉」と「心理学」の二面性の問題と向き合うこととなりますが、ここでは「心理学」を「福祉」にどう活用するかという観点から考えていただきたいと思います。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め アドバイス

2 単位め アドバイス

(1) テキスト『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』の第1部「心理学の歴史から未来を考える」から第3部「心の成り立ちと個性の形成を考える」までをよく読み、人間の心理的活動がどうなっているかを理解するための努力をしてください。

(2) 次に、参考図書にあたり人間理解のための方法や視点の共通点と違いについてまとめ、考えを膨らませてください。あなた自身が今まで行ってきた理解の仕方についてもふりかえりを行ってください。

(3) それらを、分析・考察しながら自分なりにまとめていくことにより、深い人間理解にもとづいたレポートができあがると思います。

(4) 人間のすべての行動面に「心理学」は関わりをもちますから、日々の生活の中で気になる人間

の行動をとりあげ、「心理学」とつないで学んでみるとよいと思います。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 人生のライフステージの課題を理解しているか
- 2) 福祉心理学の視点が理解されているか
- 3) テキスト以外の文献で発展的学習をしているか
- 4) 自分の考えをまとめる力があるか
- 5) 専門的内容をどれくらい理解しているか

社会学と社会システム

科目コード

CC2169

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	牛渡 亮



科目の概要

■科目の内容

近代以降の社会の発展は、それまでよりも豊かで便利な生活を私たちにもたらしました。しかしその一方で、近代社会に特有の社会構造は様々な問題を生み出し、私たちの家族関係や生活環境を脅かしています。とりわけ、20世紀末葉以降の福祉国家の衰退と新自由主義の台頭は、社会の結びつきを揺るがし、「ソーシャル」(社会的なるもの)のあり方を大きく変容させています。

そこで本講義では、社会学の知見を通して、私たちの生きる社会について考察します。社会学は、19世紀から20世紀に生きた人々がみずからの生きる社会を理解しようと努力する中で鍛え上げられてきた学問です。その成果を活用しながら、ひとりひとりが現代社会における「福祉」について考えるための視角を身につけてほしいと思います。

【スクーリングで学ぶ内容】

スクーリングは、内容のつながりを理解しやすいように、教科書の内容を再構成した2部構成となっています。第1部では、社会学の基本的な問題関心や分析視角を学習します。第2部では、福祉について議論する上で土台となる家族生活に関わる諸問題と現代の社会問題を取り上げ、福祉との関わりについて議論します。授業内容をみずからの生活や問題関心に引き寄せながら、積極的に考えてほしいと思います。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】

教科書は、重要語句を覚えるだけではなく、どのような議論の中でその言葉が使われているのかを確認しながら読み進めてください。また、わからない言葉や興味を持った内容については、辞書や参考図書を活用して積極的に調べてください。

レポート学習は、授業内容を復習すると同時に、みずからの考えを表現する機会です。考えていることを文章にまとめようとする、内容理解の不十分な箇所がはっきりします。その場合は、教科書や参考図書を読み直して、再度自分の考えを整理してください。

■到達目標

- 1) 社会学の概念や語句を正しく理解し、説明できる。
- 2) 近代以降の家族の変容を理解し、今日の家族に生じている問題との関連性を説明できる。
- 3) 現代社会に生じている問題を理解し、それに対するみずからの考えを他者に表現できる。

■教科書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 3 社会学と社会システム』中央法規出版、2021年

(スクーリング時の教科書) スクーリング時は上記教科書を使用せず、資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目終了試験50%

■参考図書

- 1) 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学 新版』有斐閣、2019年
 - 2) アンソニー・ギデンズ著『社会学 第五版』而立書房、2009年
 - 3) 大澤真幸著『社会学史』講談社、2019年
 - 4) 宮島喬編著『岩波小辞典 社会学』岩波書店、2003年
- その他、教科書の節ごとに掲載されている参考文献も参照してください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

第1回から第4回までの第1部では、社会学を学ぶ上で土台となる用語や考え方について学習します。社会学の誕生は、近代社会の成立と切り離して考えることができません。そこで、近代化の背景や近代化による社会の変化を中心に学習します。単に用語や人名を覚えるだけではなく、なぜそれが重要なのかを説明できるように文脈の中で把握してください。

第5回から第7回までの第2部では、近代以降の家族に関わる問題と現代の社会問題を学習します。私たちは家族の一員として生まれ、生活し、またみずからも家族を形成し、育んでいきます。しかし、家族とは私たちがイメージするほど自明な存在ではありません。そこで、家族という身近な存在に対して、みずからの経験から一歩距離をとって冷静に観察し、理論やデータをふまえた客観的な議論ができるようになってほしいと思います。また、今日生じている社会問題には、近代社会に特有の構造的特徴が色濃く反映されています。そのため、第1部で学習した知識を総動員して、多面的に社会問題について検討してほしいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会学の視点	構築主義、相対主義、役割理論、社会学の歴史

回数	テーマ	内容
2	近代化と社会的連帯	社会変動、組織と集団、社会的連帯
3	地域とコミュニティ	都市化、過疎化、コミュニティ、環境問題、高齢化
4	自己と他者	自己の形成、社会化、相互行為
5	家族とジェンダー	家族の概念・機能・形態、近代家族、ジェンダーロール
6	格差と労働	労働の概念、就業形態、格差と貧困、社会階層
7	差別と偏見	逸脱、ラベリング、スティグマ、社会的排除・包摂
8	質疑応答	ここまでのまとめ
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料をもとに板書もしながら進めます。

■スクーリング 評価基準

到達目標記載内容に関連した問題を出題します（教科書・配付資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書を一通り読んでください。難しい言葉や議論については読み飛ばして構いません。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書をもう一度読んでください。事前学習の時とは違った発見があるはずです。また、関心を持った節の末尾に記載されている参考文献を読み進めてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会学の視点 (第1章第1節・第2節)	社会学の意義と対象、社会学の歴史	代表的な社会学者とその理論を中心に学習しましょう。
2	社会システム (第2章第1節)	社会秩序の構成、社会をシステムとしてみる、社会階層システム	パーソンズとマーソンの議論を中心に学習しましょう。
3	組織と集団 (第2章第2節)	集団と組織、組織の合理化と官僚制、全制的施設、非営利セクターと非営利組織	社会学者たちが集団をどのように分析しているのかを比較しましょう。また、官僚制の特徴を整理しましょう。
4	人口 (第2章第3節)	人口増加の時代と人口減少の時代、日本の人口高齢化、日本の少子化、日本の移動	人口転換と少子高齢化を中心に学習しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	グローバリゼーション (第2章第4節)	グローバリゼーション、日本における医療・福祉部門の外国人	ヒト・モノ・カネの移動を軸に、グローバリゼーションを整理しましょう。
6	社会変動 (第2章第5節)	社会変動とは何か、前近代社会から近代社会へ、社会変動の要因と諸相、現代社会におけるソーシャルワーカーの役割	前近代社会から近代社会への変化を、社会学者たちがどのように描いているのかを比較してみましょう。
7	地域 (第2章第6節)	地域とコミュニティ、地域社会をめぐる課題の背景、地域コミュニティと福祉コミュニティ	限界集落やソーシャルキャピタルを中心に学習しましょう。
8	環境と災害 (第2章第7節・第3章第4節)	環境破壊と再生・保全、持続可能な地域社会、被災地支援の考え方、災害の定義、発災後の被災地社会の変化	環境については持続可能性を、災害については被災体験を中心に学習しましょう。
9	社会的格差 (第3章第1節)	格差、格差と貧困、雇用格差、教育格差、健康格差	貧困や非正規雇用を中心に学習しましょう。
10	社会政策と社会問題 (第3章第2節)	産業社会の社会問題と社会政策、社会政策(福祉国家)の三つのタイプ、社会政策への批判と新しい社会政策	福祉国家の三つのタイプを中心に学習しましょう。また、ソーシャルガバナンスについても整理してください。
11	差別と偏見 (第3章第3節)	社会的排除・社会的包摂とは何か、偏見、差別、ソーシャルワーカーは偏見・差別にどう向き合うべきか	ラベリング理論を踏まえて、現代の差別について考えてみましょう。
12	家族とジェンダー (第4章第1節)	家族に関する基本的な概念、ジェンダーと近代家族論、近年における家族変動	家族の分類と機能、近代家族におけるジェンダー役割を中心に学習しましょう。
13	健康と労働 (第4章第2節・第3節)	自殺、依存症、心身の障害、慢性疾患、治療と仕事の両立、賃労働の誕生、労働市場の性質とルールの導入	健康については当事者概念を、労働については労働法を中心に学習しましょう。
14	世代 (第4章第4節)	世代と社会、ライフサイクルとライフステージ、ライフコース、個人化する社会と「社会問題」	ライフサイクル、ライフステージ、ライフコースなどの概念を整理しましょう。
15	自己と他者 (第5章)	自己と他者、社会化、相互行為	ミードによる自己の形成に関する議論を中心に学習しましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	前近代社会から近代社会へと変化するきっかけとなった出来事をまとめた上で、近代化によって社会がどのように変化したのかを多面的に論じてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

社会学を学ぶ上で大切にしたいことは、ひとつの社会現象を様々な視点から分析することです。特に、福祉に関わる社会問題を考える場合、一問一答式にただひとつの「正解」があること

は稀で、ほとんどはその問題を考える人の立場ごとに異なる解答があります。そのため、ひとつの問題を色々な側面から検討し、比較し、客観的なデータを参照しながら考察する多面的な視角が求められます。

今回出題しているレポートは、教科書の一部を参照するだけでは不十分です。近代化の影響は、社会の様々な領域に及んでいます。したがって、それを分析するためには、色々な視点から考察を加える必要があります。採点する際には、どれだけ広い視野から問題を考えているのかを評価します。

また、教科書の内容に関する理解が正確かどうかを評価します。確かに、社会学で使用される概念や社会学者たちの理論には、難解なものもあります。そこで、教科書を読んでもよくわからない事柄については、辞書や参考図書で関連する内容を確認したり、スクーリングの資料を復習したりして、正確に理解できるよう努めましょう。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

このレポートでは、前半でなぜ前近代社会から近代社会への変化が生じたのか、きっかけとなった出来事は何だったのかを簡潔にまとめてください。その上で、後半では近代化が社会にどのような変化をもたらしたのかを論じてください。

なお、教科書の第2章第5節に「社会変動」という項目がありますが、この部分だけではなく、教科書の様々なところで近代化による社会変動が議論されています。そのため、第2章第5節を中心としながらも、教科書や参考図書をよく読んで、色々な問題を視野に収めたレポートを作成してください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 授業で学習した社会学の用語や概念を正確に理解し、解答する際に活用できている。
- 2) 現代社会に生じている社会問題の歴史的背景を理解し、考察に反映できている。
- 3) 問題解決に向けて、授業内容をふまえた建設的な議論ができている。
- 4) 文章が読みやすく、適切な分量でまとめられている。

社会福祉原論A

科目コード

CC3085



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	田中 治和(上)/元村 智明(下)

科目の概要

■科目の内容

社会福祉にかかわる全般的な基礎知識の学修と、社会福祉観の変遷についての理解を目的とします。“社会福祉”という言葉は広く使われるため、その実態の学問的把握は曖昧になりやすく、ともすると主観的な幸福論や通俗的な人生論に終始しやすいと思われがちです。しかし、多種多様な社会福祉事象および具体的な社会福祉実践の本質は、まぎれもなく他者の人生へのかかわりであり、理念的には人類史上の文化的創造の営為の一つとも解せません。したがって、「社会福祉原論A」では具体的な政策展開を中心に社会福祉に関する専門用語・知識の確認を行いながら、常に「社会福祉とは何か」「社会福祉をいかに捉えていくのか」等を思考しながら学修することを望みます。大切なことは、自らの社会福祉観の涵養にあるといえます。

■到達目標

- 1) 社会福祉の全般的な基礎知識（社会福祉士・精神保健福祉士国家試験科目『現代社会と福祉』の合格水準）を解説できる。
- 2) 社会福祉の歴史の概要を説明することができる。
- 3) 社会福祉の政策に関して理解し、説明することができる。

■教科書（「社会福祉原論B」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 4 社会福祉の原理と政策』中央法規出版、2021年
(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用し、配付資料を中心にして講義を行います。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価40%

■参考図書

厚生労働統計協会編『厚生指標・臨時増刊 国民の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会、各年版

なお、詳細な参考図書は、スクーリング時に適宜紹介します。

■事前に学習してほしい内容

日々の報道において社会事象に十分に関心をもってふれてください。また、それが社会福祉の対象となる問題か、否かについて常に考えてみてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

自らの社会福祉観を問い直しながら、社会福祉のあるべき姿について他人事ではなく自分事として考えてみたいと思います。具体的には以下の3点について検討することによります。

- 1) 社会福祉とは何か（基本的性格、存立の根拠、そこに包摂される理念や原理、原則などを含む）
- 2) 社会福祉が歴史的社会的にどのようにして形成され、展開してきたか
- 3) 福祉国家および福祉社会の方向性と福祉政策の展開について、考察する

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	福祉政策の概念・理念と社会福祉学	社会福祉学を学ぶ基本的視点を政策から学ぶ意義や必要性
2	社会福祉の歴史視点と時期区分	<社会福祉>を認識する視点と方法としての段階・時期区分
3	日本の社会福祉の歴史的展開①	前近代社会の福祉理念と具体的な福祉実践
4	日本の社会福祉の歴史的展開②	近代社会における福祉理念と具体的な福祉実践
5	欧米の社会福祉の歴史的展開	欧米の近代社会の成立と市民社会の形成における福祉実践
6	社会福祉の現代的展開	現代社会の福祉理念と社会保障制度とソーシャルワーク
7	福祉政策の国際比較①	福祉国家を国際比較するための視点と方法
8	福祉政策の国際比較②	欧米と東アジア社会における福祉政策
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

とくにく社会福祉>の成立についての理解を問います（教科書・配付資料、自筆ノートの持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「社会福祉はなぜ必要なのか」「福祉と社会福祉は異なるのか」について考えながら、受講されてください。

なお、教科書の「序章 社会福祉の原理」「第1章 社会福祉の歴史」「第4章 福祉政策の基本的な視点」「第7章 福祉政策の動向と課題」「第10章 福祉政策の国際比較」を一読して受講されてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容をさらに発展させて、日々の時事問題に関心を持ち、それが社会福祉の対象範囲となり得るか、否かについて考え続けながら他の科目を受講されてください。また、教科書の該当頁を再読されてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	現代社会と社会問題 (第3章第1節)	現代社会における社会問題を考える キーワード：非正規雇用問題、核家族、社会的孤立、社会的排除、リーマンショック、ヴァルネラビリティ、リスク	社会が抱える問題の全体像を理解し、個人問題ではなく個別・具体的な社会問題として理解を行い、社会問題の解決策について考えてみましょう。
2	福祉政策とは何か (第4章第1節)	福祉政策の基本的な視点 キーワード：狭義の福祉、広義の福祉、最高善、選好	<狭義の福祉>と<広義の福祉>を理解したうえで、<幸福><徳><選好><功績>等の価値を含む概念との関連性で社会福祉とニーズ（必要）の概念について考えてみましょう。
3	福祉政策の概念・理念 (第4章第2節)	福祉政策における概念と理念 キーワード：パターナリズム、自由、平等、自立、フェミニズム、人権	<自由>や<平等>の概念を踏まえたうえで、<自立>と<依存>の関係をおさえ、自由主義思想とその変質・変容を理解し、新自由主義が福祉政策に与える影響を理解しましょう。
4	社会福祉の歴史① (第1章第1節)	社会福祉の歴史を学ぶ視点 キーワード：社会関係、段階論、時期区分論	<社会福祉>の成立を社会福祉の歴史を学ぶことを通して考えてみます。その際に、<個人>と<社会>のありようを歴史的視点から学びながら、社会福祉を段階的に理解しましょう。
5	社会福祉の歴史② (第1章第2節)	欧米における社会福祉のあゆみ キーワード：救貧税、慈善組織協会、友愛訪問、貧困調査、ナショナル・ミニマム、5人の巨人、貧困の再発見、公民権運動、新自由主義	資本主義の社会体制の先駆けとなったイギリス社会と急激に発展したアメリカ社会において、社会問題の創出とその対応としての政策として、社会福祉の歴史的展開について把握しましょう。
6	社会福祉の歴史③ (第1章第3節)	日本における社会福祉のあゆみ キーワード：四箇院、戸令、慈善事業、感化救済事業、社会事業、厚生事業	日本の社会福祉のあゆみを段階的に理解し、社会福祉の歴史的展開のなかに、その連続性と非連続性の双方の側面を考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
7	福祉政策の構成要素と過程① (第6章第1節)	福祉政策の構成要素 キーワード：政策、第三の道、レジリエンス、逆機能、資源配分、準市場	福祉政策の構成要素について、政策分野と各分野の目的から理解したうえで、福祉政策の資源配分の諸形態を学び、福祉サービスの提供方式の多元化と各々役割について理解しましょう。
8	福祉政策の構成要素と過程② (第6章第2節)	福祉政策の諸過程と方法・評価 キーワード：住民参加、PDCA サイクル	福祉政策の全体像とその諸過程を踏まえ、福祉政策の方法・手段・評価をおさえたうえで、さらに福祉政策と福祉計画、福祉行財政の関連性について把握しましょう。
9	福祉政策の動向と課題① (第7章第1節)	福祉政策と包括的支援の現状 キーワード：社会福祉基礎構造改革、措置（委託）制度、契約、社会福祉法、地域共生社会、多文化共生（社会）、持続可能な社会	福祉政策の起点である社会福祉基礎構造改革の基本的方向性への理解と社会福祉法の成立を踏まえ、近年の福祉政策の動向と社会の方向性についておさえましょう。
10	福祉政策の動向と課題② (第7章第2節)	福祉政策と包括的支援の課題 キーワード：SDGs、地方創生、インクルーシブな社会	<地域共生社会>の実現と地域づくりへの課題を踏まえ、福祉人材確保と多文化共生社会の課題、社会的課題解決の新たな方法を学びましょう。
11	福祉政策と関連政策① (第8章第1節・第2節)	福祉政策と保健医療政策・教育政策 キーワード：医療ソーシャルワーカー、子どもの貧困、スクールソーシャルワーカー、貧困の世代的再生産	人が人に係わる隣接領域の保健医療政策と教育政策の概要を踏まえて、それらが福祉政策といかに関連しているかについて考えながら、他業種・多職種が連携する必要性や必然性について考えてみましょう。
12	福祉政策と関連政策② (第8章第3節・第4節・第5節)	福祉政策と住宅政策・労働政策・災害政策 キーワード：ライフサポートアドバイザー、サービス付き高齢者向け住宅、第二のセーフティーネット、就労支援員、福祉避難所	人が生きていくうえで必要不可欠な住まいと労働、そして災害時の各政策概要を踏まえて、それらが福祉政策といかに関連しているかについて考えてみましょう。
13	福祉サービスの供給と利用の過程① (第9章第1節)	福祉サービスと福祉供給部門 キーワード：レッセフェール、パターナリズム、CSR（企業の社会的責任）	福祉サービスの供給が多面的な供給主体によって担われている点をふまえながら、その供給主体のそのものの特徴として長所や短所についておさえてみましょう。
14	福祉サービスの供給と利用の過程② (第9章第2節)	福祉サービスと福祉供給過程 キーワード：情報の非対称性、新自由主義	福祉サービスにおける供給過程の仕組みの全体像を把握しながら、福祉行財政の役割や市場の仕組みの導入がもたらす功罪について考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	福祉サービスの供給と利用の過程③ (第9章第3節)	福祉サービスと福祉利用過程 キーワード：社会権、資力調査、ステイグマ、アウトリーチ	利用者が福祉サービスを利用する視点を学び、権利保障の観点から福祉サービスの利用過程の課題を確認し、権利保障のためのソーシャルワークの機能を理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	学修者自らが理解した社会福祉の概念（定義）について、時代背景を踏まえて生活保障の観点から福祉政策の戦後の展開のなかで説明してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

「社会福祉原論」は、長年にわたり社会福祉学の教育研究における必要不可欠な基礎科目です。しかし、「社会福祉および介護福祉士法」の施行に伴い、大学教育の観点からの「社会福祉原論」の講義は困難になっていると思われます。むしろ社会福祉士等の資格取得を目指し、国家試験受験科目の一つとして履修されている方も多いと推察しております。

担当教員としては、「社会福祉原論 A」が、学問としての大学教育として、また国家試験受験科目〈社会福祉の原理と政策＝本学対応科目：社会福祉原論 A・B〉としても、双方に配慮したレポート学習およびスクーリングの授業内容としたいと考えております（そのため「社会福祉原論 A」を履修する方は、できましたらスクーリングも、是非受講していただききたいと存じます）。

以上の点を勘案し、以下のレポート課題を設定しました。

1 単位めは、社会福祉の政策についての課題です。社会福祉にかかわる歴史的事象の《全般的な把握と肝要な細部》を目的としております。2 単位めは、社会福祉のあゆみの全体像の整理を目的としております。1～2 単位めのレポート学習を通して、学習者に社会福祉に対する一定の心象（イメージ）が形成されればと思います。教科書を十分活用してまとめてください。

レポート作成においては、教科書のみで対応できます。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め アドバイス

2 単位め アドバイス

教科書「第1章 社会福祉の歴史 第3節 日本の社会福祉の歴史的展開」および「第7章 福祉政策の動向と課題」を参考に要約してまとめてください。社会福祉の概念を福祉政策との関連からの理解と、社会福祉の固有性の理解を目的とします。

科目修了試験

■評価基準

教科書の内容理解に努めること。

社会福祉原論B			科目コード	CC3086
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	2年以上	田中 治和(上)／元村 智明(下)	



科目の概要

■科目の内容

社会福祉にかかわる全般的な基礎知識の学修と、社会福祉観の変遷についての理解を目的とします。“社会福祉”という言葉は広く使われるため、その実態の学問的把握は曖昧になりやすく、ともすると主観的な幸福論や通俗的な人生論に終始しやすいと思われがちです。しかし、多種多様な社会福祉事象および具体的な社会福祉実践の本質は、まぎれもなく他者の人生へのかかわりであり、理念的には人類史上の文化的創造の営為の一つとも解せます。したがって、「社会福祉原論B」では抽象度のやや高い社会福祉の原理・思想・哲学、そして社会福祉の諸理論とその展開を確認しながら専門用語・知識の確認に留まらず、常に「社会福祉とは何か」「社会福祉をいかに捉えていくのか」等を思考しながら学修することを望みます。大切なことは、自らの社会福祉観の涵養にあるといえます。

■到達目標

- 1) 社会福祉の全般的な基礎知識（社会福祉士・精神保健福祉士国家試験科目『社会福祉の原理と政策』の合格水準）を解説できる。
- 2) 社会福祉理論の要点を述べるができる。
- 3) 社会福祉の原理に関して理解し、説明することができる。

■教科書（「社会福祉原論Aと共通」）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 4 社会福祉の原理と政策』中央法規出版、2021年

※「社会福祉原論A」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用し、配付資料を中心に講義を行います。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価40%

■参考図書

厚生労働統計協会編『厚生の指標・臨時増刊 国民の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会、各年版

なお、詳細な参考図書は、スクーリング時に適宜紹介します。

■事前に学習してほしい内容

日々の報道において社会事象に十分に関心をもってふれてください。また、それが社会福祉の対象となる問題か、否かについて常に考えてみてください。

■履修登録条件

この科目は、「社会福祉原論 A」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

自らの社会福祉観を問い直しながら、社会福祉のあるべき姿について他人事ではなく自分事として考えてみたいと思います。具体的には以下の3点について検討することによります。

- 1) 社会福祉とは何か（基本的性格、存立の根拠、そこに包摂される理念や原理、原則などを含む）
- 2) 社会福祉が理論的かつ思想的にいかに議論され、展開してきたか
- 3) 社会福祉の原理について、考察する

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会福祉学の構造と特徴	社会福祉学を学ぶ基本的視点、歴史性から学ぶ意義と必要性
2	社会福祉の原理	基本的人間理解にもとづく他者支援の観点からの利他的行為
3	社会福祉の思想	人間の尊厳と社会正義、平和主義にもとづく社会福祉の思想
4	社会福祉の哲学	人間の尊厳と社会正義、平和主義にもとづく社会福祉の哲学
5	社会福祉理論の基本的な考え方	戦後社会福祉の理論の成立に係わる基本的考え方と枠組み
6	社会福祉の理論①	社会福祉の必要性を論じた政策論と技術論
7	社会福祉の理論②	社会福祉の必要性を論じた固有論と統合論
8	社会福祉の理論③	社会福祉の必要性を論じた運動論と経営論
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

とくに〈社会福祉〉の成立論拠についての理解を問います（教科書・配付資料、自筆ノートの持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「社会福祉はなぜ必要なのか」「福祉と社会福祉は異なるのか」について考えながら、受講されてください。

なお、教科書の「第2章 社会福祉の思想・哲学・理論」「第5章 福祉政策におけるニーズと資源」「終章 これからの社会福祉」を一読して受講されてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容をさらに発展させて、日々の時事問題に関心を持ち、それが社会福祉の対象範囲となり得るか、否かについて考え続けながら他の科目を受講されてください。また、教科書の該当頁を再読されてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会福祉の論点 (第2章第3節)	社会福祉の論点と基本用語 キーワード：公私関係、普遍主義、選別主義、準市場、格差原理、正義論	社会福祉をめぐる論点を整理し、形式的に把握したうえで、社会福祉の公私関係から多元的供給主体について理解を深め、社会福祉の普遍主義と選別主義についてその意味を考えてみましょう。
2	社会福祉の原理 (序章)	社会福祉の原理とその問い キーワード：パラダイム、援助関係、社会福祉の対象	社会福祉の原理とは何か、原理がいかに問われてきたか、原理が問われることの理由と必要性について考えてみましょう。
3	社会福祉の思想・哲学 (第2章第1節)	社会福祉の思想・哲学への問い キーワード：イデオロギー、自由主義、フェミニズム	人間の尊厳と社会正義、平和主義にもとづく基本的考え方から、社会福祉の思想を創出した自由主義、その克服を図るフェミニズムについておさえてみましょう。
4	社会福祉理論の基本的な考え方 (第2章第2節)	戦後の社会福祉理論と社会福祉の定義 キーワード：パラダイム、目的概念、実体概念、社会事業論	戦後日本における社会福祉の定義、戦後の社会福祉理論の歴史的展開とその特徴について把握しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	社会福祉の理論① (第2章第2節)	社会福祉の政策論と技術論 キーワード：社会事業、専門社会事業	戦後社会福祉理論のなかで、社会福祉の必要性を論じた政策論（孝橋正一）と技術論（竹内愛二）について理解しましょう。
6	社会福祉の理論② (第2章第2節)	社会福祉の固有論と統合論 キーワード：固有の視点、人格の確立	戦後社会福祉理論のなかで、社会福祉の必要性を論じた固有論（岡村重夫）と統合論（嶋田啓一郎）について理解しましょう。
7	社会福祉の理論③ (第2章第2節)	社会福祉の運動論と経営論 キーワード：三元構造論、生活権、ニーズ論、サービス供給（体制）論	戦後社会福祉理論のなかで、社会福祉の必要性を論じた運動論（真田是・一番ヶ瀬康子）と経営論（三浦文夫）について理解しましょう。
8	社会福祉の理論④ (第2章第2節)	海外の社会福祉・福祉政策に関する理論 キーワード：福祉の社会的分業論、福祉多元主義、福祉ミックス、NPM（新公共経営論）	海外の社会福祉および福祉政策の理論概要について福祉の分業論（ティトマス）、福祉多元主義（ウルフェンデン報告）、新公共経営論、準市場（ルグラン）等について理解しましょう。
9	社会福祉の対象とニーズ (第2章第4節)	社会福祉の対象把握とニーズ キーワード：近代化、脱工業社会、包摂と排除、ニーズ論	社会福祉の対象としてのニーズ（必要）の特徴、社会福祉の対象の史的变化、対象としてのニーズの捉え方と現代的課題について把握しましょう。
10	現代社会と社会問題の背景 (第3章第2節)	社会問題の構造的背景 キーワード：少子化、高齢化、複合喪失、情報化社会、就職氷河期世代、性別役割分業	社会問題が創出しているその社会構造と社会背景をふまえて、社会問題を理解するための多面的視点と社会問題の複合要因への理解、そこに社会福祉が係わる価値について理解しましょう。
11	福祉政策におけるニーズ (第5章第1節)	福祉政策におけるニーズとは何か キーワード：ニーズの5段階、有効需要、フェルトニーズ、主権、ベーシックインカム	社会福祉におけるニーズ概念を理解するために、福祉政策におけるニーズ（必要）とデマンド（需要）の差異について考えながら、そのうえで福祉政策におけるニーズの把握・種類について理解しましょう。
12	福祉政策における資源 (第5章第2節)	福祉政策における資源とは何か キーワード：絶対的貧困、5人の巨人、社会関係資本	福祉政策におけるニーズ（必要）を充足するための資源（リソース）の考え方、その資源の性質や資源の種類、その開発や配分について理解しましょう。
13	欧米の社会福祉の理論① (第10章第1節)	国際比較の視点と方法 キーワード：福祉レジーム論、脱商品化、21世紀型福祉政策	福祉政策の3類型としての福祉レジーム論（自由主義レジーム・保守主義レジーム・社会民主主義レジーム）を理解し、＜20世紀型福祉政策＞と＜21世紀型福祉政策＞の特徴を把握しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	欧米の社会福祉の理論 ② (第10章第4節)	福祉政策の潮流と課題 キーワード：所得保障、サービス保障	福祉政策の国際比較をするうえで新たな展開として<所得保障>から<サービス保障>へ重視される背景を理解し、<サービス保障>の国際比較の課題について考えてみましょう。
15	21世紀社会と社会福祉 (終章)	21世紀社会の社会福祉の必要性和方向性 キーワード：福祉の複合体、宗教的慈善、ボランティア、セツルメント、ソーシャルワーク機能	社会福祉の原型、社会福祉の歴史的展開、社会福祉の到達点、社会福祉の方向性について理論・歴史・政策の観点から再確認し、社会福祉の必要性について再確認・再学修しながら、把握してみましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	現代社会における社会福祉の原理・理論・論点を踏まえて、自らの社会福祉観（対象観と対象者観）をまとめてみてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

「社会福祉原論」は、長年にわたり社会福祉学の教育研究における必要不可欠な基礎科目です。しかし、「社会福祉および介護福祉士法」の施行に伴い、大学教育の観点からの「社会福祉原論」の講義は困難になっていると思われます。むしろ社会福祉士等の資格取得を目指し、国家試験受験科目の一つとして履修されている方も多いと推察しております。

担当教員としては、「社会福祉原論B」が、学問としての大学教育として、また国家試験受験科目〈社会福祉の原理と政策＝本学対応科目：社会福祉原論A・B〉としても、双方に配慮したレポート学習およびスクーリングの授業内容としたいと考えております（そのため「社会福祉原論B」を履修する方は、できましたらスクーリングも、是非受講していただききたいと存じます）。

以上の点を勘案し、以下のレポート課題を設定しました。

1 単位めは、社会福祉の原理についての課題です。社会福祉にかかわる原理の《全般的な把握と肝要な細部》を目的としております。2 単位めは、社会福祉理論および論点の全体像の整理を目的としております。1 単位めのレポート学習を通して、学習者に社会福祉に対する一定の心象（イメージ）が形成されればと思います。教科書を十分活用してまとめてください。

レポート作成においては、教科書のみで対応できます。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め
アドバイス



教科書「第2章 社会福祉の思想・哲学・理論」「終章 これからの社会福祉」を参考に要約してください。

科目修了試験

■評価基準

教科書の内容理解に努めること。

ソーシャルワークの基盤と専門職			科目コード	CC3087
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	2年以上	二渡 努	



科目の概要

■科目の内容

現代の我が国では孤独死や引きこもりなど、福祉ニーズが複雑化、多様化、高度化しており、従来の縦割り、分野別の対応ではなく、総合的かつ包括的な対応が必要とされています。そのような福祉ニーズを充足するための実践活動をソーシャルワークといい、ソーシャルワーク実践の担い手である社会福祉士、精神保健福祉士に課せられた使命は大きなものであるといえます。

本科目は、ソーシャルワーク実践の基盤となる価値観の涵養を図り、理論、方法に関する知識、技術について学習するものです。具体的には、社会福祉士と精神保健福祉士の法的な位置づけ、ソーシャルワークのグローバル定義、ソーシャルワークの形成過程、ソーシャルワーク実践における原理と理念、ソーシャルワークの倫理綱領、ソーシャルワーク実践において直面するジレンマ等について、現状のみならず、それらが必要とされる社会的背景についても学習します。

■到達目標

- 1) ソーシャルワークの専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけを述べることができる。
- 2) ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程を説明できる。
- 3) ソーシャルワーク実践を支える価値規範と倫理について説明することができる。
- 4) ソーシャルワーカーが倫理的ジレンマに直面した際の対応について説明することができる。

■教科書（「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目]11ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、2021年
（スクーリング時の教科書） 上記教科書と配付資料を用いて講義を行いますので、上記教科書は必ず持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

- 1) 宮本節子著『ソーシャルワーカーという仕事』筑摩書房、2013年
- 2) 相川章子、田村綾子、廣江仁著『かかわりの途上で—こころの伴走者、PSWが綴る19のショートストーリー』へるす出版、2009年
- 3) 勝部麗子著『ひとりぼっちをつくらない—コミュニティソーシャルワーカーの仕事』全国社会福祉協議会、2016年
- 4) 右田紀久恵、高澤武司、古川孝順編『社会福祉の歴史—政策と運動の展開（新版）』有斐閣、2001年
- 5) メアリー・E. リッチモンド著、小松源助訳『ソーシャル・ケース・ワークとは何か』中央法規出版、1991年
- 6) 全米ソーシャルワーカー協会編、竹内一夫訳『ソーシャル・ケースワーク：ジェネリックとスペシフィック—ミルフォード会議報告—』相川書房、1993年
- 7) H・M・バートレット著、小松源助訳『社会福祉実践の共通基盤』ミネルヴァ書房、2009年
- 8) カレル・ジャーメイン他著、小島蓉子編訳『エコロジカル・ソーシャルワーク：カレル・ジャーメイン名論文集』学苑社、1992年
- 9) 日本社会福祉士会編『改訂社会福祉士の倫理—倫理綱領実践ガイドブック—』中央法規出版、2009年
- 10) 本多勇、木下大生、後藤広史他著『ソーシャルワーカーのジレンマ～6人の社会福祉士の実践から～』筒井書房、2009年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、ソーシャルワークの基盤・理論・方法についてイメージがもてるよう、具体的な事例を用いて講義を行います。ソーシャルワークは時代の要請に応じて変化するものであるため、国内・外を問わず、常に社会問題に関心を持つことを心掛け、どのような社会的背景からその内容が誕生、発展したのか、暗記ではなく考えながら学習する視点をもってスクーリングに臨んでください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会福祉士及び介護福祉士法	社会福祉士及び介護福祉士法成立の背景、定義、義務、法制度見直しの背景等について学習する。
2	精神保健福祉士法	精神保健福祉士法成立の背景、定義、義務、法制度見直しの背景等について学習する。
3	ソーシャルワークの概念と基盤となる考え方	ソーシャルワークのグローバル定義について学習し、ソーシャルワークの全体像を理解する。ソーシャルワークの原理である、社会正義、人権尊重等について学ぶ。

回数	テーマ	内容
4	ソーシャルワークの形成過程	ソーシャルワークの萌芽となった背景を理解し、その基礎が確立していく過程を理解する。ソーシャルワークの発展、展開、統合化までの流れ、理論展開について理解する。
5	ソーシャルワークの理念①	ソーシャルワークの理念である、当事者主権、尊厳の保持、権利擁護について学ぶ。
6	ソーシャルワークの理念②	ソーシャルワークの理念である、自立支援、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーションについて学ぶ。
7	ソーシャルワークの価値、倫理①	専門職倫理の概念と、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士、精神保健福祉士の倫理綱領について学ぶ。
8	ソーシャルワークの価値、倫理②	倫理的ジレンマの内容や判断プロセスについて学ぶ。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書、パワーポイント、配付資料を用いて講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（教科書・配付資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

スクーリング学習の講義内容に該当する教科書を読んできてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会福祉士の法的な位置づけ (第1章)	法制度成立の背景、定義、義務、法制度の見直しの背景等について学習する。 キーワード：社会福祉士及び介護福祉士法、名称独占、秘密保持義務、連携、地域共生社会	ソーシャルワークの専門職である社会福祉士が誕生した背景と現状、その変遷等について理解しましょう。法改正の内容については、改正の背景についても併せて理解しましょう。
2	精神保健福祉士の法的な位置づけ (第1章)	法制度成立の背景、定義、義務、法制度の見直しの背景等について学習する。 キーワード：精神保健福祉士法、名称独占、秘密保持義務、連携、地域移行支援	ソーシャルワークの専門職である精神保健福祉士が誕生した背景と現状、その変遷等について理解しましょう。法改正の内容については、改正の背景についても併せて理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	ソーシャルワークの定義 (第2章)	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について学習し、ソーシャルワークの全体像を理解する。 キーワード：ソーシャルワーク専門職のグローバル定義、マイクロレベル、メゾレベル、マクロレベル	ソーシャルワーク実践の基本となる、ソーシャルワークのグローバル定義について、その内容と変遷等について理解しましょう。また、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義の日本における展開についても理解しましょう。
4	ソーシャルワークの構成要素 (第2章)	ソーシャルワークを構成する要素について学習し、ソーシャルワーク実践の具体的な内容を理解する。 キーワード：クライアントシステム、社会資源、ニーズ、ソーシャルワーク・コンピテンシー	ソーシャルワークの構成要素について、ソーシャルワーク実践の具体的な事例に当てはめて理解しましょう。
5	ソーシャルワークの原理 (第3章)	ソーシャルワークの原理である、社会正義、人権尊重等について学ぶ。 キーワード：社会正義、人権尊重、多様性尊重	ソーシャルワーク実践の原理となる、社会正義、人権尊重等について、ソーシャルワーク実践の具体的な事例に当てはめて理解しましょう。
6	ソーシャルワークの理念1 (第3章)	ソーシャルワークの理念である、当事者主権、尊厳の保持、権利擁護等について学ぶ。 キーワード：当事者主権、愚行権、尊厳の保持、権利擁護	ソーシャルワーク実践の原理となる、当事者主権、尊厳の保持、権利擁護について具体的な事例に当てはめて理解しましょう。
7	ソーシャルワークの理念2 (第3章)	ソーシャルワークの理念である、自立支援、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション等について学ぶ。 キーワード：自立支援、ソーシャルインクルージョン、バンクーミケルセン、ニリエ、ノーマライゼーション	ソーシャルワーク実践の際の原理となる自立支援、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーションについて、具体的な事例に当てはめて理解しましょう。
8	ソーシャルワークの形成過程：萌芽期 (第4章)	ソーシャルワーク萌芽の背景を理解する。 キーワード：慈善組織協会、セツルメント、バーネット、ジェーン・アダムス	ソーシャルワークの形成過程について、その萌芽となる慈善組織協会、セツルメント活動について理解しましょう。また、これらの活動が必要とされた社会的な背景も併せて学習しましょう。
9	ソーシャルワークの形成過程：基礎確立期 (第4章)	ソーシャルワークの基礎が確立していく背景を理解する。 キーワード：リッチモンド、ミルフォード会議、ジェネリック、スペシフィック	リッチモンドが体系化したソーシャル・ケース・ワークの経緯と内容について理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	ソーシャルワークの形成過程：発展期 (第4章)	ソーシャルワークが発展していく流れ、理論について理解する。 キーワード：診断学派、機能学派、フロイト、ハミルトン、タフト、ロビンソン、グループワーク、コミュニティオーガニゼーション	ソーシャル・ケース・ワークが診断主義と機能主義に分化していく経過とその背景、グループワークとコミュニティオーガニゼーションの源流について、社会的な背景も併せて学習しましょう。
11	ソーシャルワークの形成過程：展開期 (第4章)	ソーシャルワークが展開していく流れ、理論について理解する。 キーワード：パールマン、問題解決アプローチ、心理社会的アプローチ、生活モデル、パートレット、エコロジカル・アプローチ、ジャーメイン、ギッターマン	生活モデルなど、ソーシャルワークの各種アプローチやモデルについて理解しましょう。
12	ソーシャルワークの形成過程：統合化 (第4章)	ソーシャルワークの統合化に関する時代的背景、統合化までの流れについて理解する。 キーワード：システム理論、統合化、ジェネラリスト・アプローチ、ジェネラリスト・ソーシャルワーク	ケースワーク、グループワーク、コミュニティオーガニゼーションの各技法が統合化される過程と背景について理解しましょう。
13	ソーシャルワークの倫理1 (第5章)	専門職倫理の概念と、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領について学ぶ。 キーワード：ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領、社会福祉士の行動規範	ソーシャルワーカーと社会福祉士の倫理綱領の意義と内容について理解し、実践場面においてどのように活用するか、具体的な事例を想定して理解しましょう。
14	ソーシャルワークの倫理2 (第5章)	ソーシャルワーク実践の基盤となる精神保健福祉士の倫理綱領について学ぶ。 キーワード：精神保健福祉士の倫理綱領、精神保健福祉士業務指針、Y問題	精神保健福祉士の倫理綱領の意義と内容について理解し、実践場面においてどのように活用するか、具体的な事例を想定して理解しましょう。
15	ソーシャルワークの倫理3 (第5章)	倫理的ジレンマの内容と判断プロセスについて学ぶ。 キーワード：倫理的ジレンマ、守秘義務、タラソフ事件、バーンアウト	ソーシャルワーク実践において、倫理的ジレンマに直面した際、どのようなプロセスを経て対応するか、具体的な事例を想定して考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	ソーシャルワーク実践において倫理綱領が必要とされる理由と、ソーシャルワーカーが倫理的ジレンマに直面した際の対応について、その過程と留意点について述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題のテーマについて正しく理解し、規定の文字数の範囲内で、誤字・脱字のない読み手に配慮した文章を記述することに留意してください。記述内容については、教科書等の要約のみとならないよう、課題テーマに対して自身の考察を客観的に記述することに留意してください。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

ソーシャルワーク実践においては、生命の保護、自己決定の尊重、秘密保持義務などの様々な価値が複数存在し、それらの価値が衝突する倫理的ジレンマに遭遇することがあります。ソーシャルワーカーとして、そのような状況に直面した際の対応について、そのプロセス、判断基準、留意点について具体的な事例と対応例をイメージしながら記述してください。倫理的ジレンマについて具体的な事例や対応例がイメージできない場合は、ソーシャルワーカーやソーシャルワーカー以外の対人援助職の実践内容が記載された書籍、論文などを参考にしてください。

教科書の第5章「ソーシャルワークの倫理」を参考にしてください。

<キーワード>

ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領、社会福祉士の行動規範、精神保健福祉士の倫理綱領、倫理的ジレンマ

科目修了試験

■評価基準

- 1) 課題のテーマについて正しく理解し、規定の文字数の範囲内で、誤字・脱字のない読み手に配慮した文章を記述することに留意してください。
- 2) 記述内容については、課題テーマについて事実誤認なく現状を理解した上で記述してください。
- 3) 現状整理にとどまらず、自身の考察が客観的に記述されているかという点を重点的に評価します。

権利擁護を支える法制度

科目コード

CE3090



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	菅原 好秀

科目の概要

■科目の内容

本講義は権利擁護の本質を学修し、よりよい支援につなげていくために、法学の本質的理解の獲得を目的とします。認知症、知的障害、精神障害等により判断能力が低下した者の権利が侵害された場合に、権利擁護を支える担い手として社会福祉士、精神保健福祉士への期待が高まっています。

憲法では日本国憲法の中核である「個人の尊重」を踏まえて権利擁護の視点から基本的人権を概説します。民法では紛争解決のために必要となる法原理を概説します。行政法では権利擁護に必要な法原理を概説します。成年後見制度では判断能力が不十分な人々の生活全般の支援方法を、事例を挙げて概説します。権利擁護の意義と支える仕組み、権利擁護活動と意思決定支援については権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法学の視点から何が必要なのかについて説明します。

■到達目標

- 1) 権利擁護の概念と関連する法律・制度の概要を理解する。そのうえで、権利擁護の重要な概念である意思決定支援、本人の最善の利益について実践と結び付けて説明、考察することができるようになる。
- 2) 成年後見制度の関連法、法定後見・任意後見制度の内容、手続き方法、制度上の問題・課題、実践上の課題を理解し、事例を挙げて説明、考察できるようになる。
- 3) 日常生活自立支援事業や虐待防止・対応等社会福祉サービスにおける権利擁護の現状と課題を理解し、事例を挙げて説明、考察できるようになる。

■教科書（「刑事司法と福祉」と共通）

- 1) 渡辺信英著「更生保護制度 改訂新版」南窓社、2018年
- 2) 菅原好秀著『権利擁護論』建帛社、2022年

（スクーリング時の教科書）上記教科書は必ず持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価 or 科目修了試験70%

■参考図書

- 1) 菅原好秀著『リスクマネジメントと法』建帛社、2020年
- 2) 菅原好秀編著『福祉ライブラリー 福祉法学 第2版』建帛社、2020年

■事前に学習してほしい科目

この科目を学ぶにあたり、事前に「法の基礎」「刑事司法と福祉」「家族法」「福祉リスクマネジメント」の教科書を読み、わからないところとわかるところをある程度、分類把握し、わからない用語は参考図書等を活用して調べてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

- 1) 権利擁護を支える憲法、民法、行政法の仕組みを理解する。
- 2) 権利擁護の意義と仕組みについて理解する。
- 3) 権利擁護活動と意思決定支援について理解する。
- 4) 権利擁護活動に必要な組織・団体・専門職について理解する。
- 5) 成年後見制度を支える諸制度を理解する。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	権利擁護の基本原理	福祉と個人の尊重の意義について
2	基本的人権と判例	社会権に関する判例について
3	民法の基本原理	総則、物権、債権、家族法の各意義について
4	成年後見制度の全体像	後見、保佐、補助の各意義について
5	成年後見制度の現状と課題	成年後見制度の現実的な問題点について
6	権利擁護活動	意思決定支援について
7	権利擁護の専門職の役割	権利擁護に関わる組織、団体について
8	権利擁護と法制度	権利擁護を支える法制度の問題点について
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

法律は用語が難解であるため、一度で理解し覚えることは難しいため、できるだけ板書を中心に、教科書を用いながら講義を進めます。しっかりと講義を聴き、ノートをとるようにしてください。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20%）とスクーリング試験（80%）で評価します。スクーリング試験は教科書・ノート・配布資料の持込可ですが、パソコンや携帯など電子機器類の持込はできません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

事前に教科書を読んでわからないところとわかるところをある程度、分類把握し、わからない用語は参考図書等を活用して調べてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	権利擁護の基本原則	日本国憲法第13条の「個人の尊重」と権利擁護について理解する。	個人の存在価値とは何か、また、個人の差異はなぜ必要なのかについて考えてみましょう。
2	基本的人権と自由権	自由権の制度趣旨と判例を中心に法の解釈について理解する。	エホバの証人事件の事案の概要を踏まえて判旨の内容を理解することが重要です。
3	基本的人権と社会権	社会権の制度趣旨と判例を中心に法の解釈について理解する。	朝日訴訟と堀木訴訟の事案の概要を踏まえて判旨の内容を理解することが重要です。
4	行政法	行政法の概要について理解する。	行政不服申立て、行政事件訴訟法の概要を判例の事案を通じて理解することが重要です。
5	民法の基本原則	民法の全体像について理解する。	民法の総則・物権・債権・親族・相続の相互の関係性について理解することが重要です。
6	成年後見制度	成年後見制度の概要について理解する。	法定後見制度（後見・保佐・補助）について事例を挙げて理解することが重要です。
7	任意後見制度	任意後見制度の概要について理解する。	法定後見制度と任意後見制度の相違について理解することが重要です。
8	成年後見制度の現状と課題	成年後見制度の最近の動向と課題について理解する。	成年後見制度の現状と課題を踏まえて、今後求められる対応策について理解することが重要です。
9	日常生活自立支援事業	日常生活自立支援事業の概要について理解する。	日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携について理解することが重要です。
10	権利擁護の意義と支える仕組みについて	権利擁護の意義と支える法制度の概要について理解する。	苦情解決制度、児童虐待防止法、高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法について理解することが重要です。
11	権利擁護にかかわる組織、団体、専門職	権利擁護にかかわる組織、団体、専門職の全体像について理解する。	家庭裁判所、社会福祉協議会、児童相談所、中核機関、弁護士、司法書士、社会福祉士、精神保健福祉士について理解することが重要です。
12	権利擁護活動と意思決定支援	権利擁護活動と意思決定支援の全体像について理解する。	意思決定支援の意義、意思決定支援ガイドライン、インフォームドコンセントについて理解することが重要です。
13	意思決定支援と個人情報保護法	意思決定支援と個人情報保護法の全体像について理解する。	個人情報保護法の制度、秘密保持義務の課題について理解することが重要です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	権利擁護と法制度	権利擁護に関する法と制度について理解する。	法と規範、法の体系、種類、機能について理解することが重要です。
15	権利擁護と法制度の現状と課題	権利擁護と法制度の最近の動向と課題について理解する。	権利擁護と法制度の現状と課題を踏まえて、今後求められる対応策について理解することが重要です。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	次の課題のなかから1題を選び、論述しなさい。 ①日本国憲法の基本原理の基本的人権と国民主権について述べなさい。 ②成年後見制度について、事例を挙げながら、説明しなさい。 ③意思決定支援について説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

論述にあたっては、法制度の意義、内容を具体的に説明した上で、自分の考えが述べられるようにしてください。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

- 1) 基本的人権と国民主権の内容を説明した上、判例についても具体的に言及してください。
- 2) 法定後見制度、任意後見制度の各制度の内容について説明した上で、後見、保佐、補助の各事例について具体的に言及してください。

- 3) 意思決定支援の内容を説明した上で、いわゆる「エホバの証人事件」の裁判事例を挙げて自分なりの視点から具体的に言及してください。

科目修了試験

■評価基準

当該科目の内容理解がなされているかが重要であり、論述の分量（1問あたり400～800字程度）も評価の対象となります。また、法の制度趣旨、意義を述べた上で、現状を踏まえて自分なりの視点から論じられることも評価の対象となります。

ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)		科目コード	CC3091
単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	清水 冬樹

科目の概要

■科目の内容

実践場面を事例として取り上げつつ、ソーシャルワークに関わる基本的なことについて、主に以下の点に着目しながら学ぶ

- 1) ソーシャルワークを展開する上で直面するジレンマ
- 2) ソーシャルワークの価値と倫理
- 3) ソーシャルワークの実践のあり様
- 4) ワーカーとクライアントの関係性
- 5) ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性、それぞれのレベルへの介入

■到達目標

- 1) ソーシャルワークにおけるジレンマとは何か説明できる
- 2) ソーシャルワークの価値と倫理について説明できる
- 3) 事例からソーシャルワークの実際について説明できる
- 4) ワーカーとクライアントの関係性の捉え方について理解できる
- 5) 事例を踏まえて、ミクロ・メゾ・マクロレベルを一貫して捉えつつ、ソーシャルワークの実践のあり方を説明することができる

■教科書（「ソーシャルワークの基盤と専門職」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目]11ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』、中央法規出版、2021年

※「ソーシャルワークの基盤と専門職」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心にして講義を行います。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

- 1) 東洋大学福祉社会開発研究センター編著『社会を変えるソーシャルワーク 制度の枠組みを越え社会正義を実現するために』ミネルヴァ書房、2020年
- 2) 稲沢公一、岩崎晋也『社会福祉をつかむ 第3版』有斐閣、2019年
- 3) 稲沢公一『援助関係論入門』有斐閣、2017年
- 4) フレデリック・G・リーマー(2001)『ソーシャルワークの価値と倫理』中央法規出版、2001年
- 5) 日本社会福祉士会編『改定社会福祉士の倫理—倫理綱領実践ガイドブック—』中央法規出版、2009年
- 6) 久保紘章・副田あけみ編著『ソーシャルワークの実践モデル 心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店、2005年
- 7) 太田義弘・秋山薊二編著、中村佐織・齊藤順子・谷口泰史・佐野真紀共著『ジェネラル・ソーシャルワーク』光生館、2002年
- 8) 山辺朗子著『ジェネラリスト・ソーシャルワークにもとづく社会福祉のスーパービジョン：その理論と実践（新・MINERVA 福祉ライブラリー）』ミネルヴァ書房、2015年

■履修登録条件

この科目は、「ソーシャルワークの基盤と専門職」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録するのみが履修登録できます。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

今日、社会福祉が対象として捉えてきた人たちへの支援について、社会的な同意や理解が得られない場面に遭遇することがあります。私たちの問題として捉え、社会的な解決を目指すために、ソーシャルワークではどのようなことが求められるのか、事例等を用いて一緒に考えていきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	専門職倫理と倫理的ジレンマ【担当教員配付資料】	事例を用いてジレンマについて学びます
2	ソーシャルワークの価値と倫理【担当教員配付資料】	ソーシャルワークの価値と倫理について、事例を用いながら学びます
3	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象【第7章第1節】	事例を用いつつ、ミクロ・メゾ・マクロの意味やシステム理論について学びます
4	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開【第7章第2節】	事例を用いつつ、ミクロ・メゾ・マクロの捉え方について学びます
5	援助関係への視点【担当教員配付資料】	援助関係のパラドックスについて学びます
6	総合的かつ包括的な支援の意義【第8章第1～2節】	事例を用いて、総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点を学びます

回数	テーマ	内容
7	多職種連携のあり方【第8章第3節】	地域共生社会の実現における市民社会との連携に関する課題について学びます
8	コロナ禍のソーシャルワーク【担当教員配付資料】	covid-19におけるソーシャルワークの事例から、今後ソーシャルワーカーに求められる資質について学びます
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

スライドおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書も使用します。

■スクーリング 評価基準

とくに到達目標記載内容についての理解を問います（自筆のノートのみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

スクーリングの講義内容に記載してあるキーワードについて、事前に学ぶようにしてください。また、様々な媒体を手がかりにソーシャルワーカーの実践について理解して、スクーリングに臨むようにしてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

配付資料やテキストを見直しつつ、自筆ノートの作成をするようにしてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲【第6章第1節】	ソーシャルワーカーが専門職として位置づく上で、今日までどのような議論がなされてきたのかを理解する。 キーワード：フレックスナー、グリーンウッド、秋山智久、専門職の条件、仲村優一、「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について」	ソーシャルワーカーが専門職であるための条件について、その歴史に着目しつつ整理してください。
2	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲【第6章第1節】	ソーシャルワーカーの独自性と専門性について、生活という観点から理解する。 キーワード：生活者、職能団体	社会生活支援・地域支援の専門性とその必要性について、身近な事例や福祉系の特集番組などを参考に理解を深めてください。職能団体については、HP等を検索してみてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	社会福祉士の職域と役割 【第6章第2節】	社会福祉士が活躍する様々な領域について、その範囲が拡大した背景も踏まえて理解する。 キーワード：児童福祉法、介護保険法、障害者総合支援法、生活困窮者自立支援法、MSW、SSW、地域生活定着支援センター、独立型社会福祉士	社会福祉士が働く職域の拡大していく一方で、限定的なサービスが構築されてきていることが、近年の社会福祉サービスの特徴です。この点を自身の言葉で説明ができるようになると思います。
4	多様な組織・機関・団体における専門職 【第6章第3節】	ソーシャルワーカーが関わるのが想定される社会資源について理解する。 キーワード：ハローワーク、特定非営利活動法人、福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、配偶者暴力相談支援センター、社会福祉協議会、地域包括支援センター、国際NGO	ソーシャルワークの実践を担うさまざまな職種や職場、他職種などを具体的に調べてみてください。その際、都市部と地方の違いについても整理できると良いと思います。
5	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象 その1 【第7章第1節】	マイクロ、メゾ、マクロの意味について理解する。 キーワード：マイクロレベル、メゾレベル、マクロレベル	他の対人援助専門職とソーシャルワークが対象とする範囲を比較しながら理解を深めてください。
6	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象 その2 【第7章第1節】	マイクロ、メゾ・マクロレベルの相互関係性について、概念図や事例を探しながら理解する。 キーワード：システム	マイクロ、メゾ・マクロレベルの相互関係性を福祉系の番組などを参考しながら考えてみてください。
7	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 その1 【第7章第2節】	マイクロレベルのソーシャルワークの捉え方を理解する。 キーワード：診断主義、機能主義、環境モデル、物語モデル	ソーシャルワークにおけるクライアントの生活課題の捉え方について、キーワードを手がかりとしながら整理してください。
8	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 その2 【第7章第2節】	メゾレベルのソーシャルワークの捉え方を理解する。 キーワード：家族、地域、コミュニティ、学校、職場、組織	メゾレベルにおけるソーシャルワークの展開について、キーワードを手がかりとしながら整理してください。
9	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 その3 【第7章第2節】	ソーシャルワークのグローバル定義を踏まえて、マクロレベルのソーシャルワークの捉え方を理解する。 キーワード：社会変革、社会開発、社会的結束、エンパワメントの解放と促進	ソーシャルアクションの事例を探しながら理解を深めてください。
10	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点 その1 【第8章第1節】	これまでの社会福祉の議論で着目されてきた児童福祉や障害者福祉といった縦割りによる理解ではなく、各領域を貫く実践の視点について学ぶ。 キーワード：ジェネラリスト	テキストに記載されている事例を手がかりに、生活問題はどのように発生したり発見されたりしているのか考えてみてください。普遍的な生活課題の捉え方が見えてくると思います。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
11	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点 その2 【第8章第1節】	ジェネラリストソーシャルワークの変遷について踏まえた上で、共通基盤としてとしてのソーシャルワークの価値と倫理、知識、技術の体型について学ぶ。 キーワード：ケースワーク、グループワーク、コミュニティ オルガニゼーション	ジェネラリストソーシャルワークの変遷について確実に理解できるようにしておいてください。
12	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容 その1 【第8章第2節】	地域共生社会の実現に関わる資源の捉え方について学ぶ。 キーワード：フォーマルサポート、インフォーマルサポート、資源開発	地域共生社会の実現について、導入の経過や課題について確実に理解・説明できるようにしておいてください。
13	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容 その2 【第8章第2節】	多機関・多職種の連携、協働による包括的支援体制の構築のあり様について理解する。 キーワード：コンボイモデル、コミュニティディベロップメント	ソーシャルサポートネットワークについて、まずは概念としてしっかりと理解できるようにしておいてください。また、テキストにはフードバンクについての記載があります。ぜひ、どのような実践なのか、実施団体のHP等を見ながら考えてみてください。
14	多職種連携およびチームアプローチの意義と内容 その1 【第8章第3節】	多職種連携、チームアプローチの意義と内容について理解をする。 キーワード：協働、共同、協同	キーワードに挙げた3つの言葉の意味について必ず理解しておいてください。また、テキスト p.290から記載がある事例を読んだ上で、多職種をつなぐ視点について考えてみましょう。
15	多職種連携およびチームアプローチの意義と内容 その2 【第8章第3節】	多職種連携・多機関連携によるソーシャルアクションについて、事例を手がかりに理解をする。 キーワード：ソーシャルアクション、情報の共有	テキスト p.294にある表8-3の意味について、具体的に説明できるようにしておきましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	①ジェネラリストソーシャルワークについて、その変遷を1,000字以内で論じなさい。 ②地域共生社会の課題とソーシャルワーカーの立ち位置について、あなたの考えを1,000字以内で論じなさい。 【①②両方必要】

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートの書き方に関する一般的なマナーやルールをしっかりと守って記述してください。特に引用や参考にした文献等は必ず記載しましょう。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

- ①使用するテキストには、ソーシャルワークの変遷に関する記述があります。そこも活用しながら取り組んでください。
- ②地域共生社会の現状と課題についていくつか調べた上、特に課題について整理してみましょう。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 科目の内容、ポイントを十分に理解できているか。
- 2) 出題の内容を理解し、設題の意図をきちんと踏まえ、論じられているか。
- 3) 単なる説明ではなく、自身の意見や考えを十分に示すことができているか。
- 4) 適切な文章表現であり、一定量以上の分量でまとめられているか。

社会福祉調査の基礎

科目コード

CC3092



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	村山 くみ

科目の概要

■科目の内容

ソーシャルワークとは、実践に基づいた専門職であり学問である。そのため、ソーシャルワーカーには学問としてのソーシャルワークの発展を支えるとともに、専門職として自らのソーシャルワーク実践を適切に評価する能力が必要とされている。場当たりの実践や経験値のみに頼った実践から脱却し、客観的方法によってソーシャルワーク実践を評価し、知識を蓄積していくことが求められており、それを可能とするのが社会福祉調査である。

そこで本科目では、社会福祉調査に関する知識と技術の習得を目的とする。具体的には、社会福祉調査の意義と目的、倫理と個人情報保護、具体的な調査方法や分析手法などについて学習する。また、社会福祉調査の知識と技術をソーシャルワーク実践の評価に適用させる方法についても事例などを用いて実践的に学んでいく。

■到達目標

- 1) 社会福祉調査の意義を近代史に位置付けて述べることができ、今日におけるその目的を説明できる。
- 2) 社会福祉実践における社会福祉調査、評価法の意義と役割について説明することができる。
- 3) 統計法の目的と主な内容について解説することができる。
- 4) 社会福祉調査における倫理と個人情報保護に関する基本的な考え方について説明することができる。
- 5) 社会福祉調査及び評価法の基本的プロセス（データ分析法も含む）について説明することができる。
- 6) 目的に応じた社会福祉調査を企画・設計することができる。

■教科書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 5 社会福祉調査の基礎』中央法規出版、2021年

(スクーリング時の教科書) 上プリントをスクーリング時に配付します。また、上記教科書も参照します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

- 1) 佐藤郁哉『社会調査の考え方 [上]』東京大学出版、2015年
- 2) 佐藤郁哉『社会調査の考え方 [下]』東京大学出版、2015年
- 3) 大谷信介、木下栄二、後藤範章、小松洋編著『新・社会調査へのアプローチ－理論と方法－』ミネルヴァ書房、2013年
- 4) 小田利勝『社会調査法の基礎』プレアデス出版、2009年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリング（講義）では、社会福祉調査の意義と目的及び方法について学習するとともに社会調査における倫理や個人情報保護についての理解を深めます。また、量的調査、質的調査の特徴と方法について学んだうえでそれらの知識と技術をソーシャルワークの評価に適用させて実施する方法について事例を用いながら解説していきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会福祉調査の意義と目的	社会調査の意義と目的、社会調査の歴史
2	社会福祉調査における倫理	社会福祉調査における倫理と個人情報保護
3	量的調査の種類と方法	全数調査、標本調査、横断調査、縦断調査、二次分析
4	質問紙の作成、配布、回収	質問紙の作成方法、測定水準、コーディング、自記式と他記式、配布と回収方法
5	量的調査の集計と分析	データの整理、基本統計量、推定と検定
6	質的調査の種類と方法	観察法、面接法
7	質的調査のデータ分析方法	事例研究、ナラティブアプローチ、エスノグラフィー、GTA、アクションリサーチ
8	ソーシャルワークにおける評価	評価の種類、実験計画法、シングル・システム・デザイン
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配布資料を中心に講義を進めます。講義中の教科書使用は参考程度です。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験は、スクーリング中に学んだ内容から出題します（持込不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第4章、第5章に目を通してきてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会福祉調査の意義と目的（第1章第1、2、3節）	<p>ソーシャルワークの役割も視野に入れて社会福祉調査の意義や有効性について理解する。</p> <p>キーワード：社会調査、福祉サービス、ソーシャルワーク実践、社会踏査、貧困調査など</p>	<p>社会調査と社会福祉調査の関係を踏まえて、社会福祉調査の意義や有効性について考えてみましょう。さらに、社会保障や社会福祉の発展過程において社会調査が果たしてきた役割から、社会福祉調査の今日的意義について考えてみましょう。</p>
2	統計法（第1章第4節）	<p>日本における統計調査の基幹法となる統計法について理解する。</p> <p>キーワード：社会の情報基盤、基幹統計、基幹統計調査、統計委員会など</p>	<p>日本における統計調査の基幹法となる統計法の基本構造とポイントについて整理してみましょう。</p>
3	社会福祉調査における倫理と個人情報保護（第2章）	<p>調査対象者の人権を保護するという観点から社会福祉調査における倫理や個人情報の保護について理解する。</p> <p>キーワード：倫理規定、社会福祉士の倫理綱領、精神保健福祉士の倫理綱領など</p>	<p>社会福祉調査の成立とプライバシーの関係について把握するとともに、調査対象者の人権を保護するために社会調査を実施する者に求められる倫理的な行動規範にはどのようなものがあるか確認してみましょう。</p>
4	社会福祉調査のデザイン（第3章）	<p>ソーシャルワークの過程における調査の知識と技術の適用について理解するとともに調査計画書の作成について学習する。</p> <p>キーワード：ソーシャルワーク・リサーチ、アセスメント、評価、演繹法、帰納法、因果関係、妥当性、仮説など</p>	<p>ソーシャルワークを専門職として展開するためには、社会福祉調査の知識と技術が必要となります。ソーシャルワークにおける理論、実践、調査の関係について整理してみましょう。また、ソーシャルワークにおける調査のプロセスについても確認してみましょう。</p>
5	量的調査の概要と方法（第4章第1、2節）	<p>ソーシャルワーク実践における量的調査の意義や貢献について理解を深めるとともに、量的調査の方法について学習する。</p> <p>キーワード：全数調査、標本調査、横断調査、縦断調査、二次分析など</p>	<p>量的調査では、数値化することによってクライアントの特徴や環境などを可視化するとともに、実践の効果を測定していきます。量的調査がソーシャルワークの技術の一つであることを意識しながら、具体的な調査方法を整理してみましょう。</p>
6	質問紙の作成方法と留意点（第4章第3節）	<p>質問紙を作成する方法と手順、回答形式について学習する。また、測定に用いられる尺度の水準についても学習する。</p> <p>キーワード：ワーディング、尺度水準、コーディングなど</p>	<p>ソーシャルワーク実践に関する量的調査の多くは、質問紙調査によって実施されています。質問紙調査では、調査対象者が理解しやすい文章表現によって質問文を作成する必要があります。どのような点に注意し質問紙を作成すればよいか具体例を挙げながら確認してみましょう。</p>

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
7	質問紙の配布・回収（第4章第4節）	自記式と他記式の違いを学習するとともに、質問紙の配布と回収の方法について、それぞれの特徴を踏まえて理解する。 キーワード：自記式、他記式など	社会福祉調査では、さまざまな方法を用いて質問紙の配布と回収が行われています。それぞれの方法の特徴を整理し、適切な方法を選択するための要件を具体的に考えてみましょう。
8	量的調査の集計と分析（1）（第4章第5節）	調査目的と収集したデータに合致した分析手法を選定するための方法を理解する。 キーワード：エディティング、コーディング、クリーニング、基本統計量（代表値、散布度）、クロス集計、相関関係など	量的調査では、データの傾向を把握するために統計的処理を行うことが求められます。社会福祉学領域の調査で多用される平均値や中央値などについては教科書にあるデータを用いて実際に代表値を算出してみましょう。また、2変数間の関係性を記述するための代表的な方法についても確認してみましょう。
9	量的調査の集計と分析（2）（第4章第5節）	引き続き、調査目的と収集したデータに合致した分析手法を選定するための方法を学習するとともに、量的調査の分析によって出力されたデータの解釈方法についても理解する。 キーワード：推定、検定、平均値の差の検討、関連の検討、分類の検討	推定や検定に関する分析方法は多岐にわたり、使用するデータの変数の種類や調査目的に応じて、適切に使い分けられるようになることが求められます。特に、社会福祉学領域において多用される分析手法にどのようなものがあるか、選択基準などを整理してみましょう。
10	質的調査の概要と方法（第5章第1、2節）	量的調査と対比させることで質的調査の目的と諸方法の特徴について理解する。また、質的調査におけるサンプリングの特徴についても理解を深める。 キーワード：事例研究、ナラティブアプローチ、エスノグラフィー、GTA、アクションリサーチ、有意標本抽出	ソーシャルワークで扱う問題のなかには数値で表し、理解することが困難な領域も少なくありません。適切な方法を選択し調査を実施できるよう質的調査の諸方法の特徴についてまとめてみましょう。また、質的調査を用いてまとめられた調査報告書などに目を通してみましょう。
11	質的調査のデータ収集方法－観察法・面接法－（第5章第3節）	質的調査における主なデータ収集方法である観察法と面接法の特徴を理解する。 キーワード：参与観察法、非参与観察法、構造化面接、半構造化面接、非構造化面接	質的調査におけるデータ収集はおもに、観察法と面接法の二つである。調査目的・調査対象に応じて適切なデータ収集法を選択できるよう観察法と面接法の特徴をまとめてみましょう。また、ソーシャルワーク実践における面接と調査における面接の相違について考えてみましょう。
12	質的調査における記録の方法と留意点（第5章第4節）	質的調査における記録方法とソーシャルワーク実践現場の資料の活用について理解する。また、調査により収集したデータの取り扱いについても学習する。 キーワード：フィールドノーツ、トランスクリプト、ICTの活用	観察や面接では、どのような記録方法が用いられているのか、それぞれの方法の特徴と記録上の工夫などについて例を参考にしながら把握しましょう。また、質的調査では、様々な資料も有効なデータとなります。関心のあるテーマについてデータベースを使って実際に資料を収集してみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	質的調査のデータ分析方法（第5章第5節）	質的研究における各種の分析方法を理解する。また、ソーシャルワークにおける具体的な分析方法について学習する。 キーワード：事例研究、ナラティブアプローチ、エスノグラフィー、TEM、GTA、アクションリサーチ	例えば、事例研究は人々の個別的な状況を重要視するソーシャルワークにおいて欠かすことのできない方法の一つとなっています。ソーシャルワーク実践における具体的な分析方法について理解するため各種の分析方法を用いた研究をデータベースで探して読んでみましょう。
14	ソーシャルワークにおける評価の意義（第6章第1節）	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク実践の評価について理解する。 キーワード：EBP、NBP、アカウンタビリティ	ソーシャルワークはマイクロからマクロレベルまで連続性のある実践であるという点に特徴があります。ソーシャルワークの発展においてはあるレベルにおいて焦点化された実践を評価することが求められます。各レベルにおける実践の評価について事例をもとに把握していきましょう。
15	ソーシャルワークにおける評価対象と方法（第6章第2、3節）	ソーシャルワークにおける評価対象ならびに評価の種類について把握する。また、評価において用いられる手法について学習する。 キーワード：実験計画法、シングル・システム・デザイン	ソーシャルワークにおける評価の対象は実践に限られるものではなく、その対象はプログラム、政策、構造に分類することができます。また、評価方法の選択は、評価の対象がどの段階あるかを基準に考えることが重要となります。評価において用いられる手法については具体例を踏まえて把握していきましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	社会福祉調査の今日的役割について、社会福祉の発展過程において社会調査が果たしてきた役割を踏まえ説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートの作成にあたっては、テキストや文献等の丸写しにならないように気を付けてください。引用する場合には、「」を使用し、引用であることを明らかにするとともに、必ず出典を表記します。また、レポートは読みやすい文章であることが大前提となります。一分が長くなり過ぎていないか、他者に伝わりやすい表現となっているか、事実と意見は区別されているか、誤字脱字はないかなど、推敲したうえで提出するようにしましょう。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め
アドバイス

2 単位め
アドバイス

社会調査の歴史的な流れを概観し、社会保障や社会福祉の発展過程において社会調査が果たしてきた役割を踏まえ社会福祉調査の今日的役割について述べてください。従来は社会福祉援助技術の中で間接援助技術として位置づけられ、主にメゾ、マクロ領域の実践を中心に用いられていましたが、近年ではミクロ領域においても社会調査を基礎とする社会福祉調査に関する知識と技術が求められています。ミクロ、メゾ、マクロレベルのそれぞれのレベルのソーシャルワーク実践をよりよくするために、どのような社会福祉調査が必要となるのか、具体例をあてはめながらレベル別に考えることでより理解が深まります。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 本科目全体の内容についての理解を問います。
- 2) 問題の題意に適しているかどうかを問います。
- 3) 解答字数は、800字以上を基準とします。

ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ

科目コード

CC3093



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	三浦 剛

科目の概要

■科目の内容

ソーシャルワークの専門性と基盤や倫理の理解の上に、ソーシャルワークの視点（人と環境の相互作用への視点）、生活モデル、アプローチについて、面接授業や印刷教材による授業で学ぶ。

また、ソーシャルワークのプロセスや専門性についても同様に学ぶ。

■到達目標

- 1) 人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて説明できる。
- 2) ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチについて説明できる。
- 3) ソーシャルワークのプロセスと活用する知識や技術、価値について説明できる。

■教科書（「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書は参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕13 ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規出版、2021年

■事前に学習してほしい科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職」を学習しておくことが望ましい。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

ソーシャルワークの専門性と基盤や倫理を理解し、ソーシャルワークの視点（人と環境の相互作用への視点）、生活モデル、アプローチについて学ぶ。

また、ソーシャルワークのプロセスや専門性についても、具体的な理解が進むように学んでほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	人と環境との交互作用に関する理論について	人と環境の交互作用について理解するために、生態学的な視点とその背景理論としてシステム理論について学ぶ。
2	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ1	治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルを取り上げ、それぞれの特徴と適用時の留意点について理解する。
3	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ2	心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチなど主要なアプローチを取り上げ、それぞれの特徴と違い、適用時の留意点について理解する。
4	ソーシャルワークの過程1	ソーシャルワークのプロセスの全体像を確認した上で、「ケース発見」及び「インテーク」、「アセスメント」及び「プランニング」について目的や意義、実施の留意点について理解する。
5	ソーシャルワークの過程2	ソーシャルワークのプロセスのうち、「支援の実施」、「モニタリング」、「評価」、「集結とアフターケア」について目的や意義、実施の留意点について理解する
6	ソーシャルワークにおける面接とは1	面接の目的や特性、面接を展開する際の支援者の態度や姿勢、コミュニケーション技法等を確認する。
7	ソーシャルワークにおける面接とは2	具体的な援助事例の展開から面接の実際を確認し、理解する。
8	ソーシャルワークにおける記録の目的や意義、記録の方法	ソーシャルワークにおける記録の目的や意義、記録の方法について学ぶ。また、ITの活用や留意点も合わせて学習する。記録の実際に触れることで理解を深める。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（自筆ノートと配付資料のみ持ち込み可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1章から第10章まで読んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワーク理論と枠組み1（第1章、他参考図書等）	ソーシャルワークの背景理論であるシステム理論、生態学理論について	教科書をよく読み、理解すること。
2	ソーシャルワーク理論と枠組み2（第1章、他参考図書等）	ソーシャルワークのモデルについて	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルについて、事例を参照しながら、具体的に学んでください。
3	ソーシャルワーク理論と枠組み3（第1章、他参考図書等）	ミクロからマクロ・レベルまでの連続性、共生社会作りにつながるソーシャルワークの目標、展開過程について	ミクロ、メゾ、マクロの各視点と連続性について、事例を参照しながら具体的に学び、開発機能の重要性について理解してください。
4	ソーシャルワークのプロセス（第2章、他参考図書）	ケースの発見からインテーク、契約まで	ソーシャルワークのプロセスにおけるこの段階を、事例を参照しながら具体的に理解してください。
5	ソーシャルワークのプロセス（第3章、他参考図書）	アセスメント	アセスメントの意義、目的、重要性について理解し、ソーシャルワーク・プロセス全体における意味を具体的に理解してください。
6	ソーシャルワークのプロセス（第3章、他参考図書）	アセスメント	アセスメントの方法と留意点を、事例を参照しながら、具体的に理解してください。
7	ソーシャルワークのプロセス（第4章、他参考図書）	プランニング	プランニングの意義と目的、およびメゾ、マクロ・レベルにつながる視点を学び、事例を通してその方法を具体的に学ぶ。
8	ソーシャルワークのプロセス（第5章、他参考図書）	支援の実施（介入）とモニタリング	支援の実施を、特にメゾ、マクロ・レベルへの連続性を意識しながら具体的に理解してください。また、モニタリングの重要性を、目的、方法とともに理解してください。
9	ソーシャルワークのプロセス（第5、6章、他参考図書）	効果測定（プロセス評価、結果評価）と終結、アフターケア	効果測定の意義、意味、必要性とその方法を、教科書を読んで理解してください。また、終結に至るプロセスを、事例を通して具体的に理解してください。
10	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ1（第7章、他参考図書）	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ	史的展開をふまえ、その考え方と今日的課題について、教科書を読んで学んでください。
11	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ2（第7章、他参考図書）	様々なアプローチ	心理社会的アプローチ以下、様々なアプローチについて、事例を通して具体的に理解してください。
12	ソーシャルワークの面接（第8章、他参考図書）	ソーシャルワーク面接の意義と目的、および方法	ソーシャルワーク面接の意義と目的を、教科書を読んで理解してください。面接事例をとおして、具体的にその構造や留意点について学んでください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	ソーシャルワークの記録（第9章、他参考図書）	ソーシャルワークの記録の意義、目的と方法	ソーシャルワークの記録の意義と目的を、教科書を読んで学び、実例を通して、フォーマットや記録の内容を学んでください。
14	ケースマネジメント1（第10章、他参考図書）	ケースマネジメントの原則、意義	史的展開もふまえ、教科書を読んでケースマネジメントの原則、意義について理解してください。
15	ケースマネジメント2（第10章、他参考図書）	ケースマネジメントの実際	事例を参照して、ケースマネジメントの方法を具体的に理解してください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	ソーシャルワークの人と環境の相互作用におく視点、生活モデル、代表的なアプローチ（たとえば心理社会的アプローチ、機能的アプローチ）について説明し、また、ソーシャルワークの過程とその留意点をまとめなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題の概念を正確に理解し把握することは当然のこととして、事例などに触れながら具体的なイメージを持つこと。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

教科書以外に参考図書などを用いて、これらが具体的に理解できるようにしましょう。また、概念を個別に説明するだけでなく、ソーシャルワークの枠組み、ミクロからマクロ・レベルへの連続性などへも視線を向けてください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 科目全体の内容について問います。
- 2) 各概念について、正確に理解できていなくてはなりません。
- 3) 題意を正確に把握するように努めてください。
- 4) 800字以上が必要な記述の分量です。

ソーシャルワークの理論と方法II			科目コード	CC3094
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	2年以上	三浦 剛	



科目の概要

■科目の内容

面接授業や印刷教材を用いた授業において、総合的かつ包括的支援の意味を理解し、そこで用いられるグループワークやコミュニティワークといった方法について、概念とプロセスを学ぶ。

また、ソーシャルワークにおけるケアマネジメントやスーパービジョン、コンサルテーションといった関連技術についても、その概念を学ぶ。

■到達目標

- 1) ソーシャルワークが総合的かつ包括的な相談援助であることを説明することができる。
- 2) 集団やコミュニティを対象として支援の概念とその展開について説明ができる。
- 3) ソーシャルワークにおけるスーパービジョンとコンサルテーションについて理解し説明できる。

■教科書（「ソーシャルワークの理論と方法I」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目]12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021年

※「ソーシャルワークの理論と方法I」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書） 上記教科書は参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目]13 ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規出版、2021年

■事前に学習してほしい科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職」を学習しておくことが望ましい。

■履修登録条件

この科目は、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

ソーシャルワークの専門性と基盤や倫理を理解し、ソーシャルワークの視点（人と環境の相互作用への視点）、生活モデル、アプローチについて学ぶ。

また、ソーシャルワークのプロセスや専門性についても、具体的な理解が進むように学んでほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	集団に対する援助1	集団援助技術の原理、定義、意義を理解する。さらに、集団をシステムとして捉えた際の、分析方法や介入方法について学ぶ。
2	集団に対する援助2	集団援助技術の展開過程を準備期、作業期、終結期と評価それぞれについて学び、グループダイナミクスに基づいた自助グループやSSTなど介入の実際、小地域福祉活動やチームアプローチについても学ぶ。
3	コミュニティワーク	地域に対する援助技術の定義、目的、意義、役割、展開過程について理解する。 事例から支援の実際が理解できる。
4	ケアマネジメント1	ケアマネジメントの概念、プロセスについて学ぶ。
5	ケアマネジメント2	ケアマネジメントの概念をミクロ・メゾ・マクロの視点で考察する。
6	スーパービジョンとコンサルテーション1	ソーシャルワーカーが機能する職場を一つのシステムとして考える視点を学ぶ。そこから人材育成の必要性と方法について理解を深める。
7	スーパービジョンとコンサルテーション2	社会福祉分野における人材育成の方法としてのスーパービジョンと、支援の質を向上させるためのコンサルテーションについて学ぶ。
8	事例研究	これまでの学びをもとに、ソーシャルワーク研究の諸方法を確認し、事例検討により支援の実際を学ぶ。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（自筆ノートと配付資料のみ持ち込み可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第11章から第15章まで読んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	グループを活用した支援1(第11章)他参考図書等	グループワークの意義と目的	グループワークの歴史その実践の意義、ジェネラリスト実践との関係を整理しましょう。また、その目的と目標について理解しましょう。
2	グループを活用した支援2(第11章)他参考図書等	グループワークの展開過程	グループワークのプロセスについて、具体的に理解できるように、その実際を参考書などから学びながら、意識しましょう。
3	グループを活用した支援3(第11章)他参考図書等	グループワークとセルフヘルプグループ	セルフヘルプグループの実践例などを通して、グループワークの実際を学びましょう。
4	コミュニティワーク1(第12章)他参考図書等	コミュニティワークの意義と目的	コミュニティワークとは何か、ソーシャルワークにおけるコミュニティワークの意義を学びましょう。また、住民主体の原則について、ごみ屋敷問題などの支援事例を通して理解しましょう。
5	コミュニティワーク2(第12章)他参考図書等	コミュニティワークの展開	地域アセスメントから支援計画の策定までのプロセスを、実際を意識して理解しましょう。
6	コミュニティワーク3(第12章)他参考図書等	コミュニティワークの展開	地域組織化、社会資源開発などの方法、評価と再アセスメントを、実際を意識して理解しましょう。
7	コミュニティワーク4(第12章)他参考図書等	コミュニティワークの理論的系譜とモデル	コミュニティワークの史的展開を通して、その理論とモデルを理解しましょう。
8	ソーシャルアドミニストレーション1(第13章)他参考図書等	ソーシャルアドミニストレーションの概念、定義とその意義	教科書を読み、ソーシャルアドミニストレーションの概念、定義を理解しましょう。
9	ソーシャルアドミニストレーション2(第13章)他参考図書等	組織介入・組織改善の実践モデル	組織運営の実際を、事例などを通して、具体的に理解しましょう。
10	ソーシャルアドミニストレーション3(第13章)他参考図書等	組織運営の実際と財源の確保	組織運営の実際を、財源確保を中心に、その方法を具体的に学びましょう。
11	ソーシャルアクション1(第14章)他参考図書等	ソーシャルアクションの概念、定義	教科書を読み、ソーシャルアクションの概念、定義について理解しましょう。
12	ソーシャルアドミニストレーション2(第14章)他参考図書等	コミュニティ・オーガナイズング	ソーシャルアクションの実際を、コミュニティ・オーガナイズングなどの例を通して、具体的に理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	スーパービジョンと コンサルテーション 1 (第15章) 他参考 図書等	スーパービジョンの意義、目的、方法	教科書を読み、スーパービジョンの意義や目的、方法を学びましょう。
14	スーパービジョンと コンサルテーション 2 (第15章) 他参考 図書等	スーパービジョンの実際	実例などを通し、スーパービジョンが具体的にイメージできるよう、理解しましょう。
15	スーパービジョンと コンサルテーション 3 (第15章) 他参考 図書等	コンサルテーションの意義、目的、方法	ソーシャルワークにおけるコンサルテーションについて、教科書を読み理解し、実例などを通して具体的にイメージできるようにしましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	グループワーク、コミュニティワーク、スーパービジョンについて、その概念（定義、目的、展開過程）を具体的に説明し、ソーシャルワーク実践を展開するうえでなぜ必要か（意義）述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

概念を正確に理解し把握することは当然のこととして、事例などに触れながら具体的なイメージを持つこと。

また、これまで学んだソーシャルワークの枠組みを意識して、体系的に理解することに努めてください。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

教科書以外に参考図書などを用いて、これらが具体的に理解できるようにしましょう。また、概念を説明するだけでなく、ソーシャルワーク実践における意味にも必ず言及してください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 科目全体の内容について問います。
- 2) 各概念について、正確に理解できていなくてはなりません。
- 3) 題意を正確に把握するように努めてください。
- 4) 800字以上が必要な記述の分量です。

ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ			科目コード	CC3095
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	2年以上	竹之内 章代	



科目の概要

■科目の内容

スクーリングや印刷教材による授業で、多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法について、ここでは関係形成の基礎となるコミュニケーション、面接技法を学ぶ。次いでアウトリーチやネットワーク形成に焦点を当てその方法を学ぶ。具体的には、

- 1) 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。
- 2) 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。

■到達目標

- 1) 多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法について説明できる。
- 2) 支援を必要とする人との援助関係の形成や、ニーズ把握の知識と技術について説明できる。
- 3) 事例研究を通じて、ソーシャルワーカーとしての社会福祉士の専門職として必要な価値や技術、知識について説明できる。

■教科書（「ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 [専門科目] 6 ソーシャルワークの理論と方法 (社会専門)』中央法規出版、2021年

(スクーリング時の教科書) 上記テキストは必ず持参してください。テキストや配付資料をもとに講義を実施します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 [専門科目] 7 ソーシャルワーク演習 (社会専門)』中央法規出版、2021年

■事前に学習してほしい科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」を学習しておくことが望ましい。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論や方法について、事例を通じて学ぶことを期待します。また、支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うために必要な知識や技術の確認を各自行えるよう講義の振り返りを行ってほしいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念を理解する①	1 援助関係の意義と概念 ・ソーシャルワーカーとクライアントシステムの関係
2	ソーシャルワークにおける援助関係の形成方法を理解する②	2 援助関係の形成方法 ・自己覚知と他者理解 ・コミュニケーションとラポール
3	ソーシャルワークにおける援助関係の形成方法を理解する③	3 面接技術 ・面接の意義、目的、方法、留意点 ・面接の場面と構造 ・面接の技法
4	ソーシャルワークに関連する技法①	1 ネゴシエーション ・ネゴシエーションの意義、目的、方法、留意点 2 ファシリテーション ・ファシリテーションの意義、目的、方法、留意点
5	ソーシャルワークに関連する技法②	3 プレゼンテーション ・プレゼンテーションの意義、目的、方法、留意点 4 カンファレンス ・カンファレンスの意義、目的、留意点 ・カンファレンスの運営と展開
6	事例研究①	1 事例分析 ・事例分析の意義、目的 2 事例検討、事例研究 ・事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点

回数	テーマ	内容
7	事例研究②	1 総合的かつ包括的な支援の考え方 ・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援 2 家族支援の実際 ・家族が抱える複合的な生活課題 ・家族支援の目的、方法、留意点
8	まとめ	講義内容に関して修得状況を確認する。
9	スクーリング試験	試験により自己の理解の到達度を確認する。

■講義の進め方

テキストや配付（配信）資料をもとに講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

事前学習およびスクーリングで学んだ内容から出題します（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキストのスクーリングの内容に該当する部分を事前に読んでから講義に臨んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワークにおける援助関係（第2章）	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念を理解する 1 援助関係の意義と概念 ・ソーシャルワーカーとクライアントシステムの関係	人間関係と援助関係の違いを理解し、ソーシャルワークにおける援助関係の重要性を確認してください。クライアントシステム及び実践レベルにおいて援助関係の重要性を確認してください。
2	ソーシャルワークにおける援助関係（第2章）	2 援助関係の形成方法 ・自己覚知と他者理解 ・コミュニケーションとラポール	援助関係形成には、信頼関係の構築とそのためコミュニケーションが大切です。援助関係形成の技法を確認してください。
3	ソーシャルワークにおける援助関係（第2章）	3 面接技術 ・面接の意義、目的、方法、留意点 ・面接の場面と構造 ・面接の技法	相談援助において「面接」を中心に援助が展開されていきますが、面接で援助関係を形成するためにはどのような点に留意をすればよいかを考えながら、学びの確認をしてください。
4	ソーシャルワークに関連する技法（第7章）	1 ネゴシエーション ・ネゴシエーションの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、交渉の総体として「ネゴシエーション」の技法を学びます。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	ソーシャルワークに関連する技法(第7章)	2 ファシリテーション ・ファシリテーションの意義、目的、方法、留意点	マイクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、集団や組織に働きかける『ファシリテーション』の技法を学びます。
6	ソーシャルワークに関連する技法(第7章)	3 プレゼンテーション ・プレゼンテーションの意義、目的、方法、留意点	マイクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、利用者や家族、あるいは団体や自治体への紹介や提案をするときの技法である「プレゼンテーション」について学びます。
7	ソーシャルワークに関連する技法(第5章)	4 カンファレンス ・カンファレンスの意義、目的、留意点 ・カンファレンスの運営と展開	マイクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、他者との協議を行う目的での会議「カンファレンス」の方法を学びます。
8	事例分析・事例検討・事例研究①(第6章)	1 事例分析 ・事例分析の意義、目的	事例分析・事例検討・事例研究との関係性を整理します。その上で、事例分析は事例検討と事例研究の一部をなすものとして不可欠なものです。意義や目的を確認してください。
9	事例分析・事例検討・事例研究②(第6章)	2 事例検討、事例研究 ・事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点	事例検討は、事例分析で事例への理解を深め、具体的な取り組みについて考えるものです。また、事例研究は事例分析を通じて、課題を明らかにし、理論やモデルの生成や、実践の評価にも役立つものです。それぞれの違いを確認してください。
10	事例研究①(第1章)	1 総合的かつ包括的な支援の考え方 ・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
11	事例研究②(第1章)	1 総合的かつ包括的な支援の考え方 ・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
12	事例研究③(第1章)	2 家族支援の実際 ・家族が抱える複合的な生活課題 ・家族支援の目的、方法、留意点 ・家族を取り巻く複合的な課題について	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。ここでは、さまざまな家族を取り巻く社会的な課題について理解します。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	事例研究④ (第1章)	2 家族支援の実際・家族が抱える複合的な生活課題・家族支援の目的、方法、留意点 ・家族に関する理論の理解 ・家族理解のためのツール	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。家族に関する理論を整理してみましょう。また、エコマップなどをソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学んだことを復習してみましょう。
14	事例研究⑤ (第1章)	2 家族支援の実際・家族が抱える複合的な生活課題・家族支援の目的、方法、留意点 ・事例から学ぶ	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
15	振り返りとまとめ	15回の学びを通じて自己の学びの深度を確認する	各回のキーワードとなることを抽出し、自分のことばで説明できるかどうか、確認してみてください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークにおける援助関係の形成において、その基盤となるコミュニケーションや他者理解や自己覚知の重要性についてまとめてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

ソーシャルワーカーとして社会福祉士が持つべき価値や技術、知識について確認してください。その上で具体的な援助技法を実践において活用するために、理論やモデルの整理をしてみるとよいでしょう。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め
アドバイス

2 単位め
アドバイス

テキストの第2章を中心に学習してください。また、レポート作成に当たっては、ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）で学んだ理論やモデルなどを確認して作成するとよいでしょう。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 出題された課題に対して、ポイントを押さえて論述されているかどうか
- 2) テキストや参考文献、レポート作成で学んだことが理解され、説明されていること
- 3) 論旨がとおっていること
- 4) 規程の分量を満たしていること

ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ			科目コード	CC3096
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	2年以上	竹之内 章代	



科目の概要

■科目の内容

スクーリングや印刷教材による授業で、多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法について、ここでは社会資源の活用、調整、開発の方法と、ネットワークの形成及びコーディネーションの方法等について学ぶ。具体的には、

- 1) 多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。
- 2) 地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。

■到達目標

- 1) 多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法を説明できる。
- 2) 地域における社会資源の開発やネットワークの形成、コーディネーションやソーシャルアクションについてその方法について具体的に説明できる。
- 3) 個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を具体的に展開できる。

■教科書（「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 [専門科目] 6 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021年

※「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書） 上記テキストは必ず持参してください。テキストや配付資料をもとに講義を実施します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「ICT 活用力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 [専門科目] 7 ソーシャルワー

■事前に学習してほしい科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」を学習しておくことが望ましい。

■履修登録条件

この科目は、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法について、講義を通じて確認してください。とくに、社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションなど、マクロレベルに働きかけるアプローチについて理解を深めてください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念を理解する	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲで学んだ専門的援助関係について確認する。
2	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発①	1 社会資源の活用・調整・開発 ・社会資源の活用・調整・開発の意義、目的、方法、留意点 ・ニーズの集約、提言、計画策定、実施、評価
3	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発②	2 ソーシャルアクション ・ソーシャルアクションの意義、目的、方法、留意点
4	ネットワークの形成①	1 ネットワーキング ・ネットワーキングの意義、目的、方法、留意点 ・セーフティネットの構築とネットワーキング ・家族や住民、サービス提供者間のネットワーキング ・重層的な範囲（ミクロ・メゾ・マクロ）におけるネットワーキング ・多様な分野の支援機関とのネットワーキング
5	ネットワークの形成②	1 コーディネーション ・コーディネーションの意義、目的、方法、留意点
6	アウトリーチの意義と方法	1 アウトリーチ ・アウトリーチの意義、目的、方法、留意点 ・アウトリーチを必要とする対象 ・ニーズの掘り起こし

回数	テーマ	内容
7	事例研究	1 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 ・地域支援の実際として ・地域が抱える課題 ・多機関協働 ・地域住民との協働 ・地域アセスメント
8	まとめと振り返り	講義全体を振り返り、学びの確認を行う
9	スクーリング試験	試験により自己の理解の到達度を確認する

■講義の進め方

テキストや配付（配信）資料をもとに講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

事前学習及びスクーリングで学んだ内容から出題します（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキストのスクーリングの内容に該当する部分を事前に読んでから講義に臨んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワークにおける援助関係とは	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念を理解する	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲで学んだ内容の確認をしてください。
2	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発①（第4章）	1 社会資源の活用・調整 ・社会資源の活用・調整の意義、目的、方法、留意点	社会資源の活用や調整・開発が、ソーシャルワーク実践の一つと特徴づけられていることを理解しましょう。その意義や目的を確認し、具体的な方法について、事例（第1章3節）と参考にしながら理解出来ると良いでしょう。
3	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発②（第4章）	2 社会資源の活用・調整 ・ニーズの集約、提言、計画策定、実施、評価	社会資源の活用や調整・開発が、ソーシャルワーク実践の一つと特徴づけられていることを理解しましょう。その意義や目的を確認し、具体的な方法について、事例（第1章3節）と参考にしながら理解出来ると良いでしょう。
4	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発③（第4章）	3 ソーシャルワーク実践と社会資源 ・ソーシャルワーク実践における社会資源とは ・社会資源の開発の意義、目的、方法、留意点	社会資源の活用や調整・開発が、ソーシャルワーク実践の一つと特徴づけられていることを理解しましょう。その意義や目的を確認し、具体的な方法について、事例（第1章3節）と参考にしながら理解出来ると良いでしょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発④ (第4章)	4 社会資源開発の様々な方法 ・社会資源開発の方法 ・サービスの改善 ・社会資源開発に必要なソーシャルワーカーのスキルとは	社会資源開発の方法を学びます。ミクロからメゾ、マクロへの連続面でニーズを捉え、それらを社会資源開発の実践として展開するためのスキルとは何かを考えて見ましょう。事例(第1章第3節)を参照しながら学んでください。
6	ネットワークの形成① (第3章)	1 ネットワーキング・ネットワークの意義、目的、方法、留意点 ・セーフティネットの構築とネットワークワーキング ・家族や住民、サービス提供者間のネットワークワーキング ・重層的な範囲(ミクロ・メゾ・マクロ)におけるネットワークワーキング ・多様な分野の支援機関とのネットワークワーキング	複雑で多様な課題をかかえたクライアントシステムを支援する際、そのニーズに対応した社会資源とつなぐ役割を果たすための一つの方法として「ネットワークワーキング」があることを学びましょう。さまざまな対象との間でのネットワークの特徴を確認してください。
7	ネットワークの形成② (第3章)	1 コーディネーション ・コーディネーションの意義、目的、方法、留意点	複雑で多様な課題をかかえたクライアントシステムを支援する際、ネットワークを形成しそれらが有機的に働くためには「コーディネーション」の技術が必要であることを学びましょう。
8	ソーシャルワークに関連する技法①	1 ネゴシエーション ・ネゴシエーションの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、交渉の総体として「ネゴシエーション」の技法を学びます。
9	ソーシャルワークに関連する技法②	2 コンフリクト・レゾリューションの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、紛争や葛藤状況を解決するための技法としての「コンフリクト・レゾリューション」の技法を学びます。
10	ソーシャルワークに関連する技法③	3 ソーシャル・マーケティングの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、社会的課題をビジネスの手法で捉える「ソーシャル・マーケティング」の技法について学びます。
11	事例研究① (第6章)	2 事例検討、事例研究 ・事例検討、事例研究の意義、目的、方法	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」で学んだ事例研究や事例検討について、再度確認してください。
12	事例研究② (第1章)	1 総合的かつ包括的な支援の考え方 ・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	事例研究③ (第1章)	1 地域支援の実際 ・地域が抱える課題 ・多機関協働 ・地域住民との協働 ・地域アセスメント	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
14	事例研究④ (第1章)	2 非常時や災害時支援の実際 ・非常時や災害時の生活課題 ・非常時や災害時における支援の目的、方法、留意点	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
15	振り返りとまとめ	15回の学びを通じて自己の学びの深度を確認する	各回のキーワードとなることを抽出し、自分のことばで説明できるかどうか、確認してみてください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	社会資源活用・調整・開発のプロセスについて、個別支援の方向性上にあるもの、地域介入の視点からのもの、両面からその意義、必要性、方法についてまとめてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やさまざまな技法について、自分なりのことばで説明できるようにまとめてみましょう。ミクロレベルからマクロレベルへの連続性を確認しつつ、社会資源の活用や開発について考えてみてください。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

テキストの第3章及び第4章を参考にしながら、レポート課題に取り組んでください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 出題された課題に対して、ポイントを押さえて論述されているかどうか
- 2) テキストや参考文献、レポート作成で学んだことが理解され、説明されていること
- 3) 論旨がとれていること
- 4) 規程の分量を満たしていること

地域福祉と包括的支援体制A

科目コード

CC3097



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	都築 光一

科目の概要

■科目の内容

これまでの歴史的経緯を踏まえ、地域共生社会を含む福祉コミュニティの構築に向けた地域住民等や地方公共団体並びに関係機関の役割を理解し、人々の繋がりや地域社会の機能力が脆弱化してきていると指摘されている今日、地域福祉実践の理論と実際を理解し、具体的に実践するための手法を学びます。

具体的には、東北を中心とした各地域における様々な実践事例や、エピソードなどを交えて、地域福祉の基本的な考え方と、その考え方が具体的な実践でどのように活かされているのか講義を通じて紹介します。

これらの事例等を通じて、地域福祉の実践によってどのような効果や成果が望まれているのか等に関し、地域住民が取り組む意義と、地域福祉実践が絶えず動的に展開される必要性について理解を深めます。

【教員等の実務経験による指導内容】

役場職員、社会福祉協議会理事などの実務経験をいかし、地域住民による福祉コミュニティの形成、それに向けた支援活動と地域福祉の展開技法および社会資源の活用方法等について、具体的な事例等を交えて解説する。

■到達目標

- 1) 地域福祉は、地域住民等が推進主体であることを説明できる。
- 2) 地域福祉は、福祉コミュニティ実現に向けた実践であることを説明できる。
- 3) 地域福祉実践のために、包括的な支援体制を含む人的社会的資源のシステム形成の必要性を説明できる。

■教科書（「地域福祉と包括支援体制B」と共通）

都築光一著『福祉ライブラリ 現代の地域福祉』建帛社、2020年
(スクーリング時の教科書) 上記教科書は必ず持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

- 1) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版、2022年
- 2) 野口定久著『人口減少時代の地域福祉』ミネルヴァ書房、2016年
- 3) 平野隆之著『地域福祉推進の理論と方法』有斐閣、2008年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

地域福祉の主体は、あくまでの住民主体です。地域住民が主体となって福祉コミュニティづくりを進めていけるように支援するための基本的な考え方と、具体的な実践手法について事例を交えて解説します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	地域福祉の概念と理念	住民自治・福祉コミュニティ
2	地域福祉とは	概念・定義
3	地域福祉の原理と実践	住民主体、地域性、人的社会的資源
4	地域福祉の歴史（欧米編）	デンマーク、イギリス、アメリカ
5	地域福祉の歴史（日本編）	日本における地域福祉のあゆみ
6	社会福祉協議会	社会福祉協議会の概要、歴史、現状、課題
7	福祉行政	国と市町村の福祉行政の仕組み、特別地方公共団体
8	福祉財政	福祉関係の一般会計、特別会計、寄付金その他
9		スクーリング試験

■講義の進め方

教科書を用いながら、配付資料をもとに板書もしながら進めます。

■スクーリング 評価基準

とくに到達目標記載内容についての理解を問います（教科書および自筆のノートのみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1章・第2章は読んでみてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	地域福祉を学ぶ (序章)	地域福祉を学ぶことの現代的意義について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・今地域福祉を学ぶ意義の理解 ・地域福祉の具体的な展開の意味を理解する
2	地域福祉の理念 (第1章)	地域福祉の理念としての住民自治と福祉コミュニティを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義の基本としての住民自治 ・社会福祉のコミュニティ論としての福祉コミュニティ
3	地域福祉とは (第1章)	地域福祉の定義を理解する	地域福祉とは、地域住民等が、人的社会的資源を活用して、福祉コミュニティ構築を目指す、実践をいう。
4	地域福祉の原理と実践 (第1章)	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体・地域性・人的社会的資源の意味を理解する 	以下の3点について理解する <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉における住民の主体性の原理 ・内発的発展と地域性の原理 ・人的社会的資源のシステム形成の原理
5	外国における地域福祉のあゆみ (第2章)	<ul style="list-style-type: none"> ・デンマーク ・イギリス ・アメリカ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践理念としてのノーマライゼーション ・地域福祉の精度のあゆみ ・ソーシャルワーク理論の発展
6	日本における地域福祉のあゆみ 1 (第2章)	第二次世界大戦までの日本の地域福祉のあゆみを振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・幕末まで……国家としての取り組みのない時代 ・明治～大正期…地域福祉の萌芽期 ・大正～終戦期…停滞期
7	日本における地域福祉のあゆみ 2 (第2章)	戦後の制度構築期からこんにちまでのあゆみを振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後～2000年…地域福祉模索期 ・2000年～……地域福祉形成期
8	地域社会と最近の動向 (第2章)	日常生活課題と地域共生社会について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する生活問題 ・地域共生社会の実現
9	社会福祉協議会 1 (第3章)	社会福祉協議会の存在意義とこれまでのあゆみを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・設立の背景と機能 ・わが国における社会福祉協議会の歴史
10	社会福祉協議会 2 (第3章)	社会福祉協議会の法的規定と市区町村社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会の法的根拠（社会福祉法） ・市区町村社会福祉協議会
11	社会福祉協議会 3 (第3章)	都道府県および全国社会福祉協議会と今日の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県社会福祉協議会 ・全国社会福祉協議会 ・社会福祉協議会の今日の課題
12	社会福祉行政 1 (第5章)	福祉行財政の原則と原則	社会福祉法と地方自治法の2つの法令から理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉行政と財政 ・行政運営の原則
13	社会福祉行政 2 (第5章)	福祉行財政のあゆみと構造	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後における福祉行財政のあゆみ ・福祉行財政の構造
14	社会福祉行政 3 (第5章)	福祉行政機関と組織	<ul style="list-style-type: none"> ・国・都道府県・市町村における福祉行政機関 ・多様な行政機関の組織

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	社会福祉行政 3 (第5章)	行政の展開過程と財政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政実務の種類 ・ 行政実務の意思決定過程 ・ 財政の仕組み

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	今日の地域社会の状況を踏まえつつ、住民主体にて福祉コミュニティの構築を目指して実践する意義について、市町村社会福祉協議会の役割を軸に説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

地域福祉の制度と、地域福祉に関する理論等に関し、テキストをよく読んで確認して解答してください。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

内容的には、社会福祉法第4条と社会福祉法第109条を軸に、地域福祉の定義に照らしてまとめていくと良いでしょう。

科目修了試験

■評価基準

地域福祉の定義に照らし、地域住民、福祉コミュニティ、人的社会的資源の活用、実践の各項目のいずれかが欠落している場合は、説明していることにはならないので、注意しましょう。

地域福祉と包括的支援体制B

科目コード

CC3098



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	都築 光一

科目の概要

■科目の内容

これまでの歴史的経緯を踏まえ、地域共生社会を含む福祉コミュニティの構築に向けた地域住民等や地方公共団体並びに関係機関の役割を理解し、人々の繋がりや地域社会の機能力が脆弱化してきていると指摘されている今日、地域福祉実践の理論と実際を理解し、具体的に実践するための手法を学びます。

具体的には、東北を中心とした各地域における様々な実践事例や、エピソードなどを交えて、地域福祉の基本的な考え方と、その考え方が具体的な実践でどのように活かされているのか講義を通じて紹介します。

これらの事例等を通じて、地域福祉の実践によってどのような効果や成果が望まれているのか等に関し、地域住民が取り組む意義と、地域福祉実践が絶えず動的に展開される必要性について理解を深めます。

【教員等の実務経験による指導内容】

役場職員、社会福祉協議会理事などの実務経験をいかし、地域住民による福祉コミュニティの形成、それに向けた支援活動と地域福祉の展開技法および社会資源の活用方法等について、具体的な事例等を交えて解説する。

■到達目標

- 1) 地域福祉は、地域住民等が推進主体であることを説明できる。
- 2) 地域福祉は、福祉コミュニティ実現に向けた実践であることを説明できる。
- 3) 地域福祉実践のために、包括的な支援体制を含む人的社会的資源のシステム形成の必要性を説明できる。

■教科書（「地域福祉と包括支援体制A」と共通）

都築光一著『福祉ライブラリ 現代の地域福祉』建帛社、2020年

※「地域福祉と包括支援体制A」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）上記教科書は必ず持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「問題解決力」「社会公権力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

- 1) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版、2022年
- 2) 野口定久著『人口減少時代の地域福祉』ミネルヴァ書房、2016年
- 3) 平野隆之著『地域福祉推進の理論と方法』有斐閣、2008年

■履修登録条件

この科目は、「地域福祉と包括支援体制A」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録できます。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

地域福祉の主体は、あくまでの住民主体です。地域住民が主体となって福祉コミュニティづくりを進めていけるように支援するための基本的な考え方と、具体的な実践手法について事例を交えて解説します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	地域社会の概念と理論	地域社会の概念と理論、地域社会の変化について学ぶ
2	福祉計画の意義・目的と展開	福祉行財政と福祉計画や福祉計画の種類や歴史を学ぶ
3	福祉計画の策定過程と方法・評価	計画の課題把握や実施に向けた合意形成・評価について学ぶ
4	包括的支援体制と地域包括ケアシステム	各種制度による対応システムについて学ぶ
5	地域共生社会の実現に向けた多機関協働	多機関協働と多職種連携について学ぶ
6	非常時や災害時における法制度	災害と地域福祉について法制度等を通じて学ぶ
7	非常時や災害時における総合的な支援	災害時の福祉的支援について事例を通じて学ぶ
8	地域福祉と包括的支援体制の課題と展望	地域共生社会の構築・福祉ガバナンスについて学ぶ
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書を用いながら、配付資料をもとに板書もしながら進めます。

■スクーリング 評価基準

とくに到達目標記載内容についての理解を問います（教科書および自筆のノートのみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1章・第2章は読んできてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	地域共生社会実現の必要性 (第2章)	今日の地域社会の動向を踏まえ、地域共生社会への取組みの必要性を理解する	・地域共生社会の必要性 ・脆弱化した地域社会 ・都市における高齢化の進行
2	民生委員1	民生委員制度の概要と歴史について理解を深める	・民生委員制度の概要 ・民生委員制度の歴史 ・民生委員の職務内容
3	民生委員2	民生委員活動の現状と課題を理解する	・民生委員の位置づけと働き ・民生委員制度の課題
4	地域福祉関係団体	地域福祉活動に関係する様々な団体の種類や役割について理解する 各種団体のネットワーク形成のあり方や考え方を理解する	・地域関係団体（自治会・町内会等） ・当事者団体（老人クラブ・子ども会・各種障害者団体など） ・職能団体やサービス提供者団体 ・企業やJAなどその他
5	福祉教育1	福祉教育の理念・目的・概念の理解	・福祉教育の理念 ・福祉教育の概念と各種理論
6	福祉教育2	福祉教育の取組みの歴史と具体的な事例	・福祉教育のあゆみ ・福祉教育の取組み事例（地域と学校）
7	地域福祉計画1	地域福祉計画の概要と目的・法的根拠	・地域福祉計画の目的と概要 ・地域福祉計画の法的根拠
8	地域福祉計画2	地域福祉計画の策定プロセスと用いられる調査・統計	・地域福祉計画の策定プロセス ・計画策定に活用される調査や統計と活用上の留意点
9	地域福祉活動計画	行政と違った社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画の意義と地域福祉計画との関係	・地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係 ・地域福祉活動計画策定の必要性 ・地域福祉活動計画の特長
10	包括的支援体制1	福祉専門職による地域における様々な活動について理解する	・包括的支援体制と重層的支援体制 ・相談支援の特長と具体的な事例
11	包括的支援体制2	就労、学習など、様々な機会に参加することができるよう支援する参加支援	①多様な社会参加・就労の支援 ②住まいの確保のための支援 ③権利擁護のための支援 ④社会との接点の確保・包摂の支援
12	包括的支援体制3	地域活動や地域づくりに関する支援のあり方を理解する	・「地域」そのものの働きとしての「場」の機能 ・「地域」づくりへの取組としての「地域づくりをコーディネートする機能」 ・住民自身が主体的に取り組むよう支援する

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	災害時福祉支援体制1	災害時におけるフラジリティとヴァルネラビリティの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・災害は社会事象であることと様々な脆弱性の克服が求められていること ・様々な災害法制の理解
14	災害時福祉支援体制2	レジリエンスとしての災害福祉の取組みの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーマルな取組み ・インフォーマルな取組み ・災害福祉としての当事者を包摂した取組み
15	今後の地域福祉の方向性	現代社会の様々な問題と解決に向けた地域福祉の取組みの方向	現代社会の様々な問題について事例を紹介する様々な事例の解決に向けた地域福祉の取組み事例を通じて、今後の実践の方向性を探る

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	住民主体で市町村地域福祉計画を策定する際に求められる相談支援・参加支援および地域支援の概要について述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

計画策定プロセスと重層的支援体制の概要を把握し、機関や人的資源の果たすべき役割と、計画の目標をしっかりと記載することが重要です。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

内容的には、社会福祉法第4条と社会福祉法第109条を軸に、地域福祉の定義に照らしてまとめていくと良いでしょう。

科目修了試験

■評価基準

地域福祉の基本的な考え方に基づいて、どこまで地域福祉計画を説明できているかによって評価が分かります。

高齢者福祉			科目コード	CD2170
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	1年以上	石附 敬	



科目の概要

■科目の内容

本科目は、高齢期の特徴、超高齢社会の諸課題について理解した上で、高齢者とその家族に対する諸制度と支援の方法について体系的に理解することを目的とします。全体的な学習の流れとしては、高齢者福祉の理念および目的について学習し、あわせて現行の高齢者福祉施策の体系の全般的理解を図り、それらを基礎知識として活用しながら、高齢者とその家族に対する支援方法についても学んでいきます。

スクーリングでは、高齢者（古い）の定義と特性、少子高齢社会と高齢者を取り巻く諸問題、高齢者保健福祉の発展過程、介護保険制度の概要とサービス体系、高齢者と家族に対する支援体制と方法について重要なポイントを中心に講義します。スクーリングの前と後に教科書を読むことでさらに学びを深めていきます。レポート学習ではスクーリングや教科書で得た知識の活用と定着を目指します。

■到達目標

- 1) 高齢者（古い）の定義と特性について理解し説明できる。
- 2) 少子高齢社会の現状と高齢者を取り巻く諸問題について理解し説明できる。
- 3) 高齢者に対する諸制度について理解し説明できる。
- 4) 介護保険制度とサービスの体系について理解し説明できる。
- 5) 高齢者を支援する組織と専門職の役割を理解し説明できる。
- 6) 高齢者支援の方法について理解し説明できる。
- 7) 高齢者福祉に関わる諸問題に関心を持ち、今後の課題について考えることができる。

■教科書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 [専門科目] 2 高齢者福祉』中央法規出版、2021年

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

- 1) 内閣府編『高齢社会白書』※毎年発行 内閣府 <https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>
- 2) 中里仁著『特別養護老人ホームの日と人』CLC出版、2017年
- 3) 萩野浩基・長岡福祉会編『小山剛の拓いた社会福祉』中央法規出版、2016年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「老いとは」「高齢者とは」何か、日本の高齢化の現状と高齢者を取り巻く諸問題、これまで高齢者福祉がどのように発展してきたのかについて学びます。その上で、高齢者の特に介護問題に焦点をあてて、対応する制度と高齢者とその家族への支援方法について学びます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	高齢者（老い）の定義と特性①	身体的、精神的、社会的な老い
2	高齢者（老い）の定義と特性②	総合的な視点、事例
3	少子高齢社会と高齢者を取り巻く諸問題	少子高齢社会、健康・介護・経済・生活意識等
4	高齢者福祉の発展	戦後から介護保険制度の成立まで
5	介護保険制度の概要	制度の特徴、保険の仕組み、要介護認定、ケアマネジメント
6	介護保険サービスの体系	在宅サービス、施設サービス、事例
7	高齢者と家族に対する支援体制と方法	関係機関、専門職の役割、支援方法と留意点
8	スクーリングのまとめ、質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験のみ（持込全て可）。スクーリング講義で説明した内容について理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の講義テーマに関係する箇所を事前に読んで、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

受講後は、体系的に知識を整理することと、それぞれの関心のあるテーマについて、書籍、論文、新聞記事など読み学びを深めてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	高齢者の定義と特性	高齢者の定義、老いの社会的、身体的、精神的側面について学ぶ。	教科書 P.1-15を読み、老いの諸側面について理解したうえで、身近な高齢者を例に当てはめ高齢期に幸せに暮らすために何か重要か考えてみてください。
2	少子高齢社会	人口統計に基づく少子高齢化の実態について学ぶ。	P.16-21を読み、日本の人口の高齢化の特徴、地域間格差の問題等について理解をしてください。内閣府の『高齢社会白書』も参考にしてください。
3	高齢者の生活実態	高齢者の経済・就業、健康、介護、社会参加、生活環境について学ぶ。	P.24-33を読み、高齢者を取り巻く諸問題について理解する。
4	高齢者を取り巻く社会環境	高齢者世帯の特徴、家族による介護の状況、家族介護者への支援の問題について学ぶ。	P.34-44を読み、現代における高齢者を支える家族の脆弱化と必要な支援の視点について理解する。
5	高齢者福祉の理念	高齢者観の変遷、エイジズム、生涯発達、サクセスフルエイジング、高齢者福祉の理念等について学ぶ。	P.45-50、62-67を読み、高齢者観の変遷と現代における高齢者像、高齢者福祉の理念について理解する。
6	高齢者福祉の発展①	明治以降から老人福祉法制定前までの高齢者保健福祉の発展の流れについて学ぶ。	P.51-55を読み、明治以降から1963年の老人福祉法制定までの流れについて理解する。
7	高齢者福祉の発展②	老人福祉法制定から現在までの高齢者保健福祉の発展の流れ、近年の介護保険制度の改正の方向性について学ぶ。	P.55-61を読み、老人福祉法制定以降、人口に占める高齢者の割合の増大とともに制度がどのように改正されてきたのか理解する。
8	介護保険制度の概要	介護保険制度の枠組み、財政、保険者と被保険者、保険料、認定のプロセス等について学ぶ。	P.70-86を読み、介護保険制度の仕組みについて理解する。
9	地域支援事業	地域支援事業、地域包括支援センターの役割について学ぶ。	P.87-95を読み、市町村が取り組む地域支援事業と地域包括支援センターの機能、三職種、役割について理解する。
10	介護保険サービスの体系	居宅サービス、介護予防サービス、地域密着型サービス、施設サービスについて学ぶ。	P.96-110を読み、サービスの4つの枠組み毎に具体的サービスの内容を一覧にまとめて理解する。
11	高齢者に対する関連諸制度①	高齢社会対策基本法、高齢社会対策大綱、老人福祉法について学ぶ。	P.111-127を読み、高齢社会対策基本法に基づき、様々な法律が関連していること、老人福祉法の理念等を理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	高齢者に対する関連諸制度②	高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法、バリアフリー法について学ぶ。	P.128-144を読み、各法律の概要について理解する。
13	高齢者に対する関連諸制度③	高齢者住まい法、高齢者雇用安定法、育児・介護休業法、市町村独自の高齢者支援について学ぶ。	P.145-167を読み、各法律や市町村独自の支援の概要について理解する。
14	関係機関と専門職の役割	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割について学ぶ。	P.170-188を読み、各機関や専門職の役割について理解する。
15	高齢者と家族に対する支援方法	アセスメントとコミュニケーション、個人へのソーシャルワークとケアマネジメント、家族への支援などについて学ぶ。	P.189-209を読み、高齢者と家族への支援方法と留意点等について理解する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	我が国の人口の高齢化の特徴と高齢者を取り巻く諸課題を述べたうえで、今後どのような取り組みが必要となるのか、学んだ知識をいかしてあなたの考えを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

高齢者福祉は、「老い」「高齢者」とは何か、なぜ高齢者に対する支援（制度）が必要なのか、世界との比較で日本の人口の高齢化はどのような特徴があって、それによってどのような課題に直面しているのかという老いと社会の問題を学ぶことが第1段階です。その理解をベースに、次に高齢者と家族を支援する介護保険等の制度やサービス、支援の方法について学びます。この科目で学ぶ内容は、単に知識として学ぶだけでなく、身近な高齢者やお住いの地域の実情に当てはめて考えることが大切です。また、皆さん自身がどのような老いを迎えたいか、もし介護が必要になった時にどこでどのように暮らしたいか、親に介護が必要になった時自分でできることは何か、またそのような希望に近づけるために今から何ができるのかなど、知識と経験をいかして考えることが大切です。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め アドバイス

2 単位め アドバイス

我が国の人口の高齢化の特徴は、高齢化率が世界で最も高く、その進行が急速であること、都道府県や市町村レベルでの格差が大きいことなどがあります。また、世帯構造の変化という点では高齢者のみ世帯、高齢単身世帯の増加も見られます。これら人口構造の変化を背景に、高齢者の生活がどう変わりどのような課題が浮上しているのか、そしてそれらの課題に対してどのような取り組みが今後必要となるのか、学んだ知識をいかしてあなたの考えを述べ

てください。参考資料としては、教科書や『高齢社会白書』などを活用すると良いでしょう。

字数は、1,800字以上でまとめてください。1,800字未満では再提出になる可能性が高くなります。

科目修了試験

■評価基準

テキストの内容を自身で要約することにより、下記の項目について理解を深めてください。

- 1)「地域包括支援センターの役割と業務内容」について記述してください。(第4章第2節 p.91-94)
※地域包括支援センターの役割と業務について理解しているか。
- 2)「地域密着型サービスの内容」について記述してください。(第4章第3節 p.103-106)
※地域密着型サービスについて理解しているか。
- 3)「エイジズムとは何か」について記述してください。(第3章第1節 p.47)
※エイジズムについて理解しているか。
- 4)「高齢者とコミュニケーションをとる際の留意点」について記述してください。(第7章第1節 p.190-192)
※高齢者とコミュニケーションをとる際の留意点について理解しているか。

障害者福祉			科目コード	CD2171
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	1年以上	関川 伸哉	



科目の概要

■科目の内容

社会における諸課題を理解し課題解決に取り組むために、障害のある人を取り巻く現状を理解するとともに、関係する法律や制度について理解し考察する力を身につけます。そのため、障害者福祉に関する基本から実際（実情）まで幅広く学習してください。

【スクーリングで学ぶ内容】

障害者福祉の基本について制度、歴史、支援の在り方等について広く学習します。スクーリングでは、随時、振り返りを行いながら専門用語について「言葉（専門用語）と言葉の仕組み」について学習していきます。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】

障害及び各種障害の定義、人的・物的・社会的環境からの支援内容等について幅広く学習します。レポート学習の際には、一つ一つの専門用語を整理しながら知識の習得を図ります。

■到達目標

- 1) 障害者福祉の理念と障害の概念について説明することができる。
- 2) 障害当事者を取り巻く現状やこれまでの歴史を踏まえ、当事者が抱える問題への認識を深めつつそれを説明することができる。
- 3) 障害者福祉制度、関連施策への理解を深め、当事者が抱える問題の軽減・解決に向けた取り組みについて説明することができる。
- 4) 障害者福祉に関する基本用語（障害とは、差別、偏見、自立、自律等）について自身の言葉で説明することができる。

■教科書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕8 障害者福祉』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書） 上記図書は、参考程度に使用します。スクーリング時は、必要に応じて資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「社会への関心と理解」を身につけてほしいです。

専門的知識は、多職種連携の際などに使える知識とすることが大切です。

社会への関心と理解は、今後のわが国の障害者形態（高齢と障害等）に目を向け、将来を考える力が大切です。

■科目評価基準

スクーリング評価 or 科目修了試験評価を100%とします。

■参考図書

- 1) 福島智『ぼくの命は言葉とともにある 9歳で失明18歳で聴力も失ったぼくが東大教授となり、考えてきたこと』致知出版社、2015年
- 2) 伊是名 夏子『ママは身長100cm』ハフポストブックス、2019年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「障害とは何か?」といった基本的なところについて皆さんと一緒に考え、主に社会モデルの側面から障害について整理・学習したいと思います。また、障害者福祉の歴史・制度について整理・学習する中で、今後の障害者福祉の在り方や各種専門職の役割について考察していただきたいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	障害者を取り巻く社会環境及び偏見と差別について考える	偏見と差別について考える中で、社会的障害と共生社会について考察します
2	3障害（発達障害含）に関する整理	身体障害、知的障害、精神障害、発達障害から障害者の定義と特性について学習します
3	障害者福祉の歴史①	ノーマライゼーション、知的障害者・障害者の権利条約、IL運動等、国際障害者年前後の障害者福祉の変化について学習します
4	障害者福祉の歴史②	障害者の権利に関する条約と障害者基本法について、歴史的背景を踏まえ整理し、ソーシャルインクルージョンの視点から、これからの障害者福祉について考察します
5	障害者福祉の法制度①	身体障害児者及び知的障害者の現状と推移予測について学習します 身体障害福祉法、知的障害者福祉法及び児童福祉法の概要等について学習します
6	障害者福祉の法制度②	精神障害児者及び発達障害の現状と推移予測について学習します 精神障害者福祉法及び発達障害者支援法の概要等について学習します
7	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割	ICF（ICIDHとの違い含）から考える障害者支援と関係機関（社会環境）の役割について学習します

回数	テーマ	内容
8	障害者と家族等に対する支援の実際 まとめ及び質疑応答	ICF から考える障害者支援、専門職（人的環境）の役割について学習します スクーリング内容について整理します
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。指定図書は参考程度に使用します。

講義の途中に確認問題（テスト）等を実施し、学習内容の振り返りを行います（試験ではなく学習のための振り返りです）。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験は、基本的にスクーリング中に学修した内容から出題します（一部持込可：スクーリング時指定します）。評価基準は、スクーリング受講後のスクーリング試験を100%とします。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

- ・「障害とは何か？」について調べ、自分なり考えてきてください。
- ・戦後のわが国の障害者福祉施策の歴史について学習・整理してきてください。
- ・障害者福祉に関係する各種用語について学習・整理してきてください。
- ・身近な差別や偏見について取り上げ、考察してみてください。
- ・上記は、可能な範囲でノートにまとめスクーリング時に持参してください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

- ・スクーリング時に配付した資料を全て読み返し、必要に応じてノートにまとめてください。
- ・その際には、参考図書等を用いて内容の確認・追記を行うようにしてください。
- ・スクーリングで学んだ内容は、自身の言葉で他者に伝えられるように、言葉にして繰り返し学習してください。
- ・上記を終えた後にレポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	障害概念と特性①	各種制度、難病、各種手帳	<ul style="list-style-type: none"> ・障害及び各種障害の定義、支援内容について学習してください ・難病等の種類、特性、支援内容について学習してください ・各種手帳について表などを作成して整理してください

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	障害概念と特性②	ICD、ICIDH、ICF、人と環境の相互作用	<ul style="list-style-type: none"> ・ICIDHについて学習してください ・ICIDHの特徴を踏まえながらICFについて学習してください ・医学モデルと社会モデルの違いと整理し、具体的な活用方法について学習してください
3	障害者福祉の理念①	スティグマ、優生学	<ul style="list-style-type: none"> ・差別と偏見の関連性について学習してください ・優生思想の背景と今後の障害者福祉について学習してください
4	障害者福祉の理念②	8つの原理、SRV、自立	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーション以降の障害者福祉の基本にあるものについて多角的に学習してください
5	障害者福祉の歴史①	恤救規則、肢体不自由、救護法	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の障害者への処遇について学習してください ・障害者福祉の制度について歴史的背景を踏まえながら学習してください
6	障害者福祉の歴史②	親の会、コロニー、完全参加と平等	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉制度と当事者運動について学習してください ・障害者権利条約と障害者基本的について学習してください
7	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題①	地域生活、就労、8050	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の生活実態と就労・自立を含めた支援について学習してください ・障害者家族のニーズや支援について学習してください
8	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題②	ソーシャルインクルージョン、コンフリクト、テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブな社会とは何かについて学習してください ・障害者を取り巻く社会環境と課題について学習してください
9	障害者に対する法制度①	障害者基本法、障害者総合支援法、障害等級	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者基本法及び障害者総合支援法を踏まえた各種障害者・児（身体・知的・精神）に関する制度について学習してください
10	障害者に対する法制度②	手帳、入院、発達障害者支援法	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者基本法及び障害者総合支援法を踏まえた各種障害者・児（児童・発達）に関する制度について学習してください
11	障害者に対する法制度③	障害者福祉計画、合理的配慮、意思の表明	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者虐待防止法及び障害者差別解消法について学習してください ・バリアフリー法について学習してください
12	障害者に対する法制度④	アクセシビリティ、共生社会、差別の禁止	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用促進法及び障害者優先調達推進法について学習してください
13	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割①	各種機関の役割、トータルサポート、ライフステージ	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者と家族等の支援における関係機関の役割について学習してください
14	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割②	各種専門職、多職種連携、利用計画	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する専門職の役割について学習してください

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	障害者と家族等に対する支援の実態	ソーシャルワーク、エンパワーメント、コーディネート	・障害領域におけるソーシャルワークの役割と障害者と家族等に対する支援の実態について学習してください

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	「障害とは何か？」及び「障害者福祉に関わる理念の変遷」についてまとめ、障害者を取り巻く現状やその抱える問題について考察してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

- ・学習内容は、ノートにまとめ定期的に振り返りを行うようにしてください。
- ・レポート作成時に疑問に感じた点は重要な学習課題ですので、しっかりと調べて理解できるように努めてください。
- ・論述式のレポートを作成する際には、予め章立て（構成）を確認・理解した後に作業を開始してください。
- ・スクーリングの際には、事前学習のノート等を忘れずに持参してください。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

レポート作成の際には、3つ以上の参考・引用文献を用い、最後に記載してください。
レポート作成の際、引用個所がわかるように必ず引用番号を記載してください。
必ず、以下の章立てを行ってください。

1. 障害とは何かについて
2. 障害者福祉に関わる理念の変遷について
3. 障害者を取り巻く現状やその抱える問題について
4. まとめ

引用・参考文献

■レポート評価の基準

適切な章立てを行い、各章がバランス良く記載されるように努めてください。

科目修了試験

■評価基準

- ・基本的には、科目修了試験の点数を100%として評価を行います。
- ・指定図書の中身をしっかり学習してください。
- ・学習の際には、全体を広く学習することが大切です。
- ・学習内容は、ノートにまとめながら整理すると良いと思います。
- ・専門用語については、他の科目含め学習時の基本となるため「言葉と言葉の仕組み」をしっかりと理解してください。

児童・家庭福祉			科目コード	CD2172
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	1年以上	君島 昌志(上) / 千葉 伸彦(下)	



科目の概要

■科目の内容

本科目では、人権保護や権利擁護といった権利保障の捉え方をふまえて、児童家庭福祉施策の史的展開を学習していきます。具体的には、貧困家庭、要保護児童、ひとり親家庭、障害児、児童虐待対策、DV対策、社会的養護など様々な状況にある児童や家庭について支援について、法律やサービスの枠組みを体系的に学びます。

【スクーリングで学ぶ内容】

児童施策や児童の人権・権利保障の変遷をふまえ、多岐にわたる児童福祉の法制度の体系を学びます。また児童や家庭への支援についての実際を学びます。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】

教科書により児童家庭福祉施策について法律的、制度的枠組みを体系的に学びます。

レポート作成については、児童虐待対応などの重要施策についてはインターネットを活用して近年の現状を把握し、教科書や他の教科書、資料等を活用して、課題に対する解答を論述する。

■到達目標

- 1) 児童福祉や権利保障の歴史をふまえ、我が国の児童家庭施策の全体像を理解しその内容を説明することができる。
- 2) 多岐にわたる児童に関する法律や制度を把握し、社会福祉援助技術につながる知識を体系的に説明することができる。
- 3) 児童や保護者への支援の実際を理解しながら、児童福祉分野の専門職、専門機関の役割や機能を説明することができる。

■教科書

福祉臨床シリーズ編集委員会編『社会福祉士シリーズ15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度（第4版）』弘文堂、2020年

(スクーリング時の教科書)

【各会場共通】上記教科書は必ず持参してください。参考資料として使用します。スクーリングにあたっては、上記教科書に加えて、講義資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

- ・厚生労働統計協会編「厚生指標増刊 国民の福祉と介護の動向」最新号
- ・厚生労働省公式HP「子ども虐待対応の手引」
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv12/00.html>

スクーリング

■スクーリング留意事項

児童虐待やDVに関する事柄、養子縁組等の出自に関する解説やDVDの視聴があります。

スクーリングでは無理に聴講、視聴しないようにしてください。当日、事前に事務局に伝えてください。

状況によっては授業中、一時退席してもかまいません。

■スクーリングで学んでほしいこと

どんな時代でも必ず子どもはいました。どんな大人でも必ず子ども時代がありました。

当たり前のことなのですが、子どもの人権や権利が考えられるようになってきたのはおよそ120年前からです。人類の長い歴史、日本人の長い歴史のなかではつい最近のことといってもよいかもしれませぬ。

この講義ではどうしても児童家庭福祉に関する法律や制度の概要を説明することが多くなりますが、そのなかで子どもの「最善の利益」とは何か、ということを常に考えながら学んでほしいと思います。最善の利益とは言い換えれば「子どもにとってどうか」「子どもにとって一番よい方法はなにか」ということです。

子どもの人権や権利をどう捉え、どう守っていくか、子どもの主体性を尊重するということがどうか、そのために必要な法律や制度は何か、という順番で考えてみてください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境 少子化問題と次世代育成支援	少子化の要因、少子化対策、子育て家庭の変容、 子育ての不安、ワーク・ライフ・バランスなど
2	児童福祉の歴史（日本・欧米） 児童の定義、権利保障	我が国および諸外国における、児童に対する施策 の歴史的展開、権利保障の体系
3	児童福祉の法制度（1）組織・サービス 児童福祉法	国、地方公共団体、民間福祉事業の役割と機能、 児童福祉法の理念、責務、定義
4	児童福祉の法制度（2）児童虐待の実態と対策 児童福祉の法制度（3）DV防止対策	児童虐待の定義、実態、防止施策、DVの定義、 実態、防止施策
5	児童福祉の法制度（4）要保護児童対策・非行少 年への対応	要保護児童の実態と支援の枠組み、非行少年に対 する児童福祉、少年司法
6	児童福祉の法制度（5）ひとり親家庭への支援 児童福祉の法制度（6）子どものいる貧困家庭へ の支援	ひとり親家庭の定義、実態、支援、貧困の定義、 実態、子どものいる貧困家庭への支援
7	児童福祉の法制度（7）障害児 児童福祉の法制度（8）社会的養護の必要な児童	障害をもつ児童やその家族に対する施策、社会的 養護の体系（施設・里親）
8	児童福祉の法制度（9）母子保健、子育て支援	母子保健制度の体系、子育て支援
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料を中心にテキストを参考程度に使用します。

板書はスライドを投影します。

グループワーク、受講者どうしの対話は行いません。

■スクーリング 評価基準

通信機器以外すべて持ち込み可とします。

児童の権利保障の捉え方について理解を問います。

スクーリングで学んだことと自分自身の実践や日常生活と結びつけて論じることも良しとします。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書のなかで自分の興味・関心のあるところを読んでください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

配付された資料や教科書に目を通して、復習してください。

レポート学習にも取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	子どもを取り巻く社会環境	社会や子育て家庭の変容、働き方の変化	少子化社会、少子化対策の理解、男女共同参画社会の理解
2	子どもの権利保障	児童の最善の利益、受動的権利、能動的権利	権利保障の変遷、権利の捉え方の理解
3	子ども家庭福祉の発展過程	「子ども」とはなにか、保護、育成	諸国や時代による子ども観の違い
4	子ども家庭福祉の基本的な法律	児童福祉法と関連法	各法における児童の定義、目的、制定の背景
5	行政のしくみ	国と地方公共団体の役割	国の役割、都道府県、市町村の役割
6	児童福祉施設	施設の種別、目的	対象児童の状況、援助、専門職の役割
7	非行少年への対応	少年法、犯罪少年、触法少年	家庭裁判所の機能、保護処分の種類
8	障害児への支援	障害者総合支援法、手帳制度	障害の種別、サービス利用
9	子育て支援・児童健全育成	育児不安、子どもの成長・発達、保護者支援	地域子育て支援事業、児童健全育成
10	母子保健	母子保健法、子育て世代包括支援センター	母子保健法にもとづく事業、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援
11	ひとり親家庭	母子家庭、父子家庭、自立促進	母子及び父子並びに寡婦福祉法の定義
12	子どもの貧困対策	子どもの貧困対策推進法、生活保護法	相対的貧困、貧困の連鎖、学習、生活支援
13	児童虐待防止	児童虐待防止法、定義、児童福祉法	各法による定義、対応の法的根拠、児童相談所、市町村の役割、被害児童の保護
14	DV防止	DV防止法、定義、暴力のサイクル、保護命令	関係機関の対応と連携、被害者の保護
15	いじめ・不登校	いじめ防止対策推進法、スクールソーシャルワーク	いじめの現状と対応、不登校の現状と対応

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	課題名「子ども虐待の現状と対策」 日本における子ども虐待の現状とその対策について述べて。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め
アドバイス

2 単位め
アドバイス

レポート作成について

- ・ 定義や対策の根拠となる法律を示しながらまとめてください。
- ・ 相談件数のデータは過去3年以内のものを引用してください。
- ・ 報道された事例は自分自身が強く印象に残ったものでかまいません。
- ・ 箇条書きではなく、考察しながら論述してください。

科目修了試験

■ 評価基準

- ・ 本科目全体の内容についての理解を問います。
- ・ 問題の題意に適しているかどうかを問います。
- ・ 解答字数は、800字以上を基準といたします。

刑事司法と福祉			科目コード	CF3174
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	2年以上	菅原 好秀	



科目の概要

■科目の内容

「刑事司法と福祉」の目的は、高齢者の犯罪や精神障害者の犯罪、非行少年などの諸問題に対して刑事司法機関だけでは対応できないため、福祉関係機関と刑事司法機関が密に連携しながら社会全体で一体となって再犯を防止し社会復帰させることです。犯罪者・非行少年の改善更生を図るために、「再犯防止」「社会復帰」に必要な担い手として社会福祉士や精神保健福祉士が期待されています。

講義では犯罪者、非行少年の事例を挙げて、刑事司法・少年司法分野で活躍する組織、団体及び専門職、刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携のあり方、更生保護の概要・担い手、保護観察制度、医療観察制度、犯罪被害者等支援を中心に学んでいきます。

刑事司法全体を概観し、相談援助活動に必要な更生保護制度について学ぶことにより、論理的・創造的な法的思考能力を図り、修得した知の経験を社会や他者のために還元できる意欲と能力の向上を図ることを目的とします。

■到達目標

- 1) 刑事司法と福祉の概要について説明することができる。
- 2) 更生保護制度の担い手について説明することができる。
- 3) 医療観察制度の制度趣旨と問題点について説明することができる。
- 4) 保護観察制度の制度趣旨と問題点について説明することができる。

■教科書（「権利擁護を支える法制度」と共通）

- 1) 渡辺信英著『更生保護制度 改訂新版』南窓社、2018年
- 2) 菅原好秀著『権利擁護論』建帛社、2022年

※「権利擁護を支える法制度」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）上記教科書1) 2) の所持が必要です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「アセスメント力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価 or 科目修了試験70%

■参考図書

- 1) 菅原好秀編著『福祉ライブラリ 福祉法学 第2版』建帛社、2020年
- 2) 菅原好秀著『リスクマネジメントと法』建帛社、2020年
- 3) 犯罪白書（インターネットの検索サイトで各年度を参照してください）

■事前に学習してほしい科目

この科目を学ぶにあたり、事前に「法の基礎」「権利擁護を支える法制度」「家族法」「福祉リスクマネジメント」の教科書を読み、わからないところとわかるところをある程度、分類把握し、わからない用語は参考図書等を活用して調べてください。

■履修登録条件

この科目は、「権利擁護を支える法制度」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは犯罪者、非行少年が共生社会の一員として、社会に貢献できる人材として総合的支援をするためには何が必要なのか、また更生への意欲を妨げている現状と課題について重点的に学んでいただきたい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	刑事司法と福祉の全体像について	施設内処遇と社会内処遇について
2	保護観察制度	保護観察制度の現状と課題について
3	更生保護の担い手	保護司・更生保護女性会・BBS会について
4	医療観察制度	医療観察制度の手続きについて
5	犯罪被害者等支援	犯罪被害者等支援に関する法制度について
6	高齢犯罪者	高齢犯罪者の実態と処遇について
7	少年非行	少年非行の現状と課題について
8	刑事司法と福祉の課題	刑事司法における福祉の役割と今後の展望について
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

法律は用語が難解であるため、一度で理解し覚えることは難しいため、できるだけ板書を中心に、教科書を用いながら講義を進めます。しっかりと講義を聴き、ノートをとるようにしてください。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20%）とスクーリング試験（80%）で評価します。スクーリング試験は教科書・ノート・配布資料の持込可ですが、パソコンや携帯など電子機器類の持込はできません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

事前に教科書を読んでわからないところとわかるところをある程度、分類把握し、わからない用語は参考図書等を活用して調べてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	更生保護制度	更生保護制度の概要について学びます。	刑事司法の中の更生保護の位置づけについて説明できることが重要です。
2	仮釈放等	仮釈放等の制度概要について学びます。	仮釈放等の種類、手続きについて理解することが重要です。
3	保護観察制度	保護観察制度の概要について学びます。	保護観察の目的・方法について理解することが重要です。
4	保護観察対象者の現状と課題	保護観察対象者の現状と課題について学びます。	保護観察対象者の現状と課題を踏まえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
5	生活環境の調整	生活環境の調整について学びます。	収容中の者に対する生活環境の調整について説明できることが重要です。
6	更生緊急保護制度	更生緊急保護制度の概要について学びます。	更生緊急保護制度の意義、対象となる者について理解することが重要です。
7	更生緊急保護制度の現状と課題	更生緊急保護制度の現状と課題について学びます。	更生緊急保護制度の現状と課題を踏まえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
8	犯罪被害者等支援	犯罪被害者等支援について学びます。	犯罪被害者等にかかわる支援機関とその役割を理解し犯罪被害者等が活用できる制度を説明できることが重要です。
9	保護観察官	保護観察官について学びます。	保護観察官の意義と役割について説明できることが重要です。
10	保護司	保護司について学びます。	保護司の意義と役割について説明できることが重要です。
11	更生保護施設	更生保護施設について学びます。	更生保護施設の意義と役割について説明できることが重要です。
12	民間協力者	民間協力者について学びます。	更生保護女性会、BBS会、協力雇用主について説明できることが重要です。
13	更生保護制度における関係機関・団体との連携	更生保護施設における関係機関・団体との連携について学びます。	裁判所、検察庁、矯正施設、児童相談所との関わりについて説明できることが重要です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	医療観察制度	医療観察制度の概要について学びます。	医療観察制度の制度背景、各制度趣旨について理解することが重要です。
15	医療観察制度の現状と課題	医療観察制度の現状と課題について学びます。	医療観察制度の現状と課題をふまえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	医療観察制度について論ぜよ。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

論述にあたっては、法制度の意義、内容を具体的に説明した上で、自分の考えが述べられるようにしてください。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

医療観察制度の背景、目的、手続き、社会復帰調整官の業務を述べた上で、医療観察制度の現状と課題について言及してください。

科目修了試験

■評価基準

当該科目の内容理解がなされているかが重要であり、論述の分量（1問あたり400～800字程度）も評価対象となります。また、法の制度趣旨、意義を述べた上で、現実との関連から自分なりの視点が述べられていることも評価の対象となります。

ソーシャルワーク演習 (社会福祉士)			科目コード	CN3251
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(講義)	2年以上	君島 昌志 ほか	



この科目は目的資格によって受講する科目コードが異なります。履修登録の際にご注意ください。

目的資格	科目コード	掲載ページ
社会福祉士受験資格	CN3251	p.112 (当ページ)
精神保健福祉士受験資格	CW3283	p.120

※上記両方の受験資格を希望の方は、どちらも履修登録をしてください（2科目4単位）。スクーリング受講の順序については、後日ご案内します。

科目の概要

■科目の内容

この科目では、ソーシャルワーク専門職に求められる相談援助に係る基本的知識と技術について、実践的に習得することを目的としています。単なる理論的な学習では、支援を必要としている人たちが抱える課題の解決やニーズの充足を満たすことはできません。理論を実践に役立てるためには、ソーシャルワークについて事例検討や疑似体験などを通して専門的に学習することが重要です。

本演習では、ソーシャルワークにおける理論や専門知識を踏まえた上で、特に、倫理観、価値観、援助の原理、展開過程などの基本的なソーシャルワーク実践の知識と技術を中心に、ロールプレイなどの疑似体験、グループ討議などアクティブラーニングを通して、統合的、主体的に学習することを目的としています。

■到達目標

- 1) 視点、モデル、アプローチなどソーシャルワークの枠組みが説明できる
- 2) 社会福祉専門職としての「自己」について、自己覚知を通して客観的な視点から説明できる
- 3) 社会福祉の倫理、価値規範について説明できる
- 4) 言語的、非言語的コミュニケーションの基礎を身につけ、基本的な面接技術を学習の場で実践できる
- 5) 相談援助の過程について事例を通して具体的にイメージすることができ、説明できる
- 6) 相談援助の基盤と専門性について説明できる

■教科書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目]13 ソーシャルワーク演習 (共通科目)』中央法規出版、2021年
(スクーリング時の教科書) 上記教科書を使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価60%

■参考図書

- 1) 山縣文治・柏女霊峰編『社会福祉用語辞典 第9版』ミネルヴァ書房、2013年
- 2) 社会福祉法人大阪ボランティア協会編『福祉小六法2022』中央法規出版、2021年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- ・この科目は、スクーリングの受講が必須となります。
- ・1クラス20人以内の少人数で開講します。
- ・受講料は10,000円となります。
- ・受講許可証・納入依頼書は、各受講判定日（申込締切日）以降に発送いたします。
- ・スクーリング開講日・申込締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。
- ・申込方法は、『With』でご案内します。
- ・クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- ・申込締切後の受講日・受講地の変更は受け付けしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- ・公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席も認められません。

■スクーリング受講条件

受講判定日までに

- ①（入学後1年以上経過した方は）卒業要件単位数20単位以上（認定単位を除く）の修得
- ②「ソーシャルワーク演習」1単位めレポートの提出
- ③「ソーシャルワークの基盤と専門職」1単位めレポートの提出

※各提出期日は『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照。

※各受講条件は『学習の手引き [別冊]』2章「資格取得のための履修方法」Ⅱ節「社会福祉士国家試験受験資格」「4 演習・実習科目 受講の流れ」「5 演習・実習科目の受講条件」から確認してください（受講条件は、見直しにより変更となる場合があります）。

■スクーリング受講・単位認定について

演習のスクーリングにおいては、自己紹介、学生同士の話し合いや発表・ロールプレイング等の実

施を予定しており、積極的な参加が求められます。

また、スクーリング時間内およびスクーリング試験において、ソーシャルワーク実践に関する基本的な視点や態度をどの程度修得することができたかについて確認をしていただきます。その確認内容が、スクーリングで学んだことと著しく相違していると思われる内容である場合には再履修となります（スクーリング試験は60点以上が必須。持ち込み不可。追試験等は一切ありません）。

出席、演習への取り組み、レポートなどにより総合的に評価し単位認定します（前項「**■科目評価基準**」参照）。

※単位修得できなかった方が再受講する場合、当該スクーリングの申込みは改めて必要になりますが、既に合格済みのレポートは有効となります。

■体験学習

詳細は、「ソーシャルワーク演習」スクーリング時の「体験学習・次年度実習ガイダンス」において説明します（実習希望者出席必須）。

※実習免除者は、「体験学習・次年度実習ガイダンス」の出席は不要。

■スクーリングで学んでほしいこと

- 1) ソーシャルワークの基盤となる倫理、価値規範について体験的に理解する
- 2) 能動的な参加姿勢による自己覚知を体験する
- 3) コミュニケーション能力や基本的な面接技術を身につける
- 4) 事例検討を通して実際の相談援助の過程を理解する

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション ソーシャルワーク専門職としての価値規範及び倫理の理解①	演習の目的、内容、評価基準等の確認 ロールプレイや援助場面を想定した事例研究、価値規範、倫理についてのディスカッション
2	ソーシャルワーク専門職としての価値規範及び倫理の理解②	上記の学習を通して、専門職の活動を具体的にイメージしたプレゼンテーション
3	援助関係の基盤となる他者理解、自己理解	事例研究、面接場面のロールプレイ、専門職としての他者理解、自己理解を通じた自己覚知
4	ソーシャルワークの展開過程の理解	インテークから終結までのソーシャルワークの過程を事例研究、ロールプレイを通じたプレゼンテーション
5	基本的なコミュニケーション技術の習得①	面接場面のシナリオを使用して役割取得訓練を行い、コミュニケーション技術の基本を確認、表現する
6	基本的なコミュニケーション技術の習得②	非言語の意味を理解し、トータル・コミュニケーションとしての面接を役割取得、ロールプレイ場面で表現する
7	面接技術の基礎を学ぶ①	ソーシャルワークにおける面接の目的と特性について学び、場面設定などの具体的な留意点に関するディスカッション

回数	テーマ	内容
8	面接技術の基礎を学ぶ②	事例、シナリオを使用して、面接場面を役割取得、ロールプレイを行い、振り返りを通して面接技術の基礎を習得する
9	スクーリング試験	提示された論題について筆記試験を行う

■講義の進め方

- 1) パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。
- 2) 教科書は参考程度に使用し、配付資料をもとに板書もしながら進めます。
- 3) グループになって取り組むことがあります
- 4) ロールプレイ（役割演技、疑似体験）を行うため、動きやすい服装、靴が望ましい。
- 5) 児童虐待やDV等に関する事例検討がありますので、苦手な人は無理せず一時的に退室してください。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容とソーシャルワークの専門知識を結びつけて論じる内容になります（自筆ノートのみ持ち込み可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1章を読んでください

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の第2章～第5章を復習してください。また、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会福祉士に求められる役割①	社会福祉士に求められる役割について、法制度の成立から今日まで、時代の要請の変遷を理解する。 キーワード：国家資格、名称独占	複雑化、多様化するニーズに応えるために、ソーシャルワーク、ソーシャルワーカーに求められているものはなにか、考えてみましょう。 (テキスト第1章)
2	社会福祉士に求められる役割②	社会福祉士に求められる倫理について「日本社会福祉士会の倫理綱領」を読み、理解する。 キーワード：倫理綱領	「ソーシャルワーカーの倫理綱領」の意義やソーシャルワーカーのあるべき姿について考えてみましょう。 (テキスト第3章)(公益社団法人日本社会福祉士会 HP)

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	社会福祉士に求められる役割③	社会福祉士に求められる倫理について「日本ソーシャルワーカー連盟(JFGSW)の倫理綱領」を読み、理解する。 キーワード：倫理綱領	「ソーシャルワーカーの倫理綱領」の意義やソーシャルワーカーのあるべき姿について考えてみましょう。(テキスト第3章)(日本ソーシャルワーカー連盟HP)
4	人と環境の交互作用	生活モデル、システム理論、バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの3つのモデルの基本的な理解 キーワード：交互作用	それぞれの事例に取り組み、ソーシャルワークが人と環境の交互作用に焦点をあてながら、どのように利用者理解や現状の把握を行い、支援につなげるのか、考えてみましょう。(テキスト第2章)
5	コミュニケーション技術と面接技術	ソーシャルワークにおけるコミュニケーション技術の基本的な理解 キーワード：言語、非言語コミュニケーション	利用者との基本的な関わりにおけるコミュニケーション技術には構造があり、また、言語的、非言語的なコミュニケーションそれぞれの役割があることを考えてみましょう。(テキスト第4章)
6	ソーシャルワークの原理・原則①	ソーシャルワークを実践する上でのソーシャルワーカーが取るべき行動規範であるバイスティックの7つの原則を理解する。 キーワード：ケースワーク、ラポール	バイスティックの7つの原則のうち「個別化」「意図的な感情表出」「統制された情緒関与」の原則について、概要をまとめてみましょう。(テキスト第3章、他のテキスト等)
7	ソーシャルワークの原理・原則②	ソーシャルワークを実践する上でのソーシャルワーカーが取るべき行動規範であるバイスティックの7つの原則を理解する。 キーワード：ケースワーク、ラポール	バイスティックの7つの原則のうち「受容」「非審判的態度」「自己決定」「秘密保持」の原則について、概要をまとめてみましょう。(テキスト第3章第2節、他のテキスト等)
8	ソーシャルワークの展開過程①	ソーシャルワークの展開過程のなかでもケースの発見、エンゲージメント(インテーク)について理解する。 キーワード：通告、要援護者の発見、アウトリーチ、保護、インテーク	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題に取り組み、解説を確認してみましょう。(テキスト第5章第1節、他のテキスト等)
9	ソーシャルワークの展開過程②	ソーシャルワークの展開過程のなかでもアセスメント(現状把握)について理解する。 キーワード：フェイスシート、アセスメント表	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題に取り組み、解説を確認してみましょう。(テキスト第5章第2節、他のテキスト等)

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	ソーシャルワークの展開過程③	<p>ソーシャルワークの展開過程のなかでもアセスメント（現状把握）について理解する。</p> <p>キーワード：エコマップ、ジェノグラム</p>	<p>ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。自分自身のエコマップ、ジェノグラムの作成に取り組み、ビジュアル的に現状を把握する方法について確認してみましょう。</p> <p>（テキスト第5章第2節、他のテキスト等）</p>
11	ソーシャルワークの展開過程④	<p>ソーシャルワークの展開過程のなかでもプランニング（支援計画）について理解する。</p> <p>キーワード：支援計画書、多職種・多機関との連携</p>	<p>ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題に取り組み、解説を確認してみましょう。</p> <p>（テキスト第5章第3節、他のテキスト等）</p>
12	ソーシャルワークの展開過程⑤	<p>ソーシャルワークの展開過程のなかでもプランニング（支援計画）について理解する。</p> <p>キーワード：支援計画書、多職種・多機関との連携・協力</p>	<p>ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。テキストに記載されたプランニング案をもとに、プランニングの実施に必要なとされる専門機関、専門職について確認してみましょう。</p> <p>（テキスト第5章第3節、他のテキスト等）</p>
13	ソーシャルワークの展開過程⑥	<p>ソーシャルワークの展開過程のなかでも支援の実施とモニタリングについて理解する。</p> <p>キーワード：実施状況の確認、課題や目標に対する評価</p>	<p>ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題①に取り組み、解説を確認してみましょう。</p> <p>（テキスト第5章第4節、他のテキスト等）</p>
14	ソーシャルワークの展開過程⑦	<p>ソーシャルワークの展開過程のなかでも支援の実施とモニタリングについて理解する。</p> <p>キーワード：再アセスメント、再プランニング</p>	<p>ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題②に取り組み、解説を確認してみましょう。</p> <p>（テキスト第5章第4節、他のテキスト等）</p>
15	ソーシャルワークの展開過程⑧	<p>ソーシャルワークの展開過程のなかでも支援の終結と結果評価について理解する。</p> <p>キーワード：評価、分析</p>	<p>ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題に取り組み、解説を確認してみましょう。</p> <p>（テキスト第5章第5節、他のテキスト等）</p>

■レポート課題

※次ページの「レポートの提出方法」を参照のうえ、作成・提出すること。

1 単位め	(スクーリング事前課題) 心理社会的アプローチ、機能的アプローチなど主要なアプローチの特徴と共通基盤を説明してください。
2 単位め	(スクーリング事後課題) 社会福祉実践において、なぜ、ソーシャルワーカーには自己覚知が大切なのか。演習での体験を踏まえながら述べてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートは自分の考えを自分の言葉で表現してください。

自分の経験、エピソードを引用しながら考察することは理論と実践の接続の試みでもあるので推奨しますが、個人や団体等が特定されて、後にトラブルにならないよう、支障のない範囲での記述を心がけてください。

引用または参考にした文献、資料の出典は必ず記載するようにしてください。

1 単位め アドバイス

ケースワークは100年ほどの歴史をもっています。人々の生活環境の変化とともに、ケースワークの理論は実践を通して発展してきました。社会が複雑化、多様化するなかで様々なアプローチが登場し、これまで、およそ15のアプローチが築かれたと言われています。

このレポートでは受講者自身が関心をもった、いくつかのアプローチについてのその系譜を紹介しながら、その時代背景と結びつけて論じてください。そのなかでアプローチごとの相違点と共通点についてまとめてください。

2 単位め アドバイス

社会福祉実践において他者を援助するに当たっては、適切な他者理解が必要です。他者理解を得るためには、適切な自己理解が援助者としてはとても大切になります。利用者と向き合った時に自分自身の考え方や、性格、価値観などについての「気づき・自己覚知」が出てきます。過去の出来事が自分の性格や、癖、行動傾向などによって現在の自分が作り上げられています。ここでの「気づき・自己覚知」についてまとめてみることによって、自己理解に役立てることができます。このような視点からの「気づき・自己覚知」について論じてくださっても結構です。

また、社会福祉実践において援助者は、コミュニケーションを通して効果的な援助を展開していきます。コミュニケーションについては、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションの理解が必要です。ここでは、言語コミュニケーションにおける自分自身についての「気づき・自己覚知」や非言語コミュニケーション（視線、姿勢、表情、音声、距離、位置）などについての「気づき・自己覚知」なども大切です。これらを通しての自分自身のコミュニケーションの特性についての「気づき・自己覚知」について感じたことをまとめてみることも大切です。このような視点からの「気づき・自己覚知」について論じてくださっても結構です。

あるいはこのレポート課題について、あらためて自分自身の日常生活における行動や考え方、癖などについての新たな「気づき・自己覚知」や、これまでの生活を振り返って感じた「気づき・自己覚知」、社会福祉専門職を目指すものとしての「気づき・自己覚知」について論じてくださっても結構です。

■レポートの提出方法

- 1) 1 課題につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。
- 2) 1 単位のレポート文字数は、2,000字程度ですが、最長4,000字程度まで記入していただいても結構です。パソコン印字の場合→左右40字×30行×2～4枚まで可。
- 3) 教員名の欄には記入しないでください。
- 4) 各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』または『With』参照）。

ソーシャルワーク演習 (精神保健福祉士) 科目コード CW3283



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR(講義)	2年以上	小野 芳秀 ほか

この科目は目的資格によって受講する科目コードが異なります。履修登録の際にご注意ください。

目的資格	科目コード	掲載ページ
社会福祉士受験資格	CN3251	p.112
精神保健福祉士受験資格	CW3283	p.120 (当ページ)

※上記両方の受験資格を希望の方は、どちらも履修登録をしてください(2科目4単位)。スクーリング受講の順序については、後日ご案内します

科目の概要

■科目の内容

個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により、ソーシャルワークの価値規範と倫理、ソーシャルワークに必要なコミュニケーション能力、ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術の基礎的能力を習得します。情報の収集・整理・伝達の技術、地域福祉の基盤整備と開発についても、事例を通して実践的に習得します。

■到達目標

- 1) ソーシャルワークの知識と技術を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を習得し、それらについて説明できる。
- 2) ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解し、それらについて説明できる。
- 3) 自己覚知について説明できる。
- 4) ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を習得し、それらについて説明できる。
- 5) 基本的な面接技術について説明できる。
- 6) ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解し、それらについて説明できる。
- 7) ソーシャルワークの記録について説明できる。
- 8) グループダイナミクスの活用について説明できる。
- 9) 効果的なプレゼンテーション技術について説明できる。
- 10) 情報の収集・整理・伝達の技術について説明できる。
- 11) 地域住民に対するアウトリーチとニーズの把握方法を説明できる。
- 12) 地域アセスメント並びに地域福祉計画の策定について説明できる。
- 13) ネットワーキングの方法や必要性について説明できる。

14) 必要な社会資源の活用・調整・開発について説明できる。

15) サービスの評価について説明できる。

■教科書

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『精神保健福祉士養成セミナー7（第6版）精神保健福祉援助演習 [基礎][専門]』へるす出版、2017年

(スクーリング時の教科書) スクーリング時に上記教科書は使用しません。配付資料を使用し演習を行います。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自己尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価20%+スクーリング評価80%

■参考図書

- 1)「学びが深まるソーシャルワーク演習」編集委員会「学びが深まるソーシャルワーク演習」ミネルヴァ書房、2021年
- 2)日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）「最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座13 ソーシャルワーク演習（共通科目）」中央法規出版、2021年
- 3)福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ9 精神保健福祉援助演習（基礎）〈第2版〉』弘文堂、2017年
- 4)福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ10 精神保健福祉援助演習（専門）〈第2版〉』弘文堂、2016年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- ・この科目は、スクーリングの受講が必須となります（仙台でのみ開講）。
- ・1クラス20人以内の少人数で開講します。
- ・受講料は10,000円となります。
- ・受講許可証・納入依頼書は、各受講判定日以降に発送いたします。
- ・スクーリング開講日・申込締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。
- ・申込方法は、『With』でご案内します。
- ・クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。

- ・申込締切後の受講日程の変更は受け付けしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- ・公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席は認められません。
- ・「ソーシャルワーク演習」または「精神保健福祉実習Ⅰ」の実習選考試験が不合格となった場合、当該年度の「精神保健福祉実習Ⅰ」の申込みは無効となります。

■スクーリング受講条件

1) 1年次入学者(2021年度以降入学者)

- ①受講1カ月前までに卒業要件単位数20単位の修得
- ②所定の期日までに「ソーシャルワーク演習」1単位めレポートの提出(提出期日は『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照)

2) 2年次編入学者(2022年度以降入学)・3年次編入学者(2023年度以降入学者)

所定の期日までに「ソーシャルワーク演習」1単位めレポートの提出(提出期日は『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照)

※各受講条件は『学習の手引き』3章「資格取得のための履修方法」3節「精神保健福祉士国家試験受験資格」「3履修方法」「(3)履修の流れ」の図中の「受講条件」から確認してください(受講条件は、見直しにより変更となる場合があります)。

■スクーリング受講・単位認定について

演習のスクーリングにおいては、自己紹介、学生同士の話し合いや発表・ロールプレイング等の実施を予定しており、積極的な参加が求められます。

また、実習の受講を希望する方は、実習前年度に実施される「精神保健福祉実習Ⅰ※」の実習選考試験によって次年度実習受講の可否の判定を受けてください。

※精神保健福祉実習Ⅰ：障害福祉サービス事業を行う施設等における実習

●単位認定

レポート+「ソーシャルワーク演習」スクーリング評価等から総合的に単位認定します(前項「■科目評価基準」参照)。

2単位めレポートが所定の期日までに提出されない場合は、スクーリングの受講は無効となります。また、2単位めレポートが再提出の場合は、再提出となったレポート到着後、指示された期日までに再提出を行わないとスクーリングの受講は無効になります。

この科目の最終スクーリング結果通知は、2単位めレポートの提出締め切り後に郵送で行います。スクーリングを欠席・不合格の場合、合格済みの1単位めレポートは無効となります。次回以降の「ソーシャルワーク演習」を申込む際は、所定の期日までに再度「ソーシャルワーク演習」の課題1レポートの提出を行ってください。

■実習選考試験・補講演習について

- ・詳しくは『学習の手引き』3章「資格取得のための履修方法」**「●実習申込みに関する注意事項【重要】**」の③実習選考試験・④補講演習を参照してください。
- ・「ソーシャルワーク演習」受講申込者で実習免除者以外は、「精神保健福祉実習Ⅰ」を申込みことが前提となります。
- ・「ソーシャルワーク演習」または「精神保健福祉実習Ⅰ」の実習選考試験が不合格となった場合、当年度の「精神保健福祉実習Ⅰ」の申込は無効となります。
- ・実習選考試験の不合格・不許可者のうち、再受講を希望する方は、評価の低かったスキルの向上を目的とした、個別またはグループによる「補講演習」スクーリングの受講が必須となります（仙台でのみ開講）。

※「補講演習」受講料：スクーリング受講料と同額程度を予定。

■スクーリングで学んでほしいこと

ソーシャルワークの基本的な知識・技術・視点・倫理・価値に関する事例等を用いたロールプレイに取り組む中で、基本的な対人援助技術を身につけてください。対人援助者として自身の適性について、「得意な部分」・「今後伸ばすべき部分」への気づきを意識しながら学んでください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	精神保健福祉領域における援助の基礎的知識と技術	オリエンテーションおよび精神保健福祉領域における相談援助の基本、専門職としての価値・倫理
2	基本的なコミュニケーション技術	基本的なコミュニケーション技術と面接技術
3	基本的相談援助技術	相談援助技術の概念と範囲、情報の収集・整理・伝達、課題の発見と分析、記録技術、ジェノグラムとエコマップの活用方法、プレゼンテーション技術
4	グループダイナミクス活用技術	グループダイナミクス活用技術とその効果、グループワークの活用方法
5	個別援助技術	ロールプレイによる面接技術ならびに個別援助技術の基本と事例検討、ソーシャルワークの展開過程
6	集団援助技術	集団援助技術の基本と事例検討
7	地域援助技術	地域援助技術の基本と事例検討
8	自己覚知	自己覚知の必要性と他者理解

■講義の進め方

演習はグループワーク中心に展開し、必要に応じて板書やICTの活用、資料配付などを行う。

■スクーリング 評価基準

レポート評価20%+スクーリング評価80%

※グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していく。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

- 1) 次項「■在宅学習15のポイント」から、特に1・2・3・4・6・7・8・9・10・12・13を予習しておくこと。
- 2) 「ソーシャルワーク演習」1単位めレポートを作成し、期日までに提出していること（『試験・スクーリング情報ブック』または『With』参照）。
- 3) 所定の期日までに演習受講申込受理・受講条件に定める学習を終えていること（『学習の手引き』3章「資格取得のための履修方法」3節「精神保健福祉士国家試験受験資格」「3履修方法」「(3)履修の流れ」の図中の受講条件を参照）。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

- 1) 「■在宅学習15のポイント」の15回を参照し、演習内容を振り返りながら援助者としての自己の適性について振り返りを行う。
- 2) 「ソーシャルワーク演習」2単位めレポートを作成し、期日までに提出すること（『試験・スクーリング情報ブック』または『With』参照）。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	精神保健福祉士についての理解（基礎編序章）	ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士の意義について理解する。 キーワード：社会的入院、生活支援の視点、倫理綱領	「Y問題」とはどのような事件だったのか、他の文献等から調べ、そのことの反省から精神保健福祉士のあり方としてどのようなことが提起されたのか調べる。
2	自己覚知について（基礎編第1章II）	ソーシャルワークにおける自己覚知の意味について理解する。 キーワード：自己覚知、スーパービジョン、ジェノグラム、エコマップ	ソーシャルワークにおける自己覚知の定義と必要性について調べる。
3	専門職の価値と倫理（基礎編第2章I）	個人の価値観と専門職である精神保健福祉士としての価値観の違いについて理解する。 キーワード：クライアントの自己決定、権利擁護	「なぜ精神保健福祉士になりたいのか」、自身がどのような価値観や人生観を持っているのか再確認しながら整理する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
4	支援（相談援助）の対象について（基礎編第2章II）	精神保健福祉領域における相談援助の対象、精神保健福祉士としての相談援助の範囲について理解する。 キーワード：マイクロレベル、メゾレベル、マクロレベル	精神保健福祉士は誰を援助の対象とするのか、相談援助の範囲にはどのようなレベルがあるのか整理する。
5	精神障害者の理解（基礎編第2章III）	精神障害者を疾病と障害を併せ持つ生活者として捉える視点について理解する。 キーワード：ストレングス、ソーシャルアクション	精神保健福祉士は支援の対象となる精神障害者をどのような「存在」として理解すれば良いのか、専門的視点について整理する。
6	援助関係のあり方（基礎編第2章IV）	専門的な援助関係、援助関係の結び方等、援助関係の原則について理解する。 キーワード：バイステックの7原則	ケースワーク（直接援助技術）における専門的な援助関係の行動原理について示した、バイステックの7原則について整理する。
7	コミュニケーションの基本（基礎編第3章I）	言語・非言語コミュニケーションについて理解する。 キーワード：言語・非言語コミュニケーション、『自覚しない逆転移』	言語・非言語的コミュニケーションとは具体的にどのようなものか理解したうえで、家族や友人から「ある日の出来事」について話してもらい、その時の話し手の感情や状況を自分なりにイメージしてみる。
8	基本的面接技術（基礎編第3章II）	基本的面接技術について理解する。 キーワード：構造化面接、半構造化面接、非構造化面接	教科書「ニーズの表出の特徴」について整理する。 ※面接技術に関連して、基本的なプレゼンテーション技術について、Webサイトや書籍等から整理すること。
9	グループワークの活用（基礎編第3章III）	グループ援助の可能性と留意点について理解する。 キーワード：ヤーロム、ディーガン	集団精神療法の領域においてヤーロムがあげたグループのもつ有効性の11の因子、ディーガンのあげたリカバリー要因としての「2、3歩先を行く当事者」の存在の有効性についてそれぞれまとめる。
10	情報の収集・整理・伝達（基礎編第3章IV）	情報収集の目的と原則および方法について理解する。 キーワード：アセスメントシート、ジェノグラム、エコマップ	教科書の「情報収集の目的」を理解した上で、「情報収集の原則と方法」について整理する。
11	課題の発見と分析（支援の見立て）について（基礎編第3章V）	課題の発見に必要なプランの作成能力・洞察力・的確な情報提供力ならびに情報収集・整理能力について理解する。 キーワード：仮説、専門用語・日常用語	教科書の尾崎新の援助において理解しなければならない5領域について具体的にイメージしながら、精神保健福祉士の誠実な態度と傾聴の姿勢、理解者でありたいと願い続ける謙虚な態度形成とは何か整理してみる。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	記録について（基礎編第3章VI）	記録の意義と具体的方法について理解する。 キーワード：ケース記録、記録の保管、秘密保持	どのような記録がどのような目的で必要なのか、記録の種類と使用目的、記録事項、記述方法について教科書をよく読み整理する。
13	基本的援助方法の理解（基礎編第4章I・II）・援助過程に沿った事例展開の実際（実践編第1章I～IV）	個別援助技術（ケースワーク）・集団援助技術（グループワーク）・地域援助技術（コミュニティワーク）・ケアマネジメントについて理解する。 ソーシャルワークの展開過程について理解する。 キーワード：ストレングスの視点、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメント	インテーク、契約、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、終結、支援の振り返り、アフターケア 個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、地域援助技術（コミュニティワーク）、ケアマネジメントの過程と原則について整理する。 ソーシャルワークの展開過程について、具体的場面を想像しながら整理する。
14	ソーシャルワークの共通基盤（基礎編第4章III）	ソーシャルワークの援助方法の共通基盤について理解する。 キーワード：自己決定の尊重、「成長と変化のプロセス」	ソーシャルワークの全体像、共通基盤について整理する。
15	自己理解を深める（基礎編付章I・II・III・IV・V）	1～14の学びを通して得られた知見と要点を整理し、再び自身の価値観を見つめ直し、精神保健福祉士の意義と専門性について理解する。 キーワード：「かかわり」「寄り添う」「協働の関係」「権威性」「自己覚知」「人と状況の全体性」	各キーワードの意味について、教科書の内容を吟味し理解を深める。演習スクーリング受講後は、グループワーク等の演習内容を振り返りながら、援助者としての自己の適性や精神保健福祉士の価値について理解を深化させる。

■レポート課題

1 単位め	※スクーリング事前レポート（所定の期日までに提出） 精神保健福祉士として、利用者とのコミュニケーションにおいて大切と考えられることをまとめてください。
2 単位め	※スクーリング事後レポート（スクーリング受講後の所定の期日までに提出） 精神障害の「障害」とは何かについて考察してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポート作成にあたっては、ご自身の経験だけでなく、教科書をよく読んだ上で取り組んでください。ただし、教科書や参考図書、Web サイトとの記事の複写は認められません。参考・引用した文献・資料等があれば必ず出典明示してください（出典の記載方法は『学習の手引き』を参照）。

1 単位め
アドバイス

教科書 [基礎編] の 2 章「Ⅰ 精神保健福祉士としての価値と倫理」の「1 自己決定の尊重」「2 権利擁護」、「Ⅲ 精神障害者の理解のあり方」、「Ⅳ 援助関係の形成」、3 章「Ⅰ 基本的なコミュニケーション」、4 章「Ⅱ レパトリーとしての基本的援助方法」の“パイスタックの 7 つの原則”、「Ⅲ ソーシャルワークの援助方法の共通基盤」の“人と状況（環境）の全体性”“自己決定の尊重”などの内容をよく理解した上で自身の考えを論じてください。

2 単位め
アドバイス

演習は、具体的なかわり技法や事例の検討を通し、人と人とのかわりを通して、自身を見つめる機会になります。多様な価値観に基づく意見に触れ、吸収してください。その上で課題について論じてください。

■ レポート評価の基準

レポートは感想文ではありません。自身の考えを述べるときには、必ずその根拠を示してください。

■ レポートの提出方法

- 1) 1 課題につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。
- 2) 1 単位のレポート文字数は、2,000 字程度ですが、最長 4,000 字程度まで記入していただいても結構です。パソコン印字の場合→左右 40 字 × 30 行 × 2 ~ 4 枚まで可。
- 3) 教員名の欄には記入しないでください。
- 4) 各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』または『With』参照）。

現代の精神保健の課題と支援I

科目コード

CQ3180



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	上埜 高志

科目の概要

■科目の内容

心身の健康の維持増進は社会全体で取り組むべき重要な課題となっており、社会からソーシャルワーカーに期待される役割や果たすべき責任はますます大きくなっています。

精神保健の概要、現代の精神保健分野の動向と基本的考え方、家族に関連する精神保健の課題と支援、精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ、精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ、諸外国の精神保健活動の現状および対策について理解することを目的とします。

■到達目標

- 1) 精神保健の概要について説明できる。
- 2) 現代の精神保健分野の動向と基本的考え方について説明できる。
- 3) 家族に関連する精神保健の課題と支援について説明できる。
- 4) 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチについて説明できる。
- 5) 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチについて説明できる。
- 6) 諸外国の精神保健活動の現状および対策について説明できる。

■教科書（「現代の精神保健の課題と支援II」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕2 現代の精神保健の課題と支援』中央法規出版、2021年
(スクーリング時の教科書) 上記教科書を使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価20%+スクーリング評価 or 科目修了試験80%

■参考図書

- 1) 日本公衆衛生協会『我が国の精神保健福祉 平成29年度版（精神保健福祉ハンドブック）』日本公衆衛生協会、2018年
- 2) 柏木昭、荒田寛、佐々木敏明編集『第4版 これからの精神保健福祉—精神保健福祉士ガイドブック』

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

精神保健の概要、動向を踏まえて、ライフサイクル、家族、学校、職場の精神保健およびそれらの課題と支援について理解することを目的とします。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	精神保健の概要	精神保健の概念、定義、歴史、精神保健の課題と支援
2	精神保健の動向	精神科医療の現状と課題、地域精神保健福祉活動の精神保健、それらの課題と支援
3	ライフサイクルと精神保健（1）	乳幼児期・学童期・思春期・青年期の精神保健、それらの課題と支援
4	ライフサイクルと精神保健（2）	成人期・老年期の精神保健、それらの課題と支援
5	家族の精神保健（1）	家族関係、暴力、出産・育児、ひきこもり、それらの課題と支援
6	家族の精神保健（2）	介護、グリーフケア、それらの課題と支援
7	学校の精神保健	不登校、いじめ、教員の精神保健、それらの課題と支援
8	職場の精神保健	労働環境、産業精神保健、それらの課題と支援
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書・配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%）で評価します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書を通読してください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	精神保健の概要（第1章第1節・第2章第2節）	精神保健の概要、精神保健活動の三つの対象について理解する。	健康の定義、精神保健の定義、普遍化・拡大化する現代の精神保健課題について考察する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	ライフサイクルと精神保健（第1章第2節）	ライフサイクルと精神保健について理解する。	ライフサイクルと発達課題、ライフサイクルの各段階における精神保健と課題について考察する。
3	生活習慣と精神の健康（第1章第3節・第2章第4節）	生活習慣と精神の健康、生活と嗜癖について理解する。	生活習慣と精神の健康、嗜癖の基本的な考え方、日常生活における身近な嗜癖について考察する。
4	精神保健の動向（第2章第1節）	現代の精神保健の動向について理解する。	精神科医療の現状と課題、地域精神保健福祉活動、精神疾患受療率と受療促進について考察する。
5	精神保健の基本的考え方（第2章第3節）	精神の健康に関する心的態度	正常心理における要求モデル、危機プロセスと喪失反応のモデル、障害の受容について考察する。
6	家族の精神保健（1）（第3章第1節・第5節）	家族関係における暴力と精神保健、家族関係の課題について理解する。	日本の家族の世帯構造、家族関係による課題、家族関係への影響要因、現在家族の課題、誰がどのようにして家族関係の課題にかかわるかについて考察する。
7	家族の精神保健（2）（第3章第2節・第3節）	出産・育児をめぐる精神保健、介護をめぐる精神保健について理解する。	出産に関する精神保健、育児に関する精神保健、介護のストレスにかかわる問題、高齢者虐待、介護と精神保健について考察する。
8	家族の精神保健（3）（第3章第4節・第6節）	社会的ひきこもりをめぐる精神保健、グリーフケアについて理解する。	ひきこもりケースの精神医学的診断、ひきこもりの現状、暴力を伴うケース、グリーフケアの定義と重要性、悲嘆のプロセスとその意味、悲嘆研究に対する関心の高まり、グリーフケアが必要とされるさまざまな分野について考察する。
9	学校の精神保健（1）（第4章第1節・第2節）	学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健について理解する。	不登校、いじめ、子どもの自殺、校内暴力や非行、教職員の精神疾患による休職の状況、教員の勤務状況とストレス、教員のバーンアウトに関連する諸要因、教員のサポートを主眼とした学校支援システムについて考察する。
10	学校の精神保健（2）（第4章第3節・第4節）	学校の精神保健に関与する専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカーの役割について理解する。	学校という場の特徴、学校における専門職種、学校と協働する関係機関、関係法規、学校現場のスクールソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカーの課題とこれからについて考察する。
11	精神保健にかかわる社会資源（第3章第7節、第4章第5節）	家族の精神保健支援を担う機関、学校精神保健にかかわる社会資源について理解する。	家族に関連する多様な支援機関、家族会・当事者団体などのセルフヘルプグループ、学校に在籍する子どもにとっての社会資源、学びの環境を整える社会資源について考察する。
12	職場の精神保健（1）（第5章第1節・第2節）	現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策について理解する。	「労働安全衛生調査（実態調査）」からみた労働環境、「過労死等防止対策白書」からみた労働環境、過労自殺、労働者のメンタルヘルスに関する我が国の動向と対策、「4つのケア」に基づくメンタルヘルス対策、「職場復帰支援の手引き」による支援の実際、ストレスチェックと職場環境改善について考察する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	職場の精神保健（2） （第5章第3節・第4節）	職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規について理解する。	職場のメンタルヘルス課題の捉え方、職場におけるメンタルヘルス相談の概要、企業内保健相談活動、メンタルヘルスに関係する職場内の問題解決のための機関、労働者のメンタルヘルスの問題を解決するための関係法規について考察する。
14	国際機関の精神保健活動（第10章第1節・第2節）	世界の精神保健の実情、WHOなどの国際機関の活動について理解する。	WHOの精神保健アトラス、DALY・QALY・健康寿命と「メンタルヘルスなしに健康なし」、SDGsとその意味、WHOの精神保健の定義と主な報告・決議、世界精神保健連盟と世界精神保健デー、OECDについて考察する。
15	諸外国の精神保健（第10章第3節）	諸外国の精神保健医療の実情について理解する。	欧米における精神保健医療体制の特徴、諸外国における精神保健医療サービスについて考察する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	現代日本における精神保健の動向と基本的考え方を踏まえ、家族に関する精神保健の課題と支援について論述しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

未入稿

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め
アドバイス

2 単位め
アドバイス

教科書（とくに第3章）・参考書等をよく読み、家族に関する精神保健の課題と支援について考察してください。家族関係、暴力、虐待、出産・育児、ひきこもり、介護、グリーフケアなど、さまざまなテーマがありますので、ひとつあるいはいくつか絞って論述してください。

科目修了試験

■評価基準

出題されたテーマについて、的確に理解しているか。

現代の精神保健の課題と支援Ⅱ

科目コード

CQ3181



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R	2年以上	上埜 高志

科目の概要

■科目の内容

心身の健康の維持増進は社会全体で取り組むべき重要な課題となっており、社会からソーシャルワーカーに期待される役割や果たすべき責任はますます大きくなっています。

精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する発生予防と対策、地域精神保健に関する偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携を学びます。その学びを通じて、現代日本における精神保健の課題と支援について理解することを目的とします。

■到達目標

- 1) 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチについて説明できる。
- 2) 精神保健に関する発生予防と対策について説明できる。
- 3) 地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について説明できる。
- 4) 精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携について説明できる。

■教科書（「現代の精神保健の課題と支援Ⅰ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕2 現代の精神保健の課題と支援』中央法規出版、2021年

※「現代の精神保健の課題と支援Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価20% + 科目修了試験80%

■参考図書

- 1) 日本公衆衛生協会『我が国の精神保健福祉 平成29年度版（精神保健福祉ハンドブック）』日本公衆衛生協会、2018年
- 2) 柏木昭、荒田寛、佐々木敏明 編集『第4版 これからの精神保健福祉－精神保健福祉士ガイド

■履修登録条件

この科目は、「現代の精神保健の課題と支援Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方が履修登録できます。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	災害時の精神保健 (第6章第1節・第7章第10節)	災害被災者の精神保健、災害時の精神保健に対する対策を理解する。	大規模災害時におけるメンタルヘルスの課題、災害支援の実践活動、我が国の現状、被災後に起きるストレス障害とその対策、災害被災者に対する支援と具体的な対策について考察する。
2	犯罪・違法行為と精神保健 (第6章第2節・第9節)	犯罪被害者等の支援、反復違法行為と精神保健を理解する。	犯罪被害の現状、犯罪被害とPTSD、犯罪被害者支援の現状と課題、違法行為と精神障害、違法行為の実際、医療と司法との連携、違法行為を繰り返す人への支援について考察する。
3	自殺対策 (第6章第3節・第7章第5節)	自殺予防、うつ病と自殺防止対策を理解する。	自殺の現状と課題、日本における自殺対策の経緯、自殺対策のこれから、自殺とうつ病、自殺のリスクを抱えた人への介入、個別支援とケースマネジメントについて考察する。
4	身体疾患の精神保健 (第6章第4節)	身体疾患に伴う精神保健を理解する。	身体疾患に伴う精神症状、身体疾患に伴う精神症状の実際、身体疾患に伴う精神保健の課題について考察する。
5	貧困問題と精神保健 (第6章第5節)	貧困問題と精神保健を理解する。	我が国の貧困問題の現状、貧困の基本問題、貧困問題と精神障害者、貧困問題とかかわる精神保健福祉士が問われる課題について考察する。
6	孤立・ひきこもりと精神保健 (第6章第6節・第7章第9節)	社会的孤立、社会的ひきこもりに対する対策を理解する。	社会的孤立の多様な実態、地域に潜在化する社会的孤立、その人の文脈を大切にすること、ひきこもりに関する諸施策、これまでの課題とこれからの支援について考察する。
7	マイノリティと精神保健 (第6章第7節・第8節)	性的マイノリティと精神保健、多文化に接すること生じる精神保健上の問題を理解する。	セクシュアリティの構成要素、LGBTと性別違和、精神保健上の基本的心得、多様なセクシュアリティへの支援、日本に暮らす外国人の増加、異文化ストレス、多文化社会における精神保健上の課題について考察する。
8	高齢者の精神保健 (第6章第10節・第7章第7節)	高齢者と精神保健、認知高齢者に対する対策を理解する。	日本における高齢者の状況、高齢者にかかわる諸問題、認知症の疫学と予防、認知症の支援について考察する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
9	精神保健と予防（第7章第1節・第4節）	精神保健における予防の考え方、ギャンブル等依存対策を理解する。	精神保健と予防、メンタルヘルスリテラシー、「ギャンブル依存症」と「ギャンブル等依存症」、相談・治療・回復支援の各機関と望ましい対応、ギャンブル等依存症にかかわる施策と対策の推進体制について考察する。
10	依存症と精神保健（第7章第2節・第3節）	アルコール関連問題に対する対策、薬物依存対策を理解する。	アルコール関連問題、アルコール依存症、アルコール関連問題の対策と現状、期待される精神保健福祉士の役割、薬物依存の実態、薬物依存症の治療と対策について考察する。
11	子育て・発達障害と精神保健（第7章第6節・第8節）	子育て支援と暴力、虐待予防、発達障害者に対する対策を理解する。	我が国の母子保健施策、子育て世代包括支援センター、子育てに関する組織活動、児童虐待の予防・対策、発達障害の概要、ライフステージと生活場面における発達障害の特徴と支援、発達障害児者支援と精神保健福祉士について考察する。
12	地域精神保健（第8章第1節・第2節）	関連法規、精神保健にかかわる人材育成を理解する。	地域精神保健の関連法規、精神保健にかかわる人材育成について考察する。
13	スティグマと精神保健（第8章第3節・第9章第6節）	精神保健における偏見・差別、セルフヘルプグループと地域精神保健を課題とした市民団体を理解する。	精神保健の用語、精神障害者に対する偏見形成、偏見や差別を乗り越える、セルフヘルプグループとピアサポートグループ、フォーマルな社会資源とインフォーマルな社会資源について考察する。
14	精神保健と国・法規（第9章第1節・第2節）	国の機関とその役割、精神保健に関係する法規を理解する。	法制度の変遷と役割、各機関の役割、精神衛生と地域精神保健、地域精神保健から障害者福祉へ、これからの精神保健活動に向けて、関係法規について考察する。
15	精神保健と連携（第9章第3節・第4節・第5節）	多職種の役割と連携、地域精神保健にかかわる行政機関の役割および連携、学会や啓発団体を理解する。	精神保健福祉活動にかかわる専門職種、多職種の連携、今後の行政機関（国・都道府県・指定都市・市町村）の連携の必要性、学会や啓発団体（当事者会・職能団体・関係団体・その他の団体）について考察する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	現代日本における地域精神保健の動向と基本的考え方を踏まえ、地域精神保健における多職種連携について論述しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

教科書（とくに第8章・第9章）・参考書等をよく読み、精神保健福祉士等の精神保健に関わる専門職による多職種の連携・協働について論述してください。

科目修了試験

■評価基準

出題されたテーマについて、的確に理解しているか。

精神保健福祉の原理Ⅰ

科目コード

CR3182



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	三城 大介

科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉の原理Ⅰでは、「障害」や「障害のある人」についての捉え方について言及したうえで、そこから、心の病がある人の疾患や障害、生活のしづらさについての学びを深めていきます。

我が国における障害者福祉の歴史の変遷を、精神障害者のそれを意識しながら学び、精神疾患がある人や精神障害がある人がどのような社会的立場に置かれてきたのかを知ることにより、精神疾患や精神障害についての学びを深めていきます。

また、イタリアやアメリカを中心に精神保健福祉先進国と呼ばれる諸外国との比較検討を行うことで、より精神疾患や精神障害についての知見を深めることを狙いに講義を進めます。

■到達目標

- 1) 障害の捉え方について自らの言葉で述べることができる。
- 2) 障害の捉え方について説明できる。
- 3) 我が国の精神障害を中心とした障害の制度やそれに対する意識の変遷を説明できる。
- 4) 精神保健福祉先進国と我が国の精神保健福祉についての取り組みの違いを自身の言葉で解説できる。

■教科書（「精神保健福祉の原理Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座 [専門科目] 5 精神保健福祉の原理』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書） 上記教科書を参考程度に使用し、適宜配付する資料と板書を中心にして講義を行います。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

W・ウォルフエンズバーガー著 富安芳和訳『ソーシャルロールパロリゼーション入門—ノーマリゼーションの心髄』学苑社、1995年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

このスクーリングでは、先ず障害や障害者の捉え方についての視点を持ったうえで、精神障害や精神障害のある人についての考察を深めてください。

次に、先進国と比較して我が国の精神保健福祉施策や制度、意識の課題としての遅れを知って欲しいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	障害と障害のある人の捉え方	障害者福祉の史的展開と障害についての思想
2	精神疾患と精神障害	精神疾患と精神障害、生活のしづらさの理解
3	精神障害と精神障害者の概念	我が国の制度変遷からみる精神障害者観
4	精神障害の障害特性	ICF と精神障害の構造的理解
5	精神障害の理解と支援	アプローチの方法と自助グループ
6	諸外国における精神保健福祉の展開	イタリアとアメリカを中心に諸外国の状況を知る
7	我が国における社会的排除	治安モデル、医療モデル、福祉モデル
8	精神保健福祉先進国との比較	イタリアやアメリカと我が国の精神保健福祉の比較考察 質疑応答
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

適宜資料を配付し、板書を中心に講義を進めます。

補助的にテキストも使用します。

■スクーリング 評価基準

精神保健福祉先進国との施策や制度の遅れ、精神障害についての意識の違いの理解を求めます（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

- 1) 教科書の序章を読み、自身が障害者をどう捉えてきたのか振り返ってください。
- 2) 「障害者」の語源について調べてください。
- 3) イタリアの精神保健福祉の場でよく使われる「白衣を脱いで街に出よう」という言葉について、インターネット等で調べてください。

- 4) アメリカのボクシングヘビー級のチャンピオンだったモハメド・アリと徴兵制度の関係を調べておいてください。
- 5) 社会防衛規制と国親思想について調べておいてください。
- 6) アメリカ、UCLA のパークレー校でエド・ロバーツが始めた IL 運動について調べておいてください。
- 7) フランスの精神病床減少施策であるセクトリゼーションについて調べておいてください。
- 8) テキスト第1章にある相馬事件・ライシャワー事件・宇都宮病院事件・池田小事件について調べておいてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

- 1) 障害と障害者観について、自身の言葉で整理してください。
- 2) 我が国の精神保健及び精神保健福祉の制度の変遷について、治安モデル（社会防衛規制）・医療モデル・福祉モデル（国親思想）に整理分類したうえで、それぞれの特徴を比較してまとめてください。
- 3) 欧米の精神保健福祉先進諸国の制度や取り組みの特徴をまとめてください。
- 4) 我が国の精神保健福祉についての史的展開と欧米のそれを比較してまとめてください。
- 5) 若国の精神保健福祉制度の課題について自身の言葉で説明できるようにまとめてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	障害の捉え方 (序・1章)	障害の捉え方とその概念について。	障害や障害者の捉え方について考えてみましょう。 また、精神障害がある方の生活のしづらさについてその構造を明らかにしてみましょう。
2	精神障害者福祉の理念と史的展開 (1章)	精神障害や精神障害者に対する社会の対応を確認する。	精神疾患への薬物治療が始まったのは、1960年代のクロルプロマジンの発見以降です。 薬物治療開始以前の処遇とそれ以降の処遇、そして近年の状況についてテキストを参考に学んでみましょう。
3	精神障害者の定義とICF (2章)	ICFによる障害や疾病の分類を理解したうえで、精神障害を定義する。	ICIDHとICFの分類方法の違いを理解する。 その上で、精神障害をICFにあてはめ、精神障害の定義を理解しましょう。
4	精神障害者の障害特性と生活のしづらさ (2章)	精神障害者の障害特性を理解し、精神保健福祉士に必要な視点を理解する。	精神疾患と精神障害、そして症状の固着や副薬の副作用などによる生活のしづらさを理解し、その障害特性の構造を理解したうえで精神保健福祉士に求められる視点について考察を深めてください。
5	精神障害の理解と支援1 (2章)	代表的なアプローチ方法とその構造を知る。	自助グループについても理解する。 精神障害がある人へのアプローチの展開過程やその具体的方法について学んでください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
6	精神障害の理解と支援 2 (2章)	認知症疾患がある方のサポートと精神保健福祉士の視点	認知症は ICD-10 で器質性精神疾患に分類され、各都道府県の精神科医療圏域ごとに認知症疾患センターが精神科医用機関に設置されています。認知症疾患に対する精神保健福祉士としての視点を考察しましょう。
7	当事者運動と自助グループ (2章)	アメリカにおける精神障害者の当事者運動や、我が国の当事者運動を知る。	様々な自助グループとその意義についても理解を深めましょう。また、精神障害以外の当事者運動の理解も深めましょう。
8	精神障害者に対する諸外国の取り組み 1 (3章)	アメリカにおける精神保健福祉の取り組みについて理解する。	ケネディー教書での施設解体から1980年の州立精神科病院解體法、1990年の ADA 法に至るまでの制度的な流れを理解する。
9	精神障害者に対する諸外国の取り組み 2 (3章)	イタリアの180号法（バザーリア法）までの地域移行の展開や、フランス、イギリスなどの取り組みを構造的に理解する。	テキストを基にイタリア、イギリス、フランス、ニュージーランドなど、精神保健福祉先進国の制度的取り組みの構造と内容を理解する。
10	我が国の精神保健福祉の制度的変遷 (3章)	我が国の精神保健福祉の制度的変遷から見る精神障害観の変遷	相馬事件や呉秀三の私宅監置の実態報告を契機とした精神病患者監護法から精神保健福祉法に至るまでの制度変化を学ぶ。
11	諸外国の取り組みとの比較 (3章)	これまでの考察を基に、我が国の精神保健福祉制度的変遷と諸外国のそれを比較分析する。	諸外国の治安モデルから福祉モデルへの移行がどの時期にどういった方法で行われたのか、それを我が国の状況と比較考察することで、精神障害者福祉の課題について考察する。
12	当事者の権利と社会的バリアー (3章)	我が国における精神障害者の排除の歴史について	治安モデル下での相馬事件や医療モデル下での宇都宮病院事件、福祉モデル下での池田小事件や相模原障害者殺傷事件から、当事者の権利と社会的障壁について考察を深める。
13	当事者支援と家族支援 (3章)	精神障害者支援の対象者を明確にし、その上で、当事者とその家族の支援について理解する。	精神障害の対象範囲を明確にした上で、アルコールや薬物の依存症者やその家族など、疾患による支援の状況を理解する。
14	シームレスケアの為の方策 (3章)	シームレスケアの重要性と、具体的な課題について整理し、理解する。	我が国の国策の不備も含め、医療・教育・福祉の連携の課題を明らかにし、シームレスな地域移行や地域定着の重要性と具体的な課題を理解する。
15	全体の振り返り	序章から3章までの内容を振り返り、理解を深める。	これまで学んだ、精神障害についての概念や史的制度展開、諸外国との比較、当事者の捉え方やアプローチの方法などについて、連関された知識として整理する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	精神保健福祉先進国に比べ我が国の精神保健福祉が遅れていることを意識したうえで、精神障害や精神障害のある人の捉え方について、独自の視点で考察してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

簡潔にまとめてください。我が国の精神保健福祉の状況やこれまでの経緯、そしてこれからの課題を先進諸外国のそれと比較検討しながら分析したうえで、あなたの思う精神障害者像や精神障害についての捉え方を述べてください。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

我が国の治安モデルから医療モデル、福祉モデルへの変遷と先進諸外国のそれを比較することで、精神保健福祉の遅れを知るとともに、わが国で精神障害や精神障害がある人がどういった課題を抱えてきたのかを整理検討し、そのことについて独自の視点で考察を深めてください。

科目修了試験

■評価基準

基本的にはルーブリック評価に示されているレポート評価の基準に準じます。

それと同じ割合で、どの程度独自の視点で考察を進め論述したのかという基準も加え全体で評価します。

精神保健福祉の原理Ⅱ

科目コード

CR3183



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	三城 大介

科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉の原理Ⅱでは、精神障害者の疾患や障害を起因とする生活のしづらさや生活特性を理解したうえで、精神保健福祉士が支援する上での責務や倫理、支援のターゲットについて吟味を深めます。

また、精神科医療における他職種連携や地域連携にも触れ、精神保健福祉士の職責や具体的なアプローチの方法について考察を深めていきます。

■到達目標

- 1) 精神障害者の生活のしづらさを理解し説明できる。
- 2) 精神障害者の生活特性の状況や生活課題を理解し説明できる。
- 3) 精神保健福祉士の職責や倫理観について解説できる。
- 4) 精神保健福祉士が提供する支援について説明できる。
- 5) 精神保健福祉領域における医療連携や地域連携について理解し説明できる。
- 6) 精神保健福祉士のターゲットへ提供するアプローチについて自身の言葉で説明できる。

■教科書（「精神保健福祉の原理Ⅰ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座 [専門科目] 5 精神保健福祉の原理』中央法規出版、2021年

※「精神保健福祉の原理Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用し、適宜配付する資料と板書を中心にして講義を行います。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「アセスメント力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

R. P. リバーマン著 西園昌久 池淵恵美監訳・翻訳『精神障害と回復：リバーマンのリハビリテーション・マニュアル』星和書店、2011年

■履修登録条件

この科目は、「精神保健福祉の原理Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録できます。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

このスクーリングでは、精神障害者の生活のしづらさや生活特性を自身で容易にイメージできるよう理解し、その上で、精神保健福祉士としてのターゲットの理解やアプローチ方法の詳細、精神保健福祉領域における医療と地域の連携について学びを深めて欲しいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	精神科医療と精神障害者の生活特性	生活のしづらさと生活特性の吟味
2	精神障害者のメンタルヘルスとその課題	当事者のメンタルヘルスとその環境が抱える課題
3	精神障害者の環境調整とその課題	学校や職場など生活のステージごとにみた課題について
4	精神保健福祉士の理念と価値	精神保健福祉士に必要な理念やその価値について熟考します。
5	精神保健福祉士の実践における視点	エンパワメントの視点とリカバリーの視点
6	精神保健福祉領域における援助の関係性	援助関係に上下や強弱のパワーバランスは存在しません。そのことを中心に間主観性に言及します。
7	精神所見福祉士の業務特性	精神保健福祉領域における精神保健福祉士の業務特性を、そのターゲットとする環境との関係から考察します。
8	精神保健福祉士のフィールド	精神保健福祉士のフィールドは多岐に及んでいます。それぞれのフィールドでの特性について考察を深めます。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

適宜資料を配付し、板書を中心に講義を進めます。

補助的にテキストも使用します。

■スクーリング 評価基準

精神保健福祉士の援助の視点についての理解を求めます（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

- 1) 精神障害者の症状の固着や陰性・陽性症状について調べる。
- 2) 向精神薬の副作用についてまとめる。
- 3) 精神障害者の生活のしづらさについて自分なりに考察を深めてみる。
- 4) テキスト第4章第2節を読み、保護者制度の歴史について理解する。
- 5) テキストやインターネットの情報を手掛かりに、精神保健福祉士のフィールドについて調べる。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

- 1) 精神障害者の生活特性の理解を確認する。
- 2) 精神障害者の生活ステージごとの課題について確認する。
- 3) 精神保健福祉士のフィールドとそこで求められるスキルや倫理観について確認する。
- 4) スクーリング全体の振り返りを行い、自身の知識を確認する。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	精神科医療による生活の影響（4章）	精神保健福祉先進諸国と比較しながら、平均在院日数が格段に長い我が国の精神科医療が当事者の生活へどういった影響を及ぼしてきたか考察する。	平均在院日数の違いが地域移行にどういった影響を与えるのか考察するとともに、地域移行、地域定着に必要な因子を分析する。
2	精神障害者とその家族の状況（4章）	精神保健福祉施策が他の障害者施策に送れていることが、当事者とその家族の生活に影響を及ぼしてきたか理解する。	社会的障壁の状況や就学・就職、制度利用等の観点から、当事者とその家族の関係性や社会的孤立の状況を探る。
3	精神障害者の生活の実際（4章）	医療・教育・就労等を踏まえた精神障害者の生活実態を理解する。	それぞれの因子ごとに整理して把握する。
4	学校や職場でのメンタルヘルスの課題（4章）	現代社会におけるメンタルヘルスの課題、特に学校や職場でのメンタルヘルスの課題について考察を深める。	いじめや不登校、校内暴力、引きこもりといった教育現場でのメンタルヘルスの課題や、過重労働による過労死や職場内でのメンタルヘルスの課題、それに対応するための制度について学びを深める。
5	アディクションとメンタルヘルス（4章）	アルコールや薬物、ギャンブルなどのアディクションとメンタルヘルスの関連性を学ぶ。	アルコールや薬物などの嗜癖構造を学び、依存症当事者のメンタルヘルスの連関、家族や社会への影響について知る。
6	精神保健福祉に関する原理（5章）	精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの史的展開から、精神保健の原理が培われた足跡・過程を知る。	精神医学ソーシャルワーカーについて、Y問題などの出来事や、精神保健福祉領域の制度的変遷から学ぶ。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
7	精神保健福祉士による実践の原理や価値1(5章)	当事者の社会的復権と権利擁護、自己決定に関する支援について。	精神障害者への社会的評価と復権、権利擁護、そして自己決定を促すための支援について、精神保健福祉士に必要な視点について考察する。
8	精神保健福祉士による実践の原理や価値2(5章)	当事者主体のための実践方法や、当事者がごく当たり前の生活を送るために必要な実践方法の考察。	精神保健福祉領域における当事者主体の支援を精神保健福祉士の視点から考察する。加えて、当たり前の生活を送るための支援について考察する。
9	精神保健福祉士による実践の視点(5章)	人と環境の相互作用としてのエンパワメントやリカバリーの視点やスティグマの軽減について考える。	人と環境の相互作用の中で当事者が生きづらさを蓄積しないよう、精神保健福祉士の実践の視点として、エンパワメントを高める支援やリカバリーのための視点、スティグマの軽減の方法について考察を深める。
10	援助における関係性(5章)	援助における関係性の整理。援助者と被援助者、援助者間や当事者間の関係性、加害者と被害者の関係性の整理。	当事者や援助者の関係性は、その対象との組み合わせによって大きく異なる。例えばDVの加害者は被害者なのか？そういった関係性の考察を深める。
11	精神保健福祉士法の理解(6章)	精神保健福祉士法の成立とその目的、社会福祉士介護福祉士法との連関性について考える。	社会福祉士介護福祉士法成立後10年で精神保健福祉士法が成立した。その成立の意義や背景について学び、考察を深める。
12	精神保健福祉士の職業倫理(6章)	精神保健福祉士にとっての倫理綱領と倫理的ジレンマ、専門職団体の意義について考える。	精神保健福祉士にとっての倫理綱領により、精神保健福祉士自身が倫理的ジレンマを抱えることがある。その事を中心に考察する。
13	精神保健福祉士の業務特性とフィールド(6章)	精神保健福祉士のフィールドと業務特性について考察する。	精神保健福祉士のフィールドは精神科医療機関や福祉サービス事業所にとどまらず、多岐に及んでいる。それぞれのフィールドでの臨床実践の意義や課題について考察する。
14	精神保健福祉士の業務内容と特性(6章)	精神保健福祉士の業務特性や内容。	多岐に及び精神保健福祉士のフィールドにおける精神保健福祉士の業務特性や業務内容について理解する。
15	これまでのまとめと振り返り	4章から6章までの内容を振り返り、理解を深める。	精神保健福祉の原理Ⅰ及びⅡを俯瞰的にとらえ、整理する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	精神障害者やその家族のおかれている状況を理解したうえで、精神保健福祉士が提供する援助の実践方法に必要な視点について述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

精神障害がある方やその家族の方の生活実態の状況を理解することが大切です。

その上で、精神保健福祉士が実践する支援における様々な援助の視点を整理し、考察を深めてくだ

さい。

また、考察する際には、精神保健福祉士法の解釈もその根底においてください。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

先ず、精神障害者の生活の実態に影響を及ぼすと予測される因子としての、精神科医療や家族の存在、生活の原資を得るための職業等について考察を深めてください。

その上で、精神保健福祉士が実践するアプローチの詳細をそこに当てはめて考察してください。

科目修了試験

■評価基準

基本的にはルーブリック評価に示されているレポート評価の基準に準じます。

それと同じ割合で、どの程度独自の視点で考察を進め論述したのかという基準も加え全体で評価します。

精神障害リハビリテーション論

科目コード

CT3186



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	石黒 亨

科目の概要

■科目の内容

精神障害リハビリテーションの概念と構成およびそのプロセスについて学ぶことで、精神障害者の地域移行・地域定着支援、すなわち精神障害のある人々がふつうの市民として、地域社会の中であたりまえに暮らしていくことができるようになるために必要な活動としての精神障害リハビリテーションの実際、ならびに精神障害リハビリテーションチームの一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。

■到達目標

- 1) リハビリテーション概念を理解し、精神障害リハビリテーションについて述べることができる。
- 2) 脱施設化をキーワードに精神障害リハビリテーションの歴史について、諸外国とわが国の差異性を説明できる。
- 3) ICF（国際生活機能分類）に基づく障害概念を説明できる。
- 4) チームアプローチの必要性・方法について理解し、そのなかでの精神保健福祉士の役割を説明できる。

■教科書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座 [専門科目] 3 精神障害リハビリテーション論』中央法規出版、2021年

(スクーリング時の教科書) 教科書を参考程度に使用します。パワーポイント資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%+スクーリング評価 or 科目修了試験70%

■参考図書

- 1) W. アンソニーほか 野中猛・大橋秀行 監訳『精神科リハビリテーション【第2版】』三輪書店、2012年
- 2) 佐藤久夫著『障害構造論入門』青木書店、1992年

3) 上田敏著『ICF（国際生活機能分類）の理解と活用』きょうされん、2005年

4) 古屋龍太著『精神障害者脱施設化論—長期在院患者の歴史と現況、地域移行支援の理念と課題』批評社、2015年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

精神障害リハビリテーションは、精神障害をあわせもつ「人」が主たる対象となります。精神障害を持つ人たちが、社会の一員としてより充実した生活を送れるように支援を展開するために、「生活のしづらさ（disability）」を理解し、精神科医療・保健・福祉に関する知識や支援の理念および技術を学ぶことが必要となります。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	リハビリテーションの理念と意義	リハビリテーションの歴史の変遷 定義
2	精神科リハビリテーションの歴史	諸外国における脱施設化 わが国における歴史
3	精神科リハビリテーションの定義	定義 基本原則
4	精神科リハビリテーションの対象	障害概念 ICIDH・ICF
5	精神科リハビリテーションのプロセス	アセスメント・計画・実施・評価
6	精神科リハビリテーションの技法	精神科デイケア・心理教育
7	精神障害者の就労支援	障害者雇用促進法 就労支援に関する機関・制度
8	チームアプローチ	チームアプローチの類型・有用性
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（テキスト、自筆ノート持込可）。到達目標についての理解度を評価します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	リハビリテーション概念 (第1章) (第2章)	リハビリテーションの本来の意味およびリハビリテーションの構成を理解する。 キーワード：全人間的復権、リハビリテーション領域（医学的・社会的・教育的・職業的）、トータルリハビリテーション	リハビリテーションとは、一般的には医学 領域の治療や訓練を想起しがちだが、その内容を理解することは、生活上の課題を支援対象とするソーシャルワークにとっては重要となる。
2	精神障害リハビリテーションの歴史 (第2章)	精神障害リハビリテーションの歴史とは「脱施設化」の歴史とって過言ではない。諸外国がすでに地域リハビリテーションを中心に展開されているのに対してわが国においてはその方向性はうちだしているものの、実態が伴わないという状況にある。 キーワード：脱施設化、施設症、汎化	歴史を振り返るためのキーワード「脱施設化」とは何か？なぜ脱施設化する必要があったのか？について考え、そのうえで諸外国の動向そしてわが国の歴史をひもとく。
3	精神障害リハビリテーションの基本原則 (第2章)	精神障害リハビリテーションの基本的視点を理解する。 キーワード：脱施設化、施設症、エンパワメント、健全な依存	精神障害リハビリテーションのその理念や目的にかなうものとするためには、共通の指針が必要になる。それが精神障害リハビリテーションの基本原則である。
4	障害概念（上田敏） (第3章)	上田敏は、国際障害分類の検討に多くの提言を行ったが、その内容を理解する。 キーワード：相互依存性、相対的独立性、体験としての障害、第三者の障害	国際障害分類（ICIDH）や国際生活機能分類（ICF）の公表後も、上田敏は補完的な提言や 課題を示している。
5	精神障害の特性 (第3章)	精神障害はひとが生活するうえで様々な問題を生じさせる。これまで、精神科医・精神保健福祉士などがそれぞれの立場から障害特性をまとめているが、その内容を理解する。 キーワード：生活障害（生活のしづら さ）、台弘、谷中輝雄	障害特性を理解する際は、その個別性・多様性も意識することが肝要となる。 また、「生活のしづらさ」は精神障害者にだけ見られるものではなく、誰しもが抱えているものと言える。このような視点に立つことが、パートナーシップの形成につながると思われる。
6	国際生活機能分類（ICF） (第3章)	国際障害分類（ICIDH）を補完する目的で作成された国際生活機能分類（ICF）は、わが国の高齢者や障害者及び教育の分野でも活用されている。改訂された背景や内容などを理解する。 キーワード：医学モデル、社会モデル、統合モデル	国際生活機能分類（ICF）は、障害を人が「生きる」こと全体の中に位置づけ「生きることの困難」として理解するものである。ひとは生きているからこそ生き活きとできるが、一方で生き活きとできることがあるからこそ、生きていけるということを再確認する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
7	精神障害リハビリテーション過程 (第3章)	精神障害リハビリテーションは、本人自身がそれぞれの環境で満足できる生活を送るために、専門家の最小限の介入で技能や社会資源を活用できる助けを提供することである。そのための支援過程を理解する キーワード：アセスメント・計画・実施・評価、リカバリー、ストレングスモデル	精神障害リハビリテーションのプロセスは基本的には階層構造となっている。はじめにアセスメントがありそれに基づき計画をたて、計画に基づき実施し、その結果を評価することになる。各段階を具体的にどのように進めるのか、その際の留意点について学ぶ。
8	回復過程とライフサイクル (第3章)	精神障害リハビリテーションを展開するうえで本人が精神疾患治療のどの段階にいるのかということ、その人がどのようなライフステージにたっているのかということ、この2つについても理解しておくことが必要となる。 キーワード：統合失調症の回復過程、ライフスタイル、治ることの意味	統合失調症の回復過程では、とりわけ陽性症状が治まった後の寛解前期（消耗期）についての理解することが肝要となる。ここで休息することが回復につながり、逆に無理をさせると再発のリスクを高めることになる。
9	チームアプローチ (第3章)	今日、精神障害リハビリテーションを展開していくためにはチームアプローチは欠かせない。したがって、チームの質が活動の成果に大きく関わることになる キーワード：チームのモデル、役割解放、利用者理解の立体化	チームアプローチの必要性和有用性について理解する。また、その阻害要因についても検討し、効果的なチームアプローチを具現化する工夫も考える。
10	医学的リハビリテーションプログラム 精神科作業療法 (第4章)	精神障害者の「生きるための主体的な活動の獲得」(日本作業療法協会による作業療法とは)は精神科リハビリテーションの使命であるともいえるが、そのための具体的な種目や技法について理解する。 キーワード：作業療法、生きるための主体性、創造性	私たちの生活は、「私がこの生活をしている」という認識の下で保たれているといえる。そのためには、どのような生活をしたのか(創造性)そして、いかに対処するのか(実行力)への働きかけが重要であり、精神保健福祉士は対象者の主体性の尊重・自己実現を業務の行動倫理として掲げている。
11	医学的リハビリテーションプログラム 精神科デイケア (第4章)	デイケアの開発された背景、デイケアの持つ機能、実際の運営とプログラム、そして地域社会の生活者であるデイケア通所者について、生活支援の視点からもデイケア機能の課題を学ぶ。 キーワード：入院防止機能、退院促進機能、集団力動	デイケアは1940年代後半に入院防止・退院促進を目的として北米で開発され、わが国では1974年に診療報酬点数化以降、医療機関に普及した。 精神科デイケアはわが国の精神科リハビリテーションを進める大きな原動力になってきたが、その独自性や新たな医療ニーズへの対応が課題ともなっている。
12	職業的リハビリテーションプログラム (第4章)	障害者雇用施策の経緯と精神障害者の雇用支援の実際及び支援する際の留意点等を職業リハビリテーションの視点から学ぶ。 キーワード：障害者雇施策、IPS	精神障害のある人の職業リハビリテーションは、忘れられた過去の誇りを呼び起こし、可能な未達成の希望を呼び起こすために展開されることを確認する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	社会的リハビリテーションプログラム 社会生活スキルトレーニング (SST) (第4章)	SSTは1994年の診療報酬に点数化後、全国の精神科医療機関や、障害者支援施設に普及している。SSTの理論的背景や基本訓練モデル及び特定の技能獲得のために段階的な教材としてまとめられたモジュールについて学ぶ。 キーワード：日常生活技能、社会生活スキル、基本訓練モデル、モジュール	アメリカにおいて統合失調症のリハビリテーションとして開発されたSSTは、知的障害や発達障害の分野でも活用されるようになった。しかし、文化やコミュニケーションが異なるわが国の風土に合うようなプログラムの開発が今後の課題となる。
14	家族支援プログラム (第4章)	心理教育とは受容しにくい問題をもつ人々に対し、個別の療養生活に必要な知識や情報を心理面への十分な配慮をしながら伝え、病気や障害の結果もたらされる諸問題・諸困難に対する対処や工夫をともに考えることによって、主体的な生活を営めるように援助する技法である。 キーワード：情報提供、EE（家族の感情表出）、エンパワメント、自己肯定感、相互交流・相互支援	ここではFPE（家族心理教育）を中心に学ぶ。FPEはそのエビデンスが明確であることから、科学的根拠に基づくプログラム（Evidence – Based Practice：EBP）のひとつとして位置付けられている。その理論的基盤と実際のプログラム展開について学ぶ。保護者制度により、精神障害者の家族に大きな負担を強いてきたわが国において、家族支援の必要性を学ぶ意義は少なくない。
15	依存症のリハビリテーション (第5章)	我が国における依存症に対する差別や偏見は、精神障害のなかでもとりわけ根深いものがあり、障害の原因がすべて「意思が弱い」などの人の性格や責任に帰される傾向にあり、医学的な理解が十分とは言い難い現状にある。 キーワード：自己治療仮説、SMARPP、AA、ダルク、CRAFT、ゲーム障害	アルコール・薬物・ギャンブル等、特定の物質や行為・過程に対して、やめたくても、やめられない、ほどほどにできない状態を依存症という。依存症からの回復には、正直に自分の気持ちを言える場所があることが大切でありアクション（依存）の反対はコネクション（つながり）なのである。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	アンソニー(Anthony, W) が提唱する精神科リハビリテーションの9大原則を列挙し、うち2つの原則についてその意義について述べよ。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

テキスト転載や他文献の丸写しによるレポート作成は避けるようにしてください。自分で考えた文章と引用した文章を意識して区別するために引用・参考文献を表記し、課題の説明だけでなく自身の考察も加えるようにしてください。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

精神科リハビリテーションの実践は多様である。しかし、実践が多様であるからと言って、思いつくままの実践を無原則に行えば、リハビリテーションの効果が上がらないばかりか、当事者に不利益が生じかねない。

すべての実践をリハビリテーションの目的にかなうものとするためには、何らかの共通した指針が必要になる。

この指針が精神科リハビリテーションの基本原則と呼ばれるものである。可能であれば参考図書『精神科リハビリテーション【第2版】』を自分なりに咀嚼し論述することを期待する。

科目修了試験

■評価基準

- ・ 課題について基本事項を理解し、必要な用語や概念を用いた作成をしているか。
- ・ 十分な記述文量を確保し、自分の考察を加えているかどうか。

精神保健福祉制度論

科目コード

CT3187



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	菅原 好秀

科目の概要

■科目の内容

「精神保健福祉法と社会保障制度」「更生保護制度と医療観察制度」を中心に学びます。特に、制度として精神障害者の支援に関連する制度、更生保護制度における関係機関や団体との連携、医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割について、現状を踏まえて理解することを目標とします。

■到達目標

- 1) 精神保健福祉の制度概要について説明することができる。
- 2) 精神保健福祉の視点から、医療観察制度の制度趣旨と問題点について説明することができる。
- 3) 精神保健福祉法の各入院制度の活用法を説明できる。
- 4) 障害者の人権について理解して説明することができる。

■教科書(1)は「権利擁護を支える法制度」と共通)

- 1) 渡辺信英著『更生保護制度 改訂新版』南窓社、2018年
- 2) 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『精神保健福祉士養成セミナー6 (第6版)、へるす出版、2017年

※1)の教科書は、「権利擁護を支える法制度」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。
(スクーリング時の教科書) 上記教科書を使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「ICT活用力」「問題解決力」「社会公権力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%+スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■参考図書

- 1) 菅原好秀著『権利擁護論』建帛社、2022年
- 2) 菅原好秀編著『福祉ライブラリ 福祉法学 第2版』建帛社、2020年
- 3) 菅原好秀著『リスクマネジメントと法』建帛社、2020年

■事前に学習してほしい科目

「権利擁護を支える法制度」「刑事司法と福祉」「法の基礎」「福祉リスクマネジメント」をできれば事前に学習してください。

■履修登録条件

この科目は、「権利擁護を支える法制度」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

精神障害者は、あらゆる機会において差別対象とされ、偏見の犠牲になる可能性が高い。そのため、福祉の共通課題である人権の擁護あるいは保護が精神障害者福祉の課題といえます。

本講義では、精神障害者にとって、今日よりよく生きるために求められているのは何であり、そこにどのような法的問題が存在し、それに伴う権利擁護の問題の現状を明らかにし、これらの状況に対応するための権利擁護システム、特に更生保護の視点を踏まえた精神保健福祉に関する法的視点について学んでいきます。また、精神障害者に関して問題となった事例につき、判例の見解を踏まえて具体的な問題点を学んでいきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	精神保健福祉法の意義と内容	精神保健福祉法の意義と入院形態について
2	更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係	社会処遇と精神障害者の犯罪について
3	更生保護制度における関係機関や団体との連携	保護観察、BBS会、更生保護女性会、協力雇用主について
4	医療観察制度の概要	医療観察制度の手続きについて
5	医療観察制度の現状と課題	医療観察制度の現実的な問題点について
6	精神障害者の現状	精神障害者の生活実態について
7	精神障害者と権利擁護	精神障害者の権利擁護を支える法制度について
8	精神障害者の今後の課題	精神障害者の生活支援システムについて
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

板書を中心に、教科書も用いながら進めます。しっかりと講義を聴き、ノートをとるようにしてください。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20％）とスクーリング試験（80％）で評価する。スクーリング試験は持込可（携

帯やパソコンなどの電子機器は除く)とする。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

事前に教科書を読んでわからないところとわかるところをある程度、分類把握し、できれば渡辺信英著『更生保護制度（付）社会福祉士・精神保健福祉士の法学問題とその対策』（南窓社）などで、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の法学の問題をチェックしておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	精神保健福祉法の意義と内容	精神保健福祉法の意義と内容について学びます。	精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷、精神保健福祉法の内容について説明できることが重要です。
2	精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割	精神保健福祉法における精神保健福祉士の意義について学びます。	精神保健福祉士の意義と役割について説明できることが重要です。
3	精神保健福祉法の入院形態	精神保健福祉法の入院形態について学びます。	任意入院、医療保護入院、応急入院、措置入院、緊急措置入院について説明できることが重要です。
4	障害者総合支援法	障害者総合支援法の制度概要について学びます。	障害者総合支援法の制度趣旨、目的、内容について説明できることが重要です。
5	障害者総合支援法の現状と課題	障害者総合支援法の現状と課題について学びます。	障害者総合支援法の現状と課題をふまえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
6	精神保健福祉に関する行政組織	精神保健福祉に関する行政組織について学びます。	保健福祉行政の特徴について理解することが重要です。
7	精神保健福祉と更生保護制度	精神保健福祉と更生保護制度の関係性について学びます。	更生保護制度を精神保健福祉の視点から説明できることが重要です。
8	医療観察制度と更生保護制度	医療観察制度と更生保護制度の関係性について学びます。	医療観察制度創設の経緯と背景、概要、目的について説明できることが重要です。
9	医療観察制度の現状と課題	医療観察制度の現状と課題について学びます。	医療観察制度の現状と課題をふまえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
10	介護保険制度	介護保険制度について学びます。	介護保険制度の概要、介護保険給付の概要について説明できることが重要です。
11	精神障害者の生活実態	精神障害者の生活実態について学びます。	精神障害者の生活実態を現実的視点から説明できることが重要です。
12	精神障害者の居住支援	精神障害者の居住支援について学びます。	精神障害者の住居、居住形態、課題について説明できることが重要です。
13	精神障害者と雇用・就労	精神障害者と雇用・就労について学びます。	精神障害者の一般雇用制度、労働保険制度、福祉的就労について説明できることが重要です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援システムについて学びます。	精神障害者の生活支援の基本的考え方、生活支援システムの制度について説明できることが重要です。
15	社会調査の意義・目的	社会調査を活用した実践活用の例について学びます。	社会調査の方法と活用、ICTの活用方法について説明できることが重要です。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	精神保健福祉の視点から更生保護制度の概要を論じてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

よく読んで理解した上で、自分なりに整理してレポートを書いてください。また引用文献、参考文献は必ず明示してください。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

更生保護制度の保護観察、仮釈放、更生緊急保護、被害者等が関与する制度を中心に精神障害者に関する事例を挙げて言及してください。また、覚せい剤事犯者、ギャンブル依存症の対策について精神保健福祉の視点から具体的に言及してください。

科目修了試験

■評価基準

当該科目の内容理解がなされているかが重要であり、論述の分量（1問あたり400～800字程度）も評価対象となります。また、法の制度趣旨、意義を述べた上で、現実との関連から自分なりの視点から述べられていることも評価の対象となります。

通信教育で学ぶことを決意されたみなさまは、多くの本を読み、知識として得たこと、自ら考えたことを「レポート」という形にまとめていくことが、これからの学習活動の中心になります。

この『レポート課題集』は、一般の大学の授業と同じ働きをするものです。その科目で何を学んでほしいかの「科目の内容」、レポート課題に取り組むにあたっての「アドバイス」などには、担当の先生方からみなさまへのメッセージが込められています。

今後学習を進めていくなかで、時には本の内容がまったく頭に入らなかったり、レポート用紙を前に何を書けばよいかとまどったりすることがあるかもしれません。そんなときは、ちょっと一休みしたあと、この『レポート課題集』のなかにある担当の先生方からのアドバイスをもう一度読んで、取り組みやすそうな課題から再び学習を始めてください。

学問って難しそうに感じることもありますが、人間が考えたことです。必ず理解できるはずですよ。どうしてもわからないときは、「質問票」を使って担当の先生に質問をすることもできます。

みなさまがこの『レポート課題集』を存分に活用し、学習を順調に進めていかれることを願っています。

レポート課題集 2022 A - II 社福・精保指定科目編

2022年3月25日 初版発行

発行 東北福祉大学通信教育部
〒983-8511 仙台市宮城野区榴岡2-5-26
電話022-292-8011 <http://www.tfu.ac.jp/tushin>
印刷・製本 (株)ホクトコーポレーション

©Tohoku Fukushi University 2022 Printed in Japan

本書の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。



東北福祉大学 通信教育部
TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY